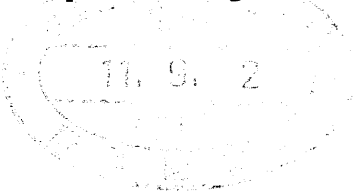




お茶の水女子大学学报



平成 11 年 7 月 1 日

お茶の水女子大学庶務課

目 次

◇ 学 内 規 則	2	◎ 新任教官研修会	113
◎ お茶の水女子大学スペース・コラボレーション・システム事業運営委員会規程の一部を改正する規程	2	◎ 歴史資料室の開室	114
◎ お茶の水女子大学情報処理センター規程の一部を改正する規程	3	◎ 平成11年度第15回国立大学情報処理センター協議会総会	115
◎ お茶の水女子大学毒物及び劇物管理細則	4	◎ 北京語言文化大学副学長の表敬訪問	116
◎ お茶の水女子大学歴史資料室規程	8	◎ セントポール大学長の表敬訪問	116
◇ 人 事	9	◎ 平成11年度福利厚生事業スケジュール	117
◇ 学 事	14	◇ 日 誌	118
◎ 平成12年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士後期課程）学生募集要項	14		
◎ 平成12年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士後期課程）外国人留学生募集要項	41		
◎ 平成12年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士前期課程）学生募集要項	53		
◎ 平成12年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士前期課程）外国人留学生募集要項	84		
◇ 諸 報	99		
◎ 名誉教授の称号授与	99		
◎ 研 修	102		
◎ 海外渡航	103		
◎ 平成11年度科学研究費補助金配分決定一覧	105		
◎ 大学改革に関する講演会	112		

学内規則

○平成11年お茶の水女子大学規則第22号

お茶の水女子大学スペース・コラボレーション・システム事業運営委員会規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成11年5月26日

お茶の水女子大学長 佐藤 保

お茶の水女子大学スペース・コラボレーション・システム事業運営委員会規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学スペース・コラボレーション・システム事業運営委員会（平成10年4月22日制定）の一部を次のように改正する。

題名中「事業運営委員会」を「運営委員会」に改める。

第1条中「お茶の水女子大学におけるスペース・コラボレーション・システム事業（以下「SCS事業」という。）を「お茶の水女子大学（以下「本学」という。）に、スペース・コラボレーション・システム（以下「SCS」という。）に、「事業運営委員会」を「運営委員会」に改める。

第2条本文中「委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。」を「委員会は、本学と他の大学、高等専門学校及び大学共同利用機関が衛星通信による映像交換を中心とした大学等間ネットワークを活用し、高度情報化社会にふさわしい教育・研究利用を推進するため、次の各号に掲げる事項を審議する。」に改め、同条各号中「SCS事業」を「SCS」に改める。

第8条の次に次の1条を加える。

（雑則）

第9条 この規程に定めるもののほか、SCSの実施に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成11年5月26日から施行する。

○平成11年お茶の水女子大学規則第23号

お茶の水女子大学情報処理センター規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成11年5月26日

お茶の水女子大学長 佐藤 保

お茶の水女子大学情報処理センター規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学情報処理センター規程（昭和63年7月13日制定）の一部を次のように改正する。

第5条第1項第3号中「20」を「22」に改める。

附 則

1. この規程は、平成11年5月26日から施行する。
2. この規程の施行後平成12年9月30日までの間に任命されるセンター員の任期は、第6条第1項の規定にかかわらず、平成12年9月30日までとする。

○平成11年お茶の水女子大学規則第24号

お茶の水女子大学毒物及び劇物管理細則を次のように定める。

平成11年5月26日

お茶の水女子大学長 佐藤 保

お茶の水女子大学毒物及び劇物管理細則

第1条 この細則は、お茶の水女子大学毒物及び劇物管理規則（以下「規則」という。）第8条第1項の規定に基づき、毒物等及び教育研究のために使用する試薬類について、盗難、紛失、悪用及び誤用等による保健衛生上の危害を未然に防止するため、管理の詳細について定めるものとする。

第2条 毒物等管理担当者は、別表のⅠに掲げる毒物及び特に管理を強化すべき別表のⅡに掲げる特定毒物を購入、使用又は廃棄する際は、毒物管理簿に必要事項を記入し適正な保管及び管理に努めるものとする。

第3条 毒物等管理担当者は、特に管理を強化すべき別表のⅢに掲げる劇物及び別表のⅣに掲げる試薬類を購入、使用又は廃棄する際は、劇物管理簿に必要事項を記入し適正な保管及び管理に努めるものとする。

2 別表のⅢに掲げる劇物以外の規則で定める劇物及び別表のⅣに掲げる試薬類以外の試薬類を購入又は廃棄する際は、その都度、発注年月日、劇物（試薬）名、規格及び数量（製造会社名、規格、重さ、容量等）、発注者、納入日（廃棄日）を記録し、適正な保管及び管理に努めるものとする。

第4条 毒物等管理担当者は、第2条及び第3条に該当するもの以外で研究・教育の過程において新たに合成された特に管理を強化すべきと判断した新規物質は、第2条又は第3条と同様に取り扱うものとする。

第5条 毒物等及び試薬類の適正な管理を行うため、毒物等管理責任者間において協議のうえ別表の見直しを行い、必要に応じ改正するものとする。

附 則

この細則は、平成11年5月26日から施行する。

別表

I. 毒物（毒物及び劇物取締法別表第1）

- 1 エチルパラニトロフェニルチオベンゼンホスホネート（別名E P N）
- 2 黄燐
- 3 オクタクロロテトラヒドロメタノフタラン
- 4 オクタメチルピロリン酸アミド（別名シユラーダン）
- 5 クラーレ
- 6 四アルキル鉛
- 7 シアン化水素
- 8 シアン化ナトリウム
- 9 ジエチルパラニトロフェニルチオホスフェート（別名パラチオン）
- 10 ジニトロクレゾール
- 11 2,4-ジニトロ-6-(1-メチルプロピル)-フェノール
- 12 ジメチルエチルメルカプトエチルチオホスフェート（別名メチルジメトン）
- 13 ジメチル-(ジエチルアミド-1-クロロクロトニル)-ホスフェート
- 14 ジメチルパラニトロフェニルチオホスフェート（別名メチルパラチオン）
- 15 水銀
- 16 セレン
- 17 チオセミカルバジド
- 18 テトラエチルピロホスフェート（別名TE P P）
- 19 ニコチン
- 20 ニッケルカルボニル
- 21 砒素
- 22 フッ化水素
- 23 ヘキサクロロエポキシオクタヒドロエンドジメタノナフタレン（別名エンドリン）
- 24 ヘキサクロロヘキサヒドロメタノベンゾジオキサチエピンオキシド
- 25 モノフルオロ酢酸
- 26 モノフルオロ酢酸アミド
- 27 硫化燐
- 28 前各号に掲げる物のほか、前各号に掲げる物を含有する製剤その他の毒性を有する物であって政令で定めるもの

II. 特定毒物（細則第1条に基づき特に管理を強化すべき毒物）

- 1 オクタメチルピロリン酸アミド
- 2 四アルキル鉛
- 3 ジエチルパラニトロフェニルチオホスフェート
- 4 ジメチルエチルメルカプトエチルチオホスフェート
- 5 ジメチル-(ジエチルアミド-1-クロロクロトニル)-ホスフェート
- 6 ジメチルパラニトロフェニルチオホスフェート
- 7 テトラエチルピロホスフェート

Ⅲ. 劇物（細則第1条に基づき特に管理を強化すべき劇物）

- 1 2-イソプロピル-4-メチルピリミジル-6-ジエチルチオホスフェート
（別名ダイアジノン）
- 2 エチル-*N*-(ジエチルジチオホスホリルアセチル)-*N*-メチルカルバメート
- 3 塩化第一水銀
- 4 クロロピクリン
- 5 ケイフッ化水素酸
- 6 ジエチル-4-クロロフェニルメルカプトメチルジチオホスフェート
- 7 ジエチル-(2,4-ジクロロフェニル)-チオホスフェート
- 8 ジエチル-2,5-ジクロロフェニルメルカプトメチルジチオホスフェート
- 9 ジクロロブチン
- 10 2,3-ジ-(ジエチルジチオホスホロ)-パラジオキサン
- 11 2,4-ジニトロ-6-シクロヘキシルフェノール
- 12 2,4-ジニトロ-6-(1-メチルプロピル)-フェニルアセテート
- 13 2,4-ジニトロ-6-メチルプロピルフェノールジメチルアクリレート
- 14 2,2-ジピリジリウム-1,1-エチレンジプロミド
- 15 3,5-ジプロモ-4-ヒドロキシ-4-ニトロアゾベンゼン
- 16 ジメチルエチルスルフィニルイソプロピルチオホスフェート
- 17 ジメチルエチルメルカプトエチルジチオホスフェート（別名チオメトン）
- 18 ジメチル-2,2-ジクロロビニルホスフェート（別名DDVP）
- 19 ジメチルジチオホスホリルフェニル酢酸エチル
- 20 ジメチルジプロモジクロロエチルホスフェート
- 21 ジメチルフタリルイミドメチルジチオホスフェート
- 22 ジメチルメチルカルバミルエチルチオエチルオホスフェート
- 23 ジメチル-(*N*-メチルカルバミルメチル)-ジチオホスフェート（別名ジメトエート）
- 24 ジメチル-4-メチルメルカプト-3-メチルフェニルチオホスフェート
- 25 ジメチル硫酸
- 26 硝酸タリウム
- 27 スルホナール
- 28 テトラエチルメチレンビスジチオホスフェート
- 29 トリエタノールアンモニウム-2,4-ジニトロ-6-(1-メチルプロピル)-フェノラート
- 30 トリクロロヒドロキシエチルホスホン酸ジメチル
- 31 トリチオシクロヘプタジエン-3,4,6,7-テトラニトリル
- 32 ピクリン酸。ただし、爆発薬を除く。
- 33 プラストサイジンS
- 34 ヘキサクロロエポキシオクタヒドロエンドエキソジメタノナフタレン（別名ディルドリン）
- 35 1,2,3,4,5,6-ヘキサクロロシクロヘキサン
- 36 ヘキサクロロヘキサヒドロジメタノナフタレン（別名アルドリン）

- 37 1,4,5,6,7,8,8-ヘプタクロロ-3a,4,7,7a-テトラヒドロ-4,7-メタノ-1*H*-インデン
(別名ヘプタクロール)
- 38 ペンタクロロフェノール (別名PCP)
- 39 メチルスルホナール
- 40 *N*-メチル-1-ナフチルカルバメート
- 41 硫酸タリウム
- 42 ヨウ化タリウム
- 43 リン化亜鉛
- 44 ロテノン

IV. 試薬類 (細則第1条に基づき特に管理を強化すべき試薬類)

- 1 アジ化ナトリウム
- 2 ベンジジンおよびその塩
- 3 4-アミノジフェニルおよびその塩
- 4 4-ニトロジフェニルおよびその塩
- 5 ビス(クロロメチル)エーテル
- 6 β -ナフチルアミンおよびその塩
- 7 ジクロロベンジジンおよびその塩
- 8 α -ナフチルアミン
- 9 ポリ塩素化ビフェニル (別名PCB)
- 10 *o*-トルイジンおよびその塩
- 11 アコニチン
- 12 ストリキニーネ
- 13 プルシン
- 14 メタンスルホン酸エチル
- 15 メタンスルホン酸メチル
- 16 ダイオキシシン類

- 平成11年お茶の水女子大学規則第25号
お茶の水女子大学歴史資料室規程を次のように定める。
平成11年6月25日

お茶の水女子大学長 佐藤 保

お茶の水女子大学歴史資料室規程

(設置)

第1条 お茶の水女子大学(以下「本学」という。)に、お茶の水女子大学歴史資料室(以下「歴史資料室」という。)を置く。

(目的)

第2条 歴史資料室は、本学に関わる教育・研究関係資料等を公開・展示することにより、教育・研究に資することを目的とする。

(展示資料)

第3条 歴史資料室に展示する資料は、附属学校園を含む本学の歴史や女子高等教育の歴史に関する資料、教育・研究活動の過程で生じる資料で、展示することが相応しいと認められるものとする。

(運営)

第4条 歴史資料室の運営に関する事項の審議は、お茶の水女子大学大学資料委員会(以下「大学資料委員会」という)に付託するものとする。

(特別展示)

第5条 大学資料の有効活用を図る視点から、歴史資料室で特別展示を行う場合は、大学資料委員会に申し出るものとし、大学資料委員会が必要であると認めた場合に限り実施することができるものとする。

(その他)

第6条 この規程に定めるもののほか、歴史資料室の運営に関し必要な事項は、大学資料委員会が別に定めるものとする。

附 則

この規程は、平成11年6月25日から施行する。

人 事

○人事異動

発令年月日	氏 名	官 職 等	異動前の所属・職名
◇ 転 任			
11. 6. 1 "	石川千一 前島謙	東京学芸大学施設課電気係長 施設課設備係長	施設課設備係長 茨城大学施設課電気係長
◇ 復 職			
11. 6. 1	河野暢子	職務復帰	庶務課
◇ 臨時的任用			
11. 6. 1	鈴木智美	平成11年5月31日限り任期満了退職	庶務課

◎非常勤講師

発令年月日	氏 名	官 職 等	任 期	備 考
◇ 採 用				
11. 5. 1	沼田宏行	講 師 (大学院人間文化研究科)	12. 3. 31	
11. 6. 1	佐藤昭夫	" (生活科学部)	"	
11. 6. 23	リサ・ナイト	" (附属中学校)	"	
◇ 併 任				
11. 5. 1	岡村道雄	講 師 (文教育学部)	11. 9. 30	文化庁主任文化財調査官
"	谷田貝麻美子	" (生活科学部)	12. 3. 31	千葉大学助教授
"	金谷利治	" (大学院人間文化研究科)	11. 9. 30	京都大学助教授
"	佐々真一	" "	"	東京大学助教授

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
11. 5. 25	穂子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	12. 2. 29	
"	美雅	"	"	
"	直子	"	"	
"	洋子	"	"	
"	聡子	"	"	
"	美帆	"	"	
"	真佐美	"	"	
"	初江	"	11. 9. 30	
"	央由	"	"	
"	玲子	"	"	
"	鳳英	"	12. 2. 29	
"	香佳	"	"	
"	理美	"	"	
"	登玲	"	"	
"	香子	"	11. 9. 30	
"	紀裕	"	"	
"	美智	"	"	
"	成子	リサーチ・アシスタント	12. 2. 29	
"	信梨	"	12. 3. 31	
11. 6. 1	野中	事務補佐員 (学生部)	"	
"	口葉	"	"	
"	さお	"	"	
"	淑子	教務補佐員 (文教育学部)	"	
"	和子	(生活科学部)	11. 9. 30	
"	もゆ	"	12. 3. 31	
"	乃嘉	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	12. 2. 29	
"	博子	"	"	
"	美子	"	"	
"	浩子	"	"	
"	理子	"	"	
"	和子	"	"	
"	里子	"	"	
"	孝卿	"	"	
"	沙織	"	"	
"	聖子	"	"	
"	幸子	"	"	
"	朋子	"	"	
"	薫子	"	"	
"	慶子	"	"	
"	万里	"	"	
"	直子	"	"	
"	紀子	"	"	
"	あや	"	"	
"	たま	"	"	
"	和代	"	"	
"	子江	"	11. 9. 30	
"	織子	"	12. 2. 29	
"	子保	"	"	
"	志靖	"	"	
"	秀子	"	11. 9. 30	
"	清美	"	12. 2. 29	
"	利乙	"	"	
"	恵記	"	"	

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
11. 6. 1	坂本有芳	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	12. 2. 29	
"	川上裕子	"	"	
"	高松聡花	"	"	
"	福田聖子	"	11. 9. 30	
"	稲田七海	"	"	
"	西村真清	"	"	
"	木原智子	"	"	
"	谷川康代	"	"	
"	浦島敦子	"	"	
"	中黒恭子	"	"	
"	小林真寿美	"	12. 2. 29	
"	中瀬智子	"	11. 9. 30	
"	村真弓	"	"	
"	三好梨沙	"	"	
"	伊藤幸子	"	"	
"	都甲由紀	"	"	
"	竹野内寿美	"	12. 2. 29	
"	田所優子	"	"	
"	田辺真由美	"	"	
"	津本裕子	"	11. 9. 30	
"	辻野史子	"	"	
"	小瀬村暁子	"	12. 2. 29	
"	佐々木加代	"	"	
"	山本登志江	"	11. 9. 30	
"	有馬敦子	"	"	
"	古林亜希子	"	12. 2. 29	
"	白井由紀	"	11. 9. 30	
"	津田聡美	"	12. 2. 29	
"	長谷川幸江	"	"	
"	中古澤彩子	"	11. 9. 30	
"	清濱千晶	"	"	
"	小鷹恵利香	"	"	
"	飯室瑞枝	"	"	
"	石川彩子	"	"	
"	大山領子	"	"	
"	土井久代	"	"	
"	川口綾子	"	"	
"	谷本光希	"	"	
"	福田有子	"	12. 2. 29	
"	原中涼子	"	11. 9. 30	
"	諸井敬ゆき	"	"	
"	杉本美香	"	"	
"	佐藤裕子	"	"	
"	青木美美子	"	12. 2. 29	
"	織田友恵	"	11. 9. 30	
"	岩川麻紀	"	"	
"	東多恵子	"	"	
"	多胡綾花	"	"	
"	細田理佐	"	12. 2. 29	
"	岡井美也	リサーチ・アシスタント	12. 3. 31	
"	齋美智子	"	"	

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
11. 6. 1	森下雅子	リサーチ・アシスタント (大学院人間文化研究科)	12. 3. 31	
"	池田まさみ	" "	"	
"	大島知佐子	" "	"	
"	大室純子	" "	"	
"	成田千恵か	" "	"	
"	足立にれか	" "	"	
"	中村弥生	" "	"	
◇ 退職				
11. 5. 31	中富節子	事務補佐員 (文教育学部)		
"	倉持幸恵	" "		
11. 6. 25	塚本由香	教務補佐員		

学 事

○平成12年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士後期課程） 学生募集要項

1. 専攻別募集人員・試験期日

専攻名	募集人員	試験期日	
		9月入試	3月入試
比較社会文化学専攻	18名	実施しない	平成12年3月6日～8日
国際日本学専攻	11名		
人間発達科学専攻	15名		
人間環境科学専攻	16名	平成11年9月20日～21日	
複合領域科学専攻	13名		

※ 募集人員には、進学者が含まれる。

2. 出願資格

下記に該当する女子とする。

- (1) 修士の学位を有する者（平成11年9月・12年3月に修士の学位を取得見込みの者を含む。）
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により修士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
- (5) 本研究科において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

3. 出願期間・選考期日・合格発表・願書受付場所

	9月入試	3月入試
出願期間 ※	平成11年 8月24日（火）～8月27日（金）	平成12年 2月1日（火）～2月4日（金）
言語試験	9月20日（月）	3月6日（月）
口述試験	9月20日（月）～9月21日（火）	3月6日（月）～3月8日（水）
合格発表 ☆	9月28日（火）	3月13日（月）

※ 受付時間 午前9時～11時30分 午後1時～3時（郵送の場合は、締切日までの消印有効）
持参の場合は、出願用封筒に書類を一括し、提出のこと。（後日、受験票等を送付する。）

☆ 12時頃に人間文化研究科棟1階公示板に合格者の受験番号を掲示する。
合格通知書は、人間文化研究科事務室で受験票を確認の上、交付する。（合格者の代理人でも差し支えない。）なお、当日、受領できない者については郵送する。

注1）本学の博士前期課程・修士課程に在籍する学生（平成11年9月修了見込みの者も含む。）
及び「複合領域科学専攻」については、口述試験のみとし、言語試験は行わない。

注2) 出願資格(5)に該当する者の出願期間は、次のとおりとする。

9月入試 : 平成11年8月18日(水) ~ 8月20日(金)

3月入試 : 平成12年1月26日(水) ~ 1月28日(金)

注3) 口述試験は、本学で指定する日時とする。(後日、試験日程等を送付する。)

4. 出願手続・試験時間割・試験場所・選考方法

詳細については、各専攻ごとに定めてあるので参照のこと。

5. 検定料、入学料及び授業料

検定料 30,000円 [平成11年9月・平成12年3月に本学人文科学研究科、及び人間文化研究科博士前期課程修了・修了見込者は不要]

入学料 277,000円 [平成11年9月・平成12年3月に本学人文科学研究科、及び人間文化研究科博士前期課程修了・修了見込者は不要]

授業料 469,200円(年額) [但し、平成11年9月・平成12年3月に大学院修士課程(博士前期課程)を修了し、本研究科に入学する者については、修士課程(博士前期課程)に入学した年度の額とする]

注1) 検定料については、「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。
出願手続きの際に納付すること。

注2) 出願資格(5)に該当する者についての検定料の納付手続きは、本学からの出願資格認定通知書を受理した日から一週間以内に行うこと。

6. 注意事項

- (1) 同一入試日程では、2専攻に出願することはできない。
- (2) 出願手続き後は、いかなる事情があっても、書類の変更及び検定料の払い戻しの要求には応じない。
- (3) 出願について、不明な点がある場合には、人間文化研究科事務室(下記の電話番号)に問い合わせられたい。
- (4) 合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。

7. 入学手続

- (1) 入学手続関係書類は、平成12年3月中旬に郵送する。なお、修士課程在学者は、修士の学位を取得した者について入学を認める。

願書受付場所: お茶の水女子大学 人間文化研究科棟2階事務室

平成11年6月

お茶の水女子大学
〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号
TEL (03) 5978-5821~2

比較社会文化学専攻

1. 募集人員 18名

2. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入 学 願 書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修 士 論 文 等	
	修 士 論 文	
	<p>2部</p> <p>ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合はそれを添付することができる。修士論文以外に別主題について論文がある場合は、修士論文に代えてその論文を審査の対象とすることができる。</p> <p>提出論文は、試験終了時に返却する。</p> <p>※修士論文をもたない場合は、これに代わるものを提出すること。</p>	
	修士論文（主論文）の要旨（修士論文に代わるものの要旨）	
	<p>6部</p> <p>2,000字以内、横書き、A4版用紙3枚以内（図表を含む。）におさめること。</p>	
	研 究 計 画 書	
	<p>6部</p> <p>1,000字前後、横書き、A4版用紙2枚以内におさめること。</p>	
4	調 査 書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。（本学所定の用紙）
5	健 康 診 断 書	本学所定の用紙
6	返 信 用 封 筒	本学所定の封筒（長形3号）に宛名を明記し360円切手を貼付すること。（後日、受験票と口述試験日程等を送付する。）

注1) これらの書類の他に、指導教官またはそれに準ずる者が作成した推薦書（本学所定の用紙）を提出することができる。

注2) 修士論文等は、日本語以外の言語で作成したものについては、5000字以上の日本語要約を添付すること。

注3) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

注4) 入学願書の志望指導教官名の欄に、第一志望の指導教官名と第二志望の指導教官名を記入することが望ましい。

なお、出願に際しては、予め、志望する指導教官の専門と合致しているか確かめておくことができる。

(2) 出願方法

出願用封筒に書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、郵送する場合は書留速達とし、出願用封筒に書類を一括し、郵送のこと。

(出願期間締切日までの消印有効)

3. 試験時間割及び試験場所

試験科目	【言語試験】	【口述試験】
試験日時	平成12年3月6日(月) 10:30 ~ 11:50	3月6日(月) 13:30 ~ 7日(火) 8日(水) 10:00 ~
比較社会論講座 国際文化論講座 表象芸術論講座	英語・独語・仏語・中国語 から1言語を選択	主論文及び研究計画
科学文化論講座	英語	

注1) 言語試験で、選択する言語を入学願書に記入すること。

注2) 言語試験において、辞書の使用は、認めない。

注3) 口述試験は、本学で指定する日時とする。(後日、試験日程等を送付する。)

試験場所： お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

4. 選考方法

入学者の選考は、学力検査(言語試験、口述試験)及び出願書類を総合して行う。

国 際 日 本 学 専 攻

1. 募集人員 11名

2. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入 学 願 書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修 士 論 文 等	
	修 士 論 文	
	<p>2 部</p> <p>ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合はそれを添付することができる。修士論文以外に別主題について論文がある場合は、修士論文に代えてその論文を審査の対象とすることができる。</p> <p>提出論文は、試験終了時に返却する。</p> <p>※修士論文をもたない場合は、これに代わるものを提出すること。</p>	
	修士論文（主論文）の要旨（修士論文に代わるものの要旨）	
	<p>6 部</p> <p>2,000字以内、横書き、A4版用紙3枚以内（図表を含む。）におさめること。</p>	
	研 究 計 画 書	
	<p>6 部</p> <p>1,000字前後、横書き、A4版用紙2枚以内におさめること。</p>	
4	調 査 書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。（本学所定の用紙）
5	健 康 診 断 書	本学所定の用紙
6	返 信 用 封 筒	本学所定の封筒（長形3号）に宛名を明記し360円切手を貼付すること。（後日、受験票と口述試験日程等を送付する。）

注1) これらの書類の他に、指導教官またはそれに準ずる者が作成した推薦書（本学所定の用紙）を提出することができる。

注2) 修士論文等は、日本語以外の言語で作成したものについては、5000字以上の日本語要約を添付すること。

注3) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

注4) 入学願書の志望指導教官名の欄に、第一志望の指導教官名と第二志望の指導教官名を記入することが望ましい。

なお、出願に際しては、予め、志望する指導教官の専門と合致しているか確かめておくことができる。

(2) 出願方法

出願用封筒に書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、郵送する場合は書留速達とし、出願用封筒に書類を一括し、郵送のこと。

(出願期間締切日までの消印有効)

3. 試験時間割及び試験場所

試験科目	【言語試験】	【口述試験】
試験日時	平成12年3月6日(月) 10:30～11:50	3月6日(月)13:30～ 7日(火)8日(水)10:00～
総合日本学講座 日本分析論講座 応用日本言語論講座	英語・独語・仏語・中国語 から1言語を選択	主論文及び研究計画

注1) 言語試験で、選択する言語を入学願書に記入すること。

注2) 言語試験において、辞書の使用は、認めない。

注3) 口述試験は、本学で指定する日時とする。(後日、試験日程等を送付する。)

試験場所： お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

4. 選考方法

入学者の選考は、学力検査(言語試験、口述試験)及び出願書類を総合して行う。

人 間 発 達 科 学 専 攻

1. 募集人員 15名

2. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入 学 願 書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修 士 論 文 等	
	修 士 論 文	
	2部 ただし、修士論文を補足する研究成果がある場合はそれを添付することができる。 あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合は、それを修士論文にかえて審査の対象とすることができる。	
	※ 修士論文をもたない場合は、これに相当するものを提出すること。 提出論文は、試験終了時に返却する。	
	修士論文（主論文）の要旨（修士論文に相当するものの要旨）	
	6部 2,000字以内、横書き、A4版用紙3枚以内（図表を含む。）におさめること。	
	研究計画書	
	6部 1,000字前後、横書き、A4版用紙2枚以内におさめること。	
4	調 査 書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。（本学所定の用紙）
5	健康診断書	本学所定の用紙
6	返信用封筒	本学所定の封筒（長形3号）に宛名を明記し360円切手を貼付すること。（後日、受験票と口述試験日程等を送付する。）

注1) これらの書類の他に、指導教官またはそれに準ずる者が作成した推薦書（本学所定の用紙）を提出することができる。

注2) 修士論文等は、日本語以外の言語で作成したものについては、5000字以上の日本語要約を添付すること。

注3) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

注4) 出願に際しては、予め、志望する指導教官またはその指導教官が所属する講座代表の教官に問い合わせておくことが望ましい。講座代表教官については、21～22ページの人間発達科学専攻の「担当教官及び主な授業科目」一覧を参照のこと。
また、入学願書の志望指導教官名の欄に、第一志望の指導教官名と第二志望の指導教官名を記入することが望ましい。

(2) 出願方法

出願用封筒に書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。
なお、郵送する場合は書留速達とし、出願用封筒に書類を一括し、郵送のこと。
(出願期間締切日までの消印有効)

3. 試験時間割及び試験場所

試験科目	【言語試験】	【口述試験】
試験日時	平成12年3月6日(月) 10:30～11:50	3月6日(月)13:30～ 7日(火)8日(水)10:00～
発達基礎論講座 発達臨床論講座 発達社会環境論講座 ジェンダー論講座	英語	主論文及び研究計画

注1) 言語試験において、辞書の使用は認めない。

注2) 口述試験は、本学で指定する日時とする。(後日、試験日程等を送付する。)

試験場所： お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

4. 選考方法

入学者の選考は、学力検査(言語試験、口述試験)及び出願書類を総合して行う。

人 間 環 境 科 学 専 攻

1. 募集人員 16名

2. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入 学 願 書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修 士 論 文 等	
	A	B
	{ ①修士課程を修了した者 ②修士課程を修了見込みの者 }	{ 修士課程に在学し9月試験を 受験する者 }
	修 士 論 文	修士論文に代わるもの
	2部 ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合、あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合はその論文を審査論文とすることができる。 なお、修士論文をもたない場合は、これに代わるものを審査論文として提出すること。 いずれの場合も審査論文が、日本語あるいは英語で書かれていないときは、 日本語 5,000字程度 または 英語 2,000語程度 の概要を添付すること。（A4版用紙） 提出論文は、試験終了時に返却する。	6部 修士論文として提出する予定の研究内容を 日本語 5,000字程度 または 英語 2,000語程度 にまとめること。（A4版用紙） ただし、図表は字数には含まれない。 なお、公表された研究成果があればそれを添付することができる。
	修士論文（審査論文）の要旨	
	6部 修士論文を審査論文とした場合、要旨が日本語で書かれていないときは、日本語に翻訳して提出すること。 修士論文以外を審査論文とした場合、 要旨は 日本語 2,000字程度 または 英語 800語程度 で A4版用紙3枚以内（図表を含む）におさめること。	

3	研究計画書	研究計画書
	6部 日本語1,000字程度または英語400語程度で、A4版用紙2枚以内におさめること。	
4	調査書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。(本学所定の用紙)
5	健康診断書	本学所定の用紙
6	返信用封筒	本学所定の封筒(長形3号)に宛名を明記し360円切手を貼付すること。(後日、受験票と口述試験日程等を送付する。)

注1) これらの書類の他に、指導教官またはそれに準ずる者が作成した推薦書(本学所定の用紙)を提出することができる。

注2) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

注3) 出願に際しては、予め、志望する指導教官またはその指導教官が所属する講座代表の教官に問い合わせておくことが望ましい。講座代表教官については、23~25ページの人間環境科学専攻の「担当教官及び主な授業科目」一覧を参照のこと。
また、入学願書の志望指導教官名の欄に、第一志望の指導教官名と第二志望の指導教官名を記入することが望ましい。

(2) 出願方法

出願用封筒に書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、郵送する場合は書留速達とし、出願用封筒に書類を一括し、郵送のこと。

(出願期間締切日までの消印有効)

3. 試験時間割及び試験場所

試験科目	【言語試験】	【口述試験】
試験日時	1日目 10:30 ~ 11:50	1日目 13:30 ~ 2日目・3日目 10:00 ~
相関生命科学講座 生活システム科学講座 食環境科学講座	英語	主論文及び研究計画

注1) 言語試験において、辞書の使用は認めない。

注2) 口述試験は、本学で指定する日時とする。(後日、試験日程等を送付する。)

試験場所: お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

4. 選考方法

入学者の選考は、学力検査(言語試験、口述試験)及び出願書類を総合して行う。

複 合 領 域 科 学 専 攻

1. 募集人員 13名

2. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入 学 願 書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修士論文等	
	A	B
	{ ①修士課程を修了した者 ②修士課程を修了見込みの者 }	{ 修士課程に在学し9月試験を 受験する者 }
	修 士 論 文	修士論文に代わるもの
	2部 ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合、あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合はその論文を審査論文とすることができる。 なお、修士論文をもたない場合は、これに代わるものを審査論文として提出すること。 いずれの場合も審査論文が、日本語あるいは英語で書かれていないときは、 日本語 5,000字程度 または 英 語 2,000語程度 の概要を添付すること。(A4版用紙) 提出論文は、試験終了時に返却する。	6部 修士論文として提出する予定の研究内容を 日本語 5,000字程度 または 英 語 2,000語程度 にまとめること。(A4版用紙) ただし、図表は字数には含まれない。 なお、公表された研究成果があればそれを添付することができる。
	修士論文（審査論文）の要旨	
	6部 修士論文を審査論文とした場合、要旨が日本語で書かれていないときは、日本語に翻訳して提出すること。 修士論文以外を審査論文とした場合、要旨は 日本語 2,000字程度 または 英 語 800語程度 でA4版用紙3枚以内（図表を含む）におさめること。	

3	研究計画書	研究計画書
	6部 日本語1, 000字程度または英語400語程度で、A4版用紙2枚以内におさめること。	
4	調査書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。(本学所定の用紙)
5	健康診断書	本学所定の用紙
6	返信用封筒	本学所定の封筒(長形3号)に宛名を明記し360円切手を貼付すること。(後日、受験票と口述試験日程等を送付する。)

注1) これらの書類の他に、指導教官またはそれに準ずる者が作成した推薦書(本学所定の用紙)を提出することができる。

注2) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

注3) 出願に際しては、予め、志望する指導教官またはその指導教官が所属する講座代表の教官に問い合わせることが望ましい。講座代表教官については、26～27ページの複合領域科学専攻の「担当教官及び主な授業科目」一覧を参照のこと。
また、入学願書の志望指導教官名の欄に、第一志望の指導教官名と第二志望の指導教官名を記入することが望ましい。

(2) 出願方法

出願用封筒に書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、郵送する場合は書留速達とし、出願用封筒に書類を一括し、郵送のこと。

(出願期間締切日までの消印有効)

3. 試験時間割及び試験場所

試験科目	【口述試験】
試験日時	1日目 13:30～ 2日目・3日目 10:00～
社会情報科学講座 数理自然情報科学講座 物質科学講座 複雑系科学講座	主論文及び研究計画

注1) 口述試験は、本学で指定する日時とする。(後日、試験日程等を送付する。)

試験場所： お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

4. 選考方法

入学者の選考は、学力検査(口述試験)及び出願書類を総合して行う。

平成12年度 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士後期課程）概要

1. 目的

本学の博士後期課程は、女性研究者が高度の専門研究及び専門諸分野の基盤に立つ高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力を育成し、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

2. 標準修業年限 3年

3. 専攻及び入学定員

専攻名	比較社会文化学専攻	国際日本学専攻	人間発達科学専攻	人間環境科学専攻	複合領域科学専攻	合計
入学定員	18	11	15	16	13	73

4. 課程の修了

学生は、それぞれ専攻で定めた授業科目について所定の単位を修得し、かつ、学位論文審査並びに最終試験に合格しなければならない。

5. 取得できる学位

学術、人文科学、理学、社会科学又は生活科学の博士の学位である。

6. 各専攻及び博士講座の要旨

専攻名		講座名	要旨
比較 社会 文化 学 専 攻	社会と文化、科学の分野にわたる高度に学際的かつ総合的な研究を行い、人間文化の基礎理論の確立を目指すとともに、特に社会分析性、国際性、人文科学と自然科学の融合に視点をおいた研究・教育を行う。	比較社会論	社会分析的視点を大幅に強化し、社会構造の分析にとどまらない社会と文化の学際的・総合的な研究を行う。
		国際文化論	世界、特に欧米とアジアの文化を言語や文学、思想を中心として研究し、我が国における異文化理解を深める。
		表象芸術論	比較対照的な分析方法にかえて、芸術作品、芸術活動の国際性、社会性という視点からの分析を強化する。
		科学文化論	自然科学と人文科学の学際分野での研究・教育だけでなく哲学的視野をもった自然科学あるいは数理・情動的知識を背景にもつ人文科学など、高度に総合的な科学文化を追求する。

	専攻名	講座名	要 旨
国際 日 本 学 専 攻	古代から現代に至る日本の言語文化と社会に関する幅広い学問領域（日本文学、日本語教育、日本史学、地理学、舞踊学等）を結集し、学際的・総合的に研究・教育を行う。	総合 日本 学	文学・語学・美術・芸能などの諸分野の文化が個別に追求してきた課題を言語文化・生活文化・伝統文化などの概念のもとに史的展開を明らかにしつつ総合的に考究し、諸外国での研究成果を導入し、国際的視点を重視する。
		日本 分析 論	近現代における日本の社会・政治・経済・文化などをめぐる諸問題を分析し、その普遍性・特殊性を明らかにするとともに諸外国での研究成果を導入し、国際的視点を重視する。
		応用 日本 言語 論	多角的かつ総合的観点から日本語を中心にして研究を進め、その研究成果を応用して言語教育の方法を探究する。
人 間 発 達 科 学 専 攻	人間の心の発達と社会環境の発達に関わる幅広い学問領域を結集し、学際的・総合的に教育研究を行うとともに、その分野での社会的必要性の高い諸問題の解決を図る女性の研究者及び専門的職業人の育成を目指す。	発達 基礎 論	個体としての人間の発達だけでなく、「種」としての人間発達の特質も明らかにするために、個体発生上、系統発生上の比較考察を基礎として、併せて、歴史的思想的な比較考察を視野に入れて、胎児期・乳幼児期から老年期に至るまでの人間のライフコースとそれぞれの段階にみられる諸特徴、並びに発達要因の解明を目指す。
		発達 臨床 論	人間発達の生涯にわたるその諸段階を、メンタルヘルスの観点から臨床的に究明する。研究方法としては、日常的な観察や相談等の研究指導が不可欠であり、人間の生涯発達についての実践的な役割を担うものである。
		発達 社会 環境 論	人間の生涯にわたる発達は、生物学的・心理的側面を持つと同時に、家族、学校教育、諸生涯学習施設、職業集団をはじめとする諸集団など、広義の社会環境との相互作用の中で生起する現象である。こうした人間発達の社会・歴史・文化的環境との相互作用を、社会科学的観点から扱う。
		ジェ ン ダ ー 論	ジェンダー概念の成立史と現時点での理論的検討及び内外のジェンダーに関わる諸問題、実証的・政策的課題を、ジェンダー研究の視点から解明する。

	専攻名	講座名	要旨
人間環境科学専攻	人間は環境の主体であると同時に自然環境を構成する生物の一員でもある。この二面性、すなわち、人間を取り巻く自然環境の生物という基盤と、その上に築かれる人間生活という構造からなる。両者は、自然環境を媒介として、生命・生物という基盤部分が、人間・生活という上部組織と重なるという構造をもつ。全体として両者を統合しつつ人間と環境の調和を目指した研究・教育を行う。	<p> 相関生命科学 </p>	<p> 生命体としての人間そのものを明らかにすることを目的とする。高度に複雑な生命体の巨視的および微視的構造、機能、応答、情報処理、遺伝のメカニズムを、個体・細胞・分子レベルで解明する。 </p>
		<p> 生活システム科学 </p>	<p> 生活している人間とその環境との関係を明らかにし、かつ、その環境を人間にとって合理的、快適にするように設計・制御を行なうことを目的とする。生活空間内における人間／環境間の物質・エネルギーの交換、体表を通じての物理的・化学的・生理的刺激とその応答、快適性・安全性との関係などを、環境パラメータ・材料物性・人体生理の面から総合的に研究を行なう。 </p>
		<p> 食環境科学 </p>	<p> 老化・ストレス・過剰栄養摂取と食物の嗜好形成や安全性・資源問題を環境との相互関係の中で解明することを目的とする。人間の健康を維持するための栄養と食生活、食物嗜好の形成機構と性差から食資源の安全性や開発など食環境全般にわたる問題をバイオサイエンスも含む食物科学の手法で解明する </p>
複合領域科学専攻	人間が構成する社会とその産物である文化と歴史、人間を取り巻く自然を構成している物質及び生物、さらに自然と人間が織りなす世界の諸現象をマイクロ及びマクロな視点から捉え、現代自然科学の方法論を基礎に据えて学際融合的に研究・教育を行う。	<p> 社会情報科学 </p>	<p> 社会現象を情報科学の方法によって解析するとともに、情報の社会に及ぼす影響を動的に研究する。また、情報の伝播に伴う人間の存在様式の変動を基礎科学の方法論を踏まえつつ、人文・社会科学の視点をを用いてグローバルに解明する。 </p>
		<p> 数理自然情報科学 </p>	<p> 自然と情報とを双方向に研究する。すなわち、純粋数学それ自身の研究及び基礎科学共通の言語としての数学の研究を行うとともに、科学の諸分野への数理的方法論の適用、また応用分野の研究を行う。また情報理論的立場から自然現象に関する情報の解析と処理を行うとともに、自然との関連における情報科学の研究を行う。 </p>
		<p> 物質科学 </p>	<p> 現代物理学及び化学の方法を用いて、物質の構成要素である素粒子、原子核、原子、分子の性質を研究するとともに、それらの集合体である物質に固有の性質や多様な振る舞いを、マイクロ及びマクロな視点から解明する。 </p>
		<p> 複雑系科学 </p>	<p> 要素還元主義の視点からは捉えることの困難な複雑系の諸現象を、自然科学、ことに数理的視点を基礎にした統合的方法論によって研究する。自然界にみられる秩序相の生成、社会組織の生成と崩壊、生命現象のヒエラルキーの内部に見出される自己最適化と応答可塑性、意識の本質と創造性の問題等を、複雑系が内包する相互作用による自己組織化という視点を核に、学際融合的に研究する。 </p>

担当教官及び主な授業科目

【比較社会文化学専攻】

電話番号 03-5978-(0000)

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
比較社会論	比較社会分析論	※教授：天野正子 ☎(5171)	社会学(社会集団論、ジェンダー・スタディーズ) 学校・家庭・職場・政治領域でジェンダー関係が構成されていく過程に関する社会学的研究、及びボランティア・アクションをフィルターに市民社会と個の関係を探る研究。
	社会コミュニケーション論	助教授：坂本佳勲恵 ☎(5172)	社会学(社会意識論、家族論、コミュニケーション論) 人々の意識と社会の変化との関係を理論的・実証的に究明する。人々の日常行動及びメディアを媒介としたコミュニケーションによって、家族、ジェンダー、共同体、国際関係などのイメージがどのように形成、流布、変化していくかを研究する。
	文化構造論	教授：波平恵美子 ☎(5251)	文化人類学 性、加齢、病気といった人間の身体に生じる普遍的現象に対して人間は多様な文化的意味づけを行ってきた。文化と病気および文化と性をテーマとし、また文化の変化がその領域でどのように現れるかを研究する。
	東洋社会論	教授：窪添慶文 ☎(5176)	中国古代史 魏晉南北朝時代を特色づける貴族を生みかつ支えた社会政治的構造の研究。異民族による中国支配、中国を中心とする国際関係にも興味を持っている。
	東洋歴史文化論	助教授：伊藤美重子 ☎(5219)	唐代俗文学研究 中国唐代の民間の文芸について、主に敦煌出土資料(敦煌文書)を用いて研究している。
	イスラム社会論	教授：三浦徹 ☎(5184)	アラブ・イスラム史 アラブ・イスラム都市の形態的・社会的特徴について、歴史資料と現地調査を併用し、比較史の観点から検討する。主たる対象は、中世のエジプトとシリア。
	西洋社会論	教授：山本秀行 ☎(5180)	ドイツ現代史 ドイツ革命とナチズム体制が主要な研究対象。これに関連してヨーロッパの民族、女性などの社会史、それと近代国家とのかわりに関心がある。
	社会的ネットワーク論	助教授：新井由紀夫 ☎(5177)	イギリス中世史 14・15世紀の政治社会の在り方。とりわけ土地保有階層であるジェントリの社会的結合関係や、メンタリティー、中世ヨーロッパ古書体学などに関心がある。
	比較都市社会論	助教授：熊谷圭知 ☎(5191)	人間発達科学専攻 地域開発論に同じ
	比較地域社会論	助教授：水野勲 ☎(5188)	人間発達科学専攻 地域開発政策論に同じ
	ラテンアメリカ社会論	非常勤講師：落合一泰 (一橋大学：教授)	文化人類学 メキシコ南部マヤ系先住民社会の民族誌、近代メキシコにおける文化的自画像の生産と消費、ヨーロッパにおけるラテンアメリカ認識史などを専攻。
国際文化論	比較思想論	教授：羽入佐和子 ☎(5166)	哲学・比較思想 哲学的思考法や概念は文化の違いを越えられるか、また、哲学では人間はどのように位置づけられるかに関心がある。具体的には、近代以降のドイツ哲学における存在論・人間論の分析、及び比較思想の方法をテーマとする。
	西洋文化論	※教授：中村弓子 ☎(5241)	現代フランス思想及び文学 思想においては特にベルクソンを中心とする生命と二元論の問題の研究。文学においては、特にキリスト教との関わりに興味を持つ。
	西洋言語文化論	○教授：石川宏 ☎(5238)	近代フランス小説 19世紀のフランス小説、それに文学の領域におけるロマン主義運動が主たる研究対象。これに関連してスタンダールやメリメの作品、あるいはナポレオン神話の形成の問題にも関心を抱いている。
	西洋言語表現論	助教授：中村俊直 ☎(5239)	現代フランス文学 ヴェレリエーを中心として19、20世紀の詩人(マラルメやアポリネール)や20世紀の小説家(ジッドやブルースト)を研究している。現代言語思想や、近代日本におけるフランス文学の受容にも関心がある。
	アジア言語文化論	教授：相原茂 ☎(5218)	現代中国語学 現代中国語の文法論が主要研究テーマ。漢語語彙の構造や意味論にも関心がある。日中対照研究や誤用分析も手がけている。
	アジア比較文学論	教授：宮尾正樹 ☎(5216)	中国現代文学 民国初年(清末も含む)から現代に至るまでの中国文学を、主として文学言語の変容という観点から検討する。また、女性、学校、革命等の様々な言説の文学における現れについても考える。
	アジア言語芸術論	助教授：和田英信 ☎(5217)	中国古典文学 中国の詩と詩論について、とくに文学理論の表現形式に着目したアプローチを模索している。
	英語圏理論文化学	助教授：竹村和子 ☎(5227)	英語圏文学・批評理論 英語圏文学としては、主に19世紀アメリカ文学と現代文学。批評理論は、セクシュアリティ研究を中心とするフェミニズム批評およびポストコロニアル批評を、理論および表象の問題として考察。
	イギリス言語文化論	非常勤講師：富山太佳夫 (成城大学：教授)	英文学・文化論、文学理論 19世紀のイギリス文学、文化、思想などの個別研究をする一方で、それを現代思想の立場から理論的に考察する試みをしています。

【比較社会文化学専攻】

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
国際文化論	英語圏言語表現論	○教授：海老根 静江 ☎(5255)	英語圏の言語、文学、文化 おもにアメリカのリアリズム、モダニズムの文学テキストを通じ、場所、モダニティ、ジェンダー等の視点から、現代における文学の意味、言語、歴史、文化の問題を分析、研究する。
	アメリカ言語文化論	○教授：海老根 静江 ☎(5255)	アメリカ文学及び文学理論 19世紀から20世紀にかけてのヨーロッパとも関係の深い小説家(ヘンリー・ジェイムズ)、詩人(ウォレス・ステイヴンズ)ディコンストラクションを中心とする批評理論等。
	フランス文化論	助教授：村田 真弓 ☎(5242)	フランス古典主義文学 特に神秘主義思想を中心とした17世紀フランス宗教思潮。現在は、フェヌロンの静寂主義論争における発言の詳細をたどりながら、「体験と言葉」「体験の言葉」といったテーマを考察中。
	ドイツ文化論	助教授：菅野 健 ☎(5236)	トーマス・マンを中心とする20世紀ドイツ文学 20世紀最大の作家の一人トーマス・マン(1875-1955)を中心に、彼に多大の影響を与えたゲーテ、シラー、ショーペンハウアー、ニーチェ、ヴァーグナーなど、ドイツ文化の流れとその背後に潜む時代の精神状況の考察。
	テキスト言語学	非常勤講師：今西 典子 (東京大学：教授)	英語学(言語理論と言語習得) 人間が言語を習得しそれを使用して言語活動を行なうことを、文法及び談話法を解明することにより理論化することをめざす。
	英語語彙論	非常勤講師：東 信行 (電機通信大学：教授)	英語語彙論 英語語彙論は、英語の中で特に音声・文法と対比される語彙を主に構造・機能の面から、また意味・用法の面から、さらに起源・変化の面から分析記述するとともに、しばしば辞書制作・言語教育・文学研究などへの応用も検討する。
表象芸術論	比較芸術論	※教授：秋山 光文 ☎(5169)	東洋美術史学 古代インドを中心に、仏教美術に関する調査・研究を主な専攻領域としている。特に仏教説話図像の生成と展開について、インドから周辺の仏教文化圏への伝播と、典拠となるテキストとの相関に関心をもつ。
	西洋美術史	助教授：天野 知香 ☎(5170)	西洋美術史 特に十九世紀後半から二十世紀前半にかけてのフランスを中心に、社会における芸術の概念の位相とその変化をとらえながら、作品を取り巻く制度や批評的言説を考察し、個々の作品の生産と消費の状況やその意図あるいは意味を分析する。
	比較造形論	○教授：板倉 寿郎 ☎(5796)	美学 服飾を含む造形諸分野における表現性の構造及び意味。ヨーロッパ中世及び今日における諸問題に関心を持つ。
	西洋服飾論	助教授：徳井 淑子 ☎(5802)	西洋服飾論 西洋の服飾文化をとりあげ、形態・文様・色彩などについて文学・美術作品を資料に分析し、服飾のもつ象徴性・記号性を考察する。
	比較舞踊論	教授：片岡 康子 ☎(5263)	舞踊学 現代舞踊作家と作品の研究。文献とともに作品映像を用いて、現代舞踊の多様な表現方法を探ることを試みている。また日本における西洋芸術(舞踊)の模倣・折衷・創造の過程にも関心を持っている。
	舞踊表現論	教授：石黒 節子 ☎(5265)	舞踊とコミュニケーション 芸術としての舞踊の創造や上演の際の、動きのつながり方や演じる意識を介して作者・演者・観客の関係を考察する。日本人の美意識といわれる「型」とか「間」に関心がある。
	民族舞踊論	助教授：本田 郁子 ☎(5269)	民族舞踊学 日本およびアジアの地域社会に伝承される民族舞踊を対象に、①感性科学的アプローチによる舞踊表現特性の解明、②地域芸能再開支援のための舞踊学からみた方法論の確率を、研究・実践のテーマとしている。
	比較音楽論	○教授：徳丸 吉彦 ☎(5281)	国際日本学専攻 日本伝統芸能論に同じ
	音楽芸術論	助教授：永原 恵三 ☎(5182)	音楽学 音楽を人間の豊かな営みと捉え、音楽の美学的および社会的存在の多様な様相に関して、パフォーマンスの行われる場を中心にして研究するとともに、現代の音楽文化が提示している諸問題を検討する。
	声楽表現論	教授：林 廣子 ☎(5277)	声楽 イタリアのベルカントによる声楽曲の他、フランス、ドイツ、日本で形成された声楽曲の音楽様式を比較研究すると共に身体的側面をも考慮に入れた総合的音楽表現を実践的に研究する。
	器楽演奏論	非常勤講師：沼田 宏行 (ピアノ演奏家)	器楽演奏論 表現芸術の一つの方法である実技演奏を通じ、作品をあらゆる角度から考察し実験を経た上で演奏会を企画、運営し、その可能性を探る。
	西洋芸術文化論	助教授：竹村 和子 ☎(5227)	英語圏理論文化学に同じ
科学文化論	基礎概念論	教授：土屋 賢二 ☎(5165)	人間学 人間が哲学的問題を立てるのはなぜか、その問題の性質は何か、に関心がある。最も哲学の問題になりやすい心理的概念の研究が目下の課題。そのために言語分析の方法が有効だと考えている。
	理論分析論	助教授：三浦 謙 ☎(5164)	科学哲学 科学における方法論や実例を反省することを通じて、実在のあり方や知識の確実性といった伝統的な哲学の問題を現代的観点から研究している。

【比較社会文化学専攻】

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
科学文化論	実験科学方法論	教授：富永靖徳 ☎(5318)	複合領域科学専攻 凝縮系科学に同じ
		助教授：川野はづき ☎(5317)	強相関電子系の研究 強相関電子系の物理という視点から、(1)金属間化合物超伝導体 $RENi_2B_2C$ ($RE=Y, Ho, Er, Dy, Yb, etc.$) (2)巨大磁気抵抗効果を示すペロブスカイト型Mn酸化物 (3)銅を含まない酸化物超伝導体 Sr_2RuO_6 系とその関連物質 (Sr, Ca) $_2RuO_6$ 系という3つの系を研究する。
	応答相関論	助教授：小林功佳 ☎(5314)	複合領域科学専攻 メソスコピック科学に同じ
	比較生命科学	助教授：加藤美砂子 ☎(5293)	植物生理学 藻類を含む光合成植物特有の生理機能を生化学及び分子生物学的手法を用いて解明する。
	非線形物質科学	助教授：森義仁 ☎(5346)	非線形物質科学 自然界で営まれる生命現象やさまざまな物質による複雑な情報伝達の機構を物質科学の視点からシステムダイナミクスとして捉え、多次元情報や非線形情報の伝達に関する総合的理解を目標とする。
	自然情報認識論	○教授：細矢治夫 ☎(5884)	理論化学・情報化学 分子や結晶の構造と諸性質の理論的研究。物質の構造に限らず、種々の情報の構造の情報科学的解析にも関心がある。グラフ理論や組み合わせ理論の化学や物理学への応用も手がけている。
	情報検索論	助教授：市川哲彦 ☎(5708)	情報検索論 データベースシステムの構築における、プログラム作成のための理論と実際に関する研究。特に関数型計算を利用したデータベース操作と、マルチメディアデータ検索用プログラム開発環境に重点をおいている。
	情報処理論	助教授：佐藤一郎 ☎(5388)	計算機科学 分散計算システムやネットワークシステムを前提とした計算理論及びプログラミング言語の研究を行っている。その他、オブジェクト指向計算、エージェント、人口知能に関しても研究している。
	数理認識論	教授：渡辺ヒサ子 ☎(5298)	ポテンシャル論 2階の線形偏微分方程式の解の作る関数空間の構造と解の境界挙動の研究。非線形偏微分方程式や最適化問題にも興味をもつ。
	数理表現論	教授：榎本陽子 ☎(5303)	有限群の表現論 有限群Gの表現とは、体または完備離散付値環上にGの群環を作り、その上の加群のカテゴリリーを考えるものである。群どうしの構造の類似性が各々の群環上の加群のカテゴリリーのどんな類似性となるかを研究している。
	数理情報論	※教授：藤原正彦 ☎(5297)	数論 多変数多項式が数体、有限体、局所体などの中で定義する図形の算術的研究。また、人間における論理と情緒の仕組み、言語獲得などにも興味をもつ。
	数理構造論	助教授：横川光司 ☎(5357)	代数幾何学 代数多様体上のベクトル束のモジュラス多様体を研究している。代数幾何学の整数論、物理と関係した分野にも興味があり、その関連で正標数の代数幾何、D加群とベクトル束の対応なども扱っている。
	空間構造論	教授：中居功 ☎(5310)	位相幾何学・幾何学 微分方程式の解を幾何学的に研究しています。方程式が解けない場合も解は(たぶん)あるので、その性質を考えることが大切な問題となります。私は主に位相幾何学の方法を使って研究しています。
	応用解析論	非常勤講師：岡睦雄 (東京都立大学：教授)	特異点理論 基本群 代数的集合に現れる特異点の局所理論と大域的理論を研究する。基本群は Q^2 の平面曲線の補空間の基本群の事で、分岐被覆写像の研究にかかせない。
		教授：竹尾富貴子 ☎(5380)	情報数学 フラクタルの数理及びカオス力学系の研究。この解明のため符号力学系や図形の表現などコンピュータを併用して研究する。これらに関連して、確率過程や次元・測度及びエルゴード理論にも関心がある。
	無限次元解析論	教授：前田ミチエ ☎(5299)	数学(無限時限空間上の測度論) 直線、平面のような有限時限空間上には、長さの概念を一般化したルベグ測度が存在する。これを無限時限空間上で考察する。
	確率統計論	教授：笠原勇二 ☎(5385)	確率論 時間と共に変動する偶然量を数学的に定式化したものが確率過程である。様々な確率過程について、その特徴付けや性質を調べる。またそれらを用いて多様な経済現象や物理現象の解析への応用をはかる。
	幾何構造解析論	教授：塚田和美 ☎(5305)	複合領域科学専攻 数理多様体構造論に同じ

注1) ○を付している教官は、平成13年度末をもって退官する予定である。
 注2) ※を付している教官は、講座代表である。

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
総合日本学	国際日本学研究論	(未定)	
	日本文学原論	教授:平野由紀子 ☎(5200)	平安朝文学 特に古今から拾遺に至る時期の勅撰集および私家集研究。物語・仮名日記類・歌物語を生み出してゆく平安貴族社会におけるコミュニケーションの具としての和歌の機能に関心がある。
	日本語文化論	教授:鈴木泰 ☎(5202)	日本語分析論に同じ
	日本生活文化論	助教授:吉村佳子 ☎(5800)	日本服飾史・服飾美学 生活に密着した服飾を中心として、これと深く関わる美術・工芸・芸能・文学などを視野にいれながら、日本の生活文化について考える。日本の古代から中世が対象だが、現在は奈良から平安時代について関心を持っている。
	日本古代文化論	教授:萩原千鶴 ☎(5201)	日本上代文学 奈良時代までの作品の諸問題を研究。神話・歌謡・和歌など、古代文学諸ジャンルの生成と展開の様相に関心をもつ。
	日本中近世文化論	◎教授:三木紀人 ☎(5199)	中世日本文学 特に鎌倉時代の随筆・日記など自照文学、説話文学を中心に知識人(例えば、長明・無住・兼好など)の生き方とその所産に興味を持つ。
	日本近代文化論	助教授:大塚常樹 ☎(5206)	近現代詩歌及び20世紀前半の日本文学 これまでの研究対象は、宮沢賢治を中心に、朔太郎、光晴、中中等の詩人と、梶井基次郎。演習では芥川、川端、堀、太宰等も扱います。私の目指す研究方法は、表現構造(レトリックやプロット、トポス等)の分析と、文化的社会的時代背景による裏付けです(人生論的な作家論は扱いません)。従って指導学生には、テキスト論等の表現論の意欲的な学習と、様々な時代資料の綿密な調査を要求しています。
	日本文化基礎論	助教授:古瀬奈津子 ☎(5183)	日本古代史 奈良・平安時代において、天皇を頂点とする政治システムが、中国の影響を受けてどのように成立し、変容していくかを、太政官・蔵人所などの政治機構や天皇を中心とした儀式などの解明を通じて考察する。
	日本中世社会史論	※教授:安田次郎 ☎(5178)	日本中世史 平安末期から戦国期までの社会構造。荘園制の成立・発展・解体、土地所有の在り方、貴族社会と寺院社会の関係、寺院構造、中世都市などに関心がある。
	倫理思想研究論	教授:高島元洋 ☎(5167)	日本倫理思想史 倫理の問題を行為のもとである存在と捉え、これが日本思想においていかに考えられていたかに関心がある。具体的な試みとしては、他界と超越的なものを介して、人間の関係を再構成することを考える。
日本分析論	国際日本分析研究論	(未定)	
	日本社会分析論	◎教授:大口勇次郎 ☎(5182)	日本近世史 江戸時代社会の歴史的検討を通じて日本人の行動原理の伝統的パターンを考える。とくに女性が政治的にも文化的にも長期にわたって歴史の表層に登場することがない社会の構造を、ジェンダーの視点から検討したい。
	日本経済分析論	※教授:小風秀雅 ☎(5179)	日本近代史 政治史、経済史、思想史的分野を中心に、日本の近代化の特徴を、欧米及び東アジアとの比較によって、明らかにするところに主たる関心がある。
	文化思想分析論	助教授:佐藤光子 ☎(5168)	日本思想・文化史、比較思想、宗教哲学 日本の思想文化について、比較思想的観点をも取り入れつつ考察している。特に古代中世の仏教思想や近代の哲学(和辻、西田など)を中心に研究している。
	舞踊文化分析論	教授:片岡康子 ☎(5263)	比較社会文化学専攻 比較舞踊論に同じ
	服飾文化分析論	◎教授:小池三枝 ☎(5798)	日本服飾史 服飾美学 文学作品や絵画の中の服飾を通して日本人の美意識を追求する。近世文学や浮世絵などによって「いき」の美感をとらえ、漱石その他の近代文学によって「ハイカラ」とその周辺の意識を探る。
	地域文化研究論	助教授:内田忠賢 ☎(5195)	歴史地理学・文化地理学 ①奈良時代、江戸時代の人々が、当時の空間・景観をどのように認識していたか、②現代日本の地域文化、都市大衆文化の実態とその意味について調査・研究しています。
	現代文学環境論	助教授:菅聡子 ☎(5206)	日本近代文学 明治期の小説について、時代思潮・メディアとの関連など広い視野に立って研究する。また、女性作家・フェミニズム批評にも関心を持つ。
	文化情報伝達論	教授:市古夏生 ☎(5205)	日本近世文学 江戸時代の小説・和歌・俳諧などの研究。特に仮名草子・浮世草子における諸問題、近世の特色である出版文化に関する問題について関心を持つ。
	日本伝統芸能論	◎教授:徳丸吉彦 ☎(5281)	音楽行動の研究 特に人間が音楽を認知する仕組みについて、異なる文化を比較。三味線音楽を目下の対象とするが、文献とともに口頭伝承を扱う。ほかに、アジアにおける音楽研究を盛んにすることに関心を持つ。

【国際日本学専攻】

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
応用日本語論	比較言語教育論	(未定)	
	言語教育方法論	講師：佐々木 泰子 ☎(5254)	日本語教育 言語学及び言語教育の諸分野と心理学や社会学などの関連分野の研究成果に基づいた新たな言語教育、特に比較文化論を背景とした日本語教育の方法論に関する研究。
	日本語分析論	教授：鈴木 泰 ☎(5202)	国語学・日本語学 古代日本語を中心にテンス・アスペクト体系、及びモダリティの問題について、その変遷を考えている。
	日本語教育論	助教授：岡崎 暁 ☎(5213)	日本語教育学 第二言語習得に関わる諸要因を明らかにすると同時に、そうしたことに踏まえた日本語教育の方法論を原論と各論に分けて構築する。
	音声コミュニケーション論	助教授：村松 賢一 ☎(5254)	音声コミュニケーション論 話しことばの「聞きやすさ」「わかりやすさ」を音声、形式の両側面から、単音、語、文、談話レベルで考察しその結果を国語教育、日本語教育に生かす方途を考えたい。
	第二言語習得論	※教授：長友 和彦 ☎(5215)	第二言語習得論 第二言語習得研究の歴史的概観、第二言語としての日本語の習得研究の史的立場づけのもと、第二言語習得研究の新たな方法論と理論の確立および研究成果の教育実践への応用のあり方を探究する。
	日英比較語用論	助教授：岡崎 暁 ☎(5213)	日本語教育論に同じ
	日中比較語用論	教授：相原 茂 ☎(5218)	比較社会文化学専攻 アジア言語文化論に同じ
	翻訳言語表現論	教授：石丸 昭二 ☎(5235)	20世紀ドイツ・オーストリア文学 主として世紀転換期以後の小説。具体的にはカフカ、ムージル、ホーフマンスタール、シュニッツラーの小説の構造分析と小説理論。関連してドイツ文学におけるユダヤ思想にも関心を広げている。

注1) ◎を付している教官は平成12年度末、○を付している教官は平成13年度末をもって退官する予定である。

注2) ※を付している教官は、講座代表である。

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
発達基礎論	発達基礎論	教授：内藤俊史 ☎(2558)	道徳性の発達 生涯を通じて、道徳性や価値観がどのように形成されるのか、または発達するのかという問題。道徳教育と発達理論との関係、さらにアジア諸文化における道徳性の比較研究にも関心をもつ。
	比較教育思想史論	教授：上野浩道 ☎(5243)	教育思想 認識の教育と感情の教育の関係と構造に関心をもつ。教育作用にみられるシンボル、イメージ、感情、表現といった問題を歴史、原理、実践のレベルから整理し、教育の目的と構造の研究を行う。
	初期発達論	※教授：無藤 隆 ☎(5782)	発達心理学、保育学 主に、幼児から小学生の頃の人間関係、例えば、家族関係、友だち関係、子どもと教師との関係の観察研究を行っている。また、子どもと身近な環境との関わりを検討している。
	認知発達論	教授：内田伸子 ☎(5259)	発達心理学・認知心理学 言語と認識の発達に関する諸問題に主たる関心がある。特にドイツコースの生成とそれを支える基礎的な認知メカニズムの発達についての実証的研究を行っている。
	比較行動発達論	講師：柴坂寿子 ☎(5771)	人間行動学 比較行動学の問題設定・方法論に基づいた人間行動の研究。主に幼稚園児のクラス集団における人間関係の動態とコミュニケーションについて観察研究を行っている。
	発達システム論	教授：石口 彰 ☎(5262)	認知心理学 視覚を中心とした人間の感性能力の研究が専門である。3次元視空間の認知やその感性的評価、あるいは創造性や感性表現などに及ぼす心理学的・生物学的・発達の・比較文化的要因を検討する。
	人格システム論	助教授：伊藤美奈子 ☎(5773)	学校臨床心理学 学校現場をめぐる子どもの心の問題と、それに対する臨床的対応についての実践的研究。 発達心理学(青年心理学) 青年期から成人期にかけての人格形成についての実証的研究。
発達臨床論	心理発達臨床論	(未定)	文化心理学、比較人間形成論 社会文化の文脈のなかで人間が形成され、かつさまざまな臨床上の問題も起こることをフィールドワークの手法により研究する。発達・臨床心理学と文化人類学の間を橋をかけるような新しい領域である。
	青少年臨床論	※教授：楡木満生 ☎(5785)	心理臨床学 人間と人間との出会いにおいて相互主観的に事象を把握し、心理臨床の場を通じて帰納的論理を進める。そのために、人と人が関わることによって変化する法則性や原理に関心を持っている。
	人間関係論	教授：黒田淑子 ☎(5775)	人間関係学 日常生活における人間知を関係的、動態的に探究すること。人間関係構造のかかわり分析、自立と共存のネットワーク、ドラマ・心理劇の活用、個人療法・集団療法によるカウンセリングなどに関心がある。
	教育臨床論	助教授：酒井 朗 ☎(5247)	教育臨床論、青少年指導・文化論 主に民族誌的な方法を用いて、学校内部の相互作用過程や教師、生徒自身の意味世界の分析を課題としている。また、教育的指導にかかわる諸言語の社会的構成過程の分析や学校組織論、生徒文化論、などについても研究を進めている。
	障害臨床論	助教授：田代和美 ☎(5780)	保育臨床論に同じ
	保育臨床論	助教授：田代和美 ☎(5780)	保育臨床学 臨床的な視点から保育における事象を検討する。具体的には保育者と子ども間、保育者の連携および成長、保育環境等を歴史的経緯を踏まえた上で保育現場でのフィールドワークを基に検討する。
	社会福祉論	教授：平岡公一 ☎(5246)	社会政策論、社会福祉(特に高齢者福祉) 社会政策(所得保障・医療保障・社会福祉・住宅政策等)、とりわけ高齢者福祉政策の理論的・実証的・政策科学的研究、および社会的観点からの福祉国家研究を行っている。

【人間発達科学専攻】

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
発達社会環境論	教育方法論	教授：宮原 修 ☎(5249)	教育方法学 学校教育が用意する教育方法・教育課程が人間(子ども)の発達にどのような影響を及ぼすかに主な関心がある。言語・非言語コミュニケーションの分析を中心に授業研究に取り組む。日英の比較研究も行う。
	教育組織論	教授：耳塚 寛明 ☎(5245)	教育社会学 学校教育の選抜・配分機能について、(1)教育選抜と社会階層、(2)学校組織・文化と選抜過程、(3)教育選抜の帰結(階層再生産や学歴社会形成)をテーマとした理論的・実証的研究を進めている。
	比較教育文化史論	助教授：米田 俊彦 ☎(2554)	教育制度・政策史 近代日本の教育制度の変遷、あるいは教育制度改革をめぐる論議や意思決定過程を対象とする制度・政策史研究や、制度・政策の浸透ないし実現過程の分析としての実証的研究を進めている。
	教育行財政論	助教授：米田 俊彦 ☎(2554)	比較教育文化史論に同じ
	生活者環境論	◎助教授：犬塚 伝也 ☎(5794)	生活者環境論 生活者・消費者の観点から、環境としての企業・行政との関係を消費生活等の視点により研究し、その発達への影響の解明を目指す。
	生涯学習論	助教授：三輪 建二 ☎(5253)	生涯学習論・成人教育学 生涯学習を政策・制度面よりは学習する成人に即して考察する。成人の発達、成人の経験(日常意識)と学習との関係を検討する。
	博物館学習論	教授：鷹野 光行 ☎(5255)	博物館学・考古学 遺跡を保存し、活用する場、すなわち考古学の成果を呈示する場としての博物館、また社会教育機関として人が自ら学ぶ場としての博物館の活動に関心を持っている。
	家族変容論	※教授：袖井 孝子 ☎(5790)	家族社会学 女性の地位および役割がライフステージ、社会、文化によってどのように異なるかに関心を持つ。とくに女性の家族内役割をジェンダー論の立場から、理論的実証的に明らかにしたい。
	比較家族環境論	教授：牧野 カツコ ☎(5792)	家族論に同じ
ジェンダー論	ジェンダー史論	教授：館 かおる ☎(5844)	女性学・ジェンダー研究 ジェンダー概念の成立とその後の展開の検討。近代日本社会を中心とする社会制度上の構造と個々人の規範意識形成のメカニズムについて、ジェンダーの視点から検討する。
	家族論	教授：牧野 カツコ ☎(5792)	家族社会学・家族関係学 家族構造、家族関係の動態を社会・経済的变化との関連でとらえる。時代的な変化と個人のライフコースにおける動態変化を含む。最近では父親の役割や家族とジェンダーを研究テーマとしている。
	男女平等政策論	非常勤講師：金城 清子 (津田塾大学：教授)	男女平等政策論 女性の地位及び役割がライフステージ、社会、文化によってどのように変容するかを、男女平等政策との関係で、理論的・実証的に検討、説明する。また、近年の男女平等参画に対する政策について国際比較の視点から分析する。
	国際女性開発論	(未定)	国際社会学・ジェンダー研究 グローバル化のもとでのジェンダー再編の政治を国際社会学の観点から検討する。〈開発と女性〉をめぐる諸政策と国際協力、開発過程と密接な関係にある国際移動の展開といった主題を通じて、民族間関係とジェンダー関係の接点を考察する。
	地域開発論	助教授：熊谷 圭知 ☎(5191)	社会文化地理学、東南アジア・オセアニア地域研究 特に、1)第三世界の都市-農村関係と人口移動、2)パプアニューギニアにおける近代化過程と社会・文化変容、3)地域研究とフィールドワークの方法論、等に関心があります。
	地域開発政策論	助教授：水野 勲 ☎(5188)	数理地理学、経済地理学 近年の輸送・通信手段の発達、諸産業の新たな中心・周辺関係の生成をもたらしている。この現象を理解するために、古典的立地論を自己組織化論の考えから捉え直している。
	労働論	助教授：永瀬 伸子 ☎(5786)	労働経済学 就業行動、家庭内生産活動など、仕事をめぐる選択行動を経済理論を用いて分析の枠組みをつくり、先駆的な予想を立て、統計等を用い実証的に分析することを専門とする。主な領域は「仕事」の選択行動であるが、出産、教育、結婚等の選択もこの枠組みで扱うこともできる。
	生活経済論特論	※助教授：御船 美智子 ☎(5788)	生活経済学、家庭経済学 経済社会と生活の関わりを家庭・家計を媒介に理論的・実証的に解明する。近現代日本の家庭経済史、家族内経済関係、家庭経済政策、家庭経済の国際比較(主に中国)、女性と財産について検討する。
	社会保障論	客員助教授：金子 能宏 (国立社会保障・人口問題研究所)	社会保障論 社会保障は社会の変化に伴い、思想も制度も変化せざるをえない。制度発足時点には考慮されていなかったジェンダーの視点を取り入れた経済学や社会学を応用して、社会保障制度を再検討する。
	人口論	客員教授：高橋 重郷 (国立社会保障・人口問題研究所)	人口学 少子化・高齢化等の人口現象を理解する上で、従来の人口研究の枠組みを越え、新たにジェンダーの視点から人口再生産過程をとらえ、結婚行動、家形成行動の人口研究を展開する。それにより、新たな家族政策・労働政策を誘発する。
	家族政策論	客員教授：西岡 八郎 (国立社会保障・人口問題研究所)	家族政策論 家族形成は種々の政策によって影響を受ける。近年、社会保障制度は家族政策との関連を強めており、その背後には家族の変容がある。特に女性の社会参加が進んでいる折からジェンダー視点を取り入れた家族政策論を展開する。

注1) ◎を付している教官は平成12年度末をもって退官する予定である。

注2) ※を付している教官は、講座代表である。

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
<p> 分子細胞運動 生体高分子科学 代謝制御学 バイオサイエンス論 生態環境応答 生体分子認識学 分子遺伝情報 情報分子機能学 構造植物科学 発生機構学 細胞・発生生物学 細胞膜機能学 植物生理学 生態環境科学 分子細胞機能 生体防御システム 中枢神経科学 シグナル伝達機構 </p>	分子細胞運動	教授：馬場 昭次 ☎(5714)	動物生理学 細胞運動、特に鞭毛・繊毛運動の生理学的研究。ウニの精子の鞭毛、幼生の繊毛の運動を、高速度ビデオや高解像度フィルムに記録し、画像解析することで運動の仕組みを研究している。ゾウリムシの重力受容・機械刺激受容の研究。 e-mail: baba@cc.ocha.ac.jp
	生体高分子科学	助教授：小川 温子 ☎(5343)	生物化学 複合糖質（糖タンパク質、多糖、糖脂質）および糖認識分子（酵素、抗体、レクチンなど）の構造、機能と作用機構。花粉をはじめとする環境中のさまざまなアレルゲンの構造と、糖鎖の抗原性にも着目している。 e-mail: hogawa@cc.ocha.ac.jp
	代謝制御学	教授：芦原 坦 ☎(5358) ☎(5293)	植物生化学 植物の基本的な代謝経路（プリン代謝、糖代謝など）の調節機構を主に細胞および分子レベルで解明している。代謝の環境応答に関して、耐塩性のマングローブ植物やリン酸飢餓培養細胞にみられる代謝特性に関する研究も行っている。 e-mail: ashihara@cc.ocha.ac.jp
	バイオサイエンス論	助教授：林 正男 ☎(5364)	分子細胞情報及びバイオ政治学 動物細胞の細胞接着にかかわるタンパク質の構造、機能、遺伝子レベルでの情報制御。バイオサイエンスやバイオテクノロジーの研究動向、政策、制度、倫理、研究文化の国際調査研究。現代科学技術社会の望ましい姿の研究。 e-mail: masa@cc.ocha.ac.jp
	生態環境応答	講師：作田 正明 ☎(5712)	植物の環境応答 動くことがず、環境の変化に直接曝される植物では、独特の環境応答機構が存在する。この機構の中心となる防御遺伝子の発現（転写）調節について、生化学・分子生物学的側面より解析を行っている。 e-mail: msakuta@cc.ocha.ac.jp
	生体分子認識学	※教授：松本 勲武 ☎(5342)	生化学 グリコバイオロジー（糖が関与する分子生物学）、特に動物植物レクチンの構造と機能に関する研究。生物の体を構成する種々の生体分子間における親和・反発、会合・解離、集合・離散の機構に興味を持つ。 e-mail: isamu@hososipc.chem.ocha.ac.jp
	分子遺伝情報	教授：松浦 悦子 ☎(5377)	分子遺伝学 オルガネラ独自の遺伝子系の研究。ゲノムの構造や遺伝子発現、及びその進化をとりあげている。核ゲノムの遺伝子系との相互作用にも着目している。 e-mail: elmasu@cc.ocha.ac.jp
	情報分子機能学	教授：室伏 きみ子 ☎(5362)	細胞生化学 細胞のストレス応答と、増殖制御のメカニズムを追究している。細胞が、外界からのストレスや正・負の増殖刺激を受け取る機構や、それらの刺激を伝達していく仕組み、さらに刺激に対応して引き金を引かれる種々の化学反応のメカニズムを明らかにすることを目的として、異なった観点からのアプローチを試みている。 e-mail: murofush@cc.ocha.ac.jp
	構造植物科学	教授：山下 貴司 ☎(5374)	構造植物科学 各植物群に特有な器官や組織の構造がどのようにして発現されるのかという問いに対し、形態形成と組織発生の規則性を解析することによってアプローチする。構造と自然環境との関係についても論ずる。 e-mail: yamashi@cc.ocha.ac.jp
	発生機構学	講師：清本 正人 ☎(0470-29-0838)	発生生物学 棘皮運動を材料に、初期発生における細胞の分化や形態形成のメカニズムを明らかにする。具体的には、ウニ胚の骨片形成細胞の分化における誘導因子や細胞間の相互作用について、培養系を使って研究している。 e-mail: tmihoshi@awa.or.jp
	細胞・発生生物学	助教授：千葉 和義 ☎(5370)	細胞・発生生物学 発生・分化の分子機構について、細胞生物学的見地から考察する。特に減数分裂や受精、初期発生過程において、細胞外の情報がかどのように細胞内に伝達され、発生が制御されているのかについて論ずる。 e-mail: kchiba@cc.ocha.ac.jp
	細胞膜機能学	助教授：小林 哲幸 ☎(2604)	生体膜生化学 刺激の伝達・分泌・輸送・ストレス応答など多彩な細胞機能が営まれる場である生体膜について、その機能を担うタンパク質や脂質の代謝・動態を生化学的に解析し、機能発現の機構を明らかにする。 e-mail: telkoba@cc.ocha.ac.jp
	植物生理学	非常勤講師：福田 裕穂 (東京大学：教授)	植物生理学 植物のもつ多様な同化作用を反応回路学的、酵素的、分子遺伝学的に解き明かし体系付ける。また、これによって、人類にとっての有用物質の生産、効率の高い食料源の確保へ向けての植物工学にも基礎を与える。
	生態環境科学	助教授：杉谷 隆 ☎(5193)	自然地理学 自然科学を基礎としながら、現代の環境問題を地域住民の生業活動や市民運動を通してみることによって、社会科学との複合的解明を目指している。また、住民の環境認識という哲学的問題にも関心がある。 e-mail: sugitani@cc.ocha.ac.jp
	分子細胞機能	非常勤講師：浅島 誠 (東京大学：教授)	分子細胞機能 細胞が生命体としてそなえる高度な機能を、分子科学的視点でとらえ基本素子及び素過程に分解・分析することで解明する。さらに、これらをもとに機能的再構成系を構築しその挙動を評価することによって、細胞の多様な機能を統合的に理解する。
生体防御システム	客員教授：鈴木 明身 (東京都臨床医学総合研究所) ☎03-3823-2101 内5483	生体防御システム 細胞やウイルスなどの病原体の侵入、器官や組織における癌細胞の出現などの自己の存続を脅かす危険な要因を監視し、これを取り除くように働く免疫ネットワークの役割を、分子生物学的、細胞生物学的に理解する。 e-mail: asuzuki@rinsoken.or.jp	
中枢神経科学	客員助教授：梅田 真輝 (東京都臨床医学総合研究所) ☎03-3823-2101 内5419	中枢神経科学 生体の恒常性は視床下部を始めとする中枢神経系と内分泌系などの他のシステムが協調することにより維持されている。このような精密かつ微妙な連携をもって働いている身体各器官の統合が、いかになされているか神経科学的に解析する。現在は、体温の調節機構を分子レベルで明かにすべく研究を進めている。 e-mail: umeda@rinsoken.or.jp	
シグナル伝達機構	客員教授：川喜田 正夫 (東京都臨床医学総合研究所) ☎03-3823-2101 内5285	ウイルスの分子生物学 ウイルス増殖の進行および抑制に関わる宿主細胞因子の分子遺伝学、分子細胞生物学的解析を通じて、恒常性維持システムの機能と制御機構を解明する。 e-mail: kawakita@rinsoken.or.jp	

【人間環境科学専攻】

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
生活システム科学	進化・多様性	○教授：石和貞男 ☎(5371)	遺伝学 生物集団の遺伝的多様性の維持や種分化の機構に関する問題。また、生物進化に伴い新しい遺伝子情報がどのように形成されて来たかを、形態形成や脳神経・行動系などの遺伝子について研究する。ヒトの原型をハエのDNAに垣間見る楽しさが、“新しい進化遺伝学”の魅力。
	多細胞体形成	教授：根本心一 ☎(5369)	発生生物学 多細胞体形成過程である個体発生に関する細胞・分子レベルからの研究。卵が発生可能な能力を獲得する機構と、その過程で起る出来事と受精及びその後の過程における出来事との関係に注目している。
	環境計測科学	※教授：駒城素子 ☎(5725)	環境計測科学 自然の営みに影響を与える、人間活動の生み出す汚染物質について、大気水圏、地圏環境における分布、消長とそのメカニズムを探る。
	生理人類学	○教授：富田守 ☎(5767)	生理人類学 人間行動にともなう身体の生理機能の変化を追求。特に、人類学的視点から姿勢及び歩行における動作学的、生理学的研究を行っている。
	人類年代学	助教授：松浦秀治 ☎(5769)	人類進化学・人類年代学 人類の起源と進化、日本列島人の起源などに関わる化石骨の分析から、人類史における年代学的背景の解明をめざし、併せて古人類の古環境的背景を考察している。
	生体制御機構	助教授：鈴木恵美子 ☎(5770)	生体制御 生活環境に由来する種々の物理的・化学的刺激を生体は受けている。特に環境からの化学的刺激に対する生体の応答に興味を持ち研究を行っている。
	環境材料化学	教授：小川昭二郎 ☎(5733)	生活材料化学 有機化学的手法による繊維の表面改質、吸水性、消臭性材料の開発、さらに環境により色、電気伝導度等が変化する機能性色素の開発、センサーへの利用等、新しい被服材料、生活材料について研究を行う。
	居住都市環境学	教授：田中辰明 ☎(5738)	居住環境学 生活を行う事で人間は、エネルギーを消費している。しかも、民生用のエネルギー消費は増大の一途を辿っている。この事により、酸性雨の問題や二酸化炭素の増大など地球環境に重大な変化をもたらしている。この実態を捉え、改善のための代替エネルギーについて論じる。
	生活界面科学	※教授：駒城素子 ☎(5725)	生活界面科学 繊維、プラスチック、金属など固体表面における物質の吸付着・脱着、酵素や酸化剤による分解反応など、界面で生ずる現象について、その機構を解析するとともに応用展開をはかる。
	衣生活環境科学	◎教授：長谷部ヤエ ☎(5741)	被服生理学 種々の温熱環境が人体に及ぼす影響、および裸体時と着衣時との生理的差異から衣服が体温調節に果たす役割について研究する。さらに、衣服の形態や着用時の状態の違いによる熱・水分の移動の差異について研究する。
	感性工学	教授：會川義寛 ☎(5743)	生活物理学 生活における様々な物理的問題を、環境と人体の相互作用を考慮しつつ、物理的・生理学的・感性的観点から検討する。
	人間環境評価学	助教授：大瀧雅寛 ☎(5748)	環境工学 安全で快適な生活環境を確保するために、環境因子（主に水環境）が人間に与える様々な影響に関する評価手法、及びそれらを管理制御する技術について工学的に検討、研究を行う。
	生活材料機能学	教授：小川昭二郎 ☎(5733)	環境材料化学に同じ
	感覚生理学	客員教授：佐藤昭夫 (東京高齢者総合研究所)	感覚生理学 体表面からの刺激による体内器官への影響。生活において重要な役割を担っている各種感覚と環境の相互作用および人体の応答。
神経生理学	客員教授：神田健郎 (東京高齢者総合研究所)	神経生理学 体性神経の機能と生活。生活に於ける体表・深部組織への刺激が人体の生理に及ぼす影響、および環境に働きかける手段としての運動機能について、その基礎的仕組みと疾病・老化に伴う変化を明らかにする研究・教育を行う。	
自律機能生理学	客員助教授：鈴木敦子 (東京高齢者総合研究所)	自律機能生理学 生活における自律神経機能の性質とその制御。各種環境の変化に反応する人体の生理について、特に発汗や口渇、摂食、摂水、呼吸、排泄などに関して研究・教育を行う。	

【人間環境科学専攻】

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
人間環境科学	生体物質化学	教授：永野 肇 ☎(5348)	有機化学 テルペン等の天然有機化合物の生体内での役割に興味を持ち、それらの合成と機能解明の研究を行っている。また、ラジカル反応における新しい立体制御法の開発とその天然物合成への応用にも取り組んでいる。
	生体分子科学	助教授：小島京子 ☎(5345)	生化学 生体成分の生合成後の細胞内輸送、仕分け、分泌機構について興味があり、複合糖質(糖脂質、糖タンパク質等)とその認識分子を主な研究対象として解析を行っている。
	環境医学	教授：永川祐三 ☎(5155)	環境医学 環境ホルモンなどの食環境の変化、二酸化炭素による温暖化、人口の高齢化などを視野において、特に食環境医学、高齢医学、メンタルヘルス、生活習慣病、感染症の領域の側面から専攻している。
	栄養制御学	助教授：大塚 恵 ☎(5752)	栄養化学 微量栄養素の生理・生化学的諸問題に関する研究。疾病予防に効果のある食品成分の代謝制御機構に関心がある。特に、ビタミンCの役割について研究を行っている。
	加齢制御学	講師：藤原 葉子 ☎(5750)	栄養化学、脂質栄養学 食品成分と動脈硬化をはじめとする生活習慣病との関連に関心がある。特に必須脂肪酸の生理機能やリポ蛋白質代謝について研究を行っている。
	感覚分子化学	教授：久保田 紀久枝 ☎(5757)	食品機能学 に同じ
	嗜好性評価学	教授：畑江 敬子 ☎(5763)	調理科学 食品材料は調理過程を経て食べ物となる。調理科学の最終目的は「おいしい食べ物」にある。食べ物の品質と嗜好性の評価に関する客観的主観的方法を研究している。
	食資源科学	教授：本間 清一 ☎(5754)	食品加工貯蔵学 食品の加工と貯蔵中の品質変化を明らかにし、それを制御する要因と基礎技術の研究。この過程のエネルギー消費、副産物の資源化、さらに人間社会における食品を貯蔵する意義にも研究を拡げたい。
	食品機能学	教授：久保田 紀久枝 ☎(5757)	食品機能化学 食品起源の嗜好性機能や生理機能に関与する成分、特に香気成分、抗酸化性、抗菌性、血小板凝集抑制活性成分の検索やその生成機構、調理加工中の成分や活性の顕在的、潜在的变化について主として有機化学的手法により研究する。
	嗜好性設計学	(未 定)	調理科学 調理操作による、食物の味とテクスチャーの変化を化学成分および物性の測定を通して知る。この変化と人間の感覚との関係を知るために官能検査を行う。これらに基づいて嗜好性の高い食物を得るための調理方法を求める。
	食品バイテクノロジー	助教授：村田 容常 ☎(5753)	食品生化学(食品加工・貯蔵学) 食品の加工貯蔵中には様々な化学的变化がおり、食品の特性や品質に大きな影響を及ぼしている。例えば野菜や果実を切ることで褐変。これは酵素反応が関係し、その過程を食品学的、生化学・分子生物学的に分析し、制御法も考案している。
	防御システム機能	(未 定)	
	食神経科学	◎※教授：倉田 忠男 ☎(5806)	食品栄養化学 に同じ
	食品栄養化学	◎※教授：倉田 忠男 ☎(5806)	食物学 食品・栄養化学の分野でみられる各種食物成分の食品・生体系における変化過程に関する諸問題。特に、ビタミンC及びその関連物質の生体内における挙動の解析、食品の成分間反応による着色・着香現象の化学的解明等に関心がある。
	生体環境科学	助教授：富 永 典子 ☎(5804)	植物生理学 極端な環境条件(高塩分濃度、酸性、低温等)でよく生育する単細胞藻類を材料とし、その環境適応の機構を生理学的、生化学的手法を用いて明らかにする。藻類において生長制御物質の果たす役割についても研究している。
食品安全性評価学	客員教授：一色 賢司 (国立食品総合研究所)	食品安全性評価学 食品を構成する素材の安全性を確認する新手法を開発し、食品加工・貯蔵・流通することを想定して海外の食品素材や遺伝子操作した作物、新食糧資源などの利用を安全性を基礎とした設計をする。	
食品加工科学	客員助教授：大坪 研一 (国立食品総合研究所)	食品加工科学 研究レベルの食品の調理・加工に関する成果を生産に導入される際における生産スケール拡大で起こる問題や食品の風味・嗜好性を確保するための加工条件を調べ、食品加工のハイテク化を追求する。	
食健康科学	客員教授：井手 隆 (国立食品総合研究所)	食健康科学 国民の健康に大きく影響する第三次機能に着目し、食品素材に含まれる成分の活用により食品の付加価値を高め、食嗜好と健康とのバランスに立つ食生活の科学的根拠を確立する。	

注1) ◎を付している教官は平成12年度末、○を付している教官は平成13年度末をもって退官する予定である。
 注2) ※を付している教官は、講座代表である。

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
社会情報科学	社会情報論	助教授：坂元 章 (☎5257)	社会情報学あるいは社会心理学 テレビゲーム、テレビ、新聞などのメディアによって人間の行動や発達にどのような影響があるか。自己や他者についての評価や判断がどのように形成されるか。
	環境情報論	※教授：河村 哲也 (☎5304)	計算流体力学 流体力学の諸問題を計算機を使ってシミュレーションすることにより解析している。特に現在は、自然環境や地球環境問題に興味をもち、計算流体力学の手法による現象の解析を試みている。
	地理情報論	教授：田宮 兵衛 (☎5196)	自然地理学 自然環境を人間の社会・経済活動に関する境界条件として捉える自然地理学の立場から、地理情報論の構築を追求している。地球環境問題を大気環境と人間活動との相互作用の1例と位置づけ、注目している。
	言語情報論	助教授：古田 啓 (☎5203)	言語によって伝達される情報の内容と伝達の課程を考える。特に、言語とコンピュータに共通する「コード」の本質・コンピュータで伝達できる言語情報とできない情報・コンピュータで処理できる言語情報とできない情報の差などを中心に扱う。
数理自然 情報科学	数理多様体構造論	教授：塚田 和美 (☎5305)	微分幾何学 現代数学及び自然社会諸現象の数理的解析に不可欠の概念である多様体構造に関し、微分幾何学的手法を用いて研究を行う。また、その数理的諸科学への応用についても関心を払う。
	数理解析論	教授：真島 秀行 (☎5309)	微分方程式論 自然科学から社会科学、人文科学に至る様々な現象のみならず微分方程式、差分方程式、積分方程式などから、特定のものを選び、複素解析・漸近解析的手法を主とする数理解析的方法によって研究する。
		助教授：武部 尚志 (☎5304)	数理解析学 特に、無限次元Lie代数とその変形(量子群等)を対称性として持つ可積分系(非線形可積分偏微分方程式系や統計力学における可解格子模型)を、表現論等を利用して代数的に研究している。
	力学系理論	助教授：松崎 克彦 (☎5300)	複素解析学・双曲幾何学 複素平面上の正則関数の力学系の理論として、クライン群論及び有理関数の反復合成を研究する。タイヒミュラー空間論、低次元双曲幾何学など複素解析的アプローチが中心となる。
	非可換解析論	助教授：吉田 裕亮 (☎5386)	非可換解析学 非可換解析学とは、量子系を記述する数学的な道具である。非可換解析学において、中心的な役割を果たす作用素環論、最近では特に、作用素環上で考えられる非可換確率論に関連した研究を行っている。
	情報構造解析論	教授：金子 晃 (☎5379)	応用数理 特に、偏微分方程式の数値解析と工業数学への応用、有限要素法の理論と応用、逆問題の解析、CTを中心とする画像処理の理論的研究、情報代数関連の話(ゲームのアルゴリズム・数式処理のライブラリ開発等)
	数値情報処理論	教授：佐藤 浩史 (☎5398)	計算物理学 広い意味での原子衝突関連の数値シミュレーション、特に、イオン・表面衝突の理論的研究に興味がある。また、外部の研究者と共同で視覚障害者教育支援システムの開発にも関わっている。
	画像情報論	※教授：藤代 一成 (☎5700)	ビジュアルコンピューティング 画像合成・解析技術及び仮想現実感技術を利用し、自然科学から人文・社会科学に至るあらゆる分野で発生するデータに潜む対象の本質をユーザに探らせられる計算機環境の実現に資する。
非線形現象解析	教授：増永 良文 (☎5707)	データベース マルチメディアデータベース、時空間データベース、ムービングオブジェクトデータベース、マルチモーダルデータベース、データマイニング、ウェアラブルデータベース等、21世紀に向けた新世代データベース技術の理論と実践を研究する。	
物質科学	統計物理学	助教授：出口 哲生 (☎5313)	数理解析学・物性基礎論 非線形性は多様な自然現象の中で重要な役割を果たす。非線形性のために系は単なる部分の和でない、全体として特有の性質を示す。ソリトンの逆散乱法やベータ仮説などの数理解析学的手法を用いて、水面の波動、量子スピン系の厳密解、結び目と物理、高分子など幅広いテーマを総合的に研究する。
	統計物理学	教授：柴田 文明 (☎5320)	非平衡統計物理学 玉葱の皮むき、物体→分子→原子→素粒子とは逆方向の研究。個性ある構成要素が互いに影響し合いながら集団となるときの振舞いは如何。基礎的量子現象、量子通信理論、確率・統計の研究を含む。
	凝縮系科学	教授：富永 靖徳 (☎5318)	凝縮系物理学 結晶・分子・液体などの構造とダイナミクスの実験的な研究。水の動的構造と水溶液系における水の動的構造の分光学的研究。水素結合型強誘電体における水素結合と分極のダイナミクスの分光学的研究。
	高エネルギー物理	教授：菅本 晶夫 (☎5323)	高エネルギー物理 物質の究極の存在としての素粒子の構造と相互作用を研究する分野で、関与するエネルギーが非常に大きいので「高エネルギー物理」と言う。標準的な理解を超えた、夢のある様々な試みに挑戦する分野である。
	宇宙天体物理学	教授：森川 雅博 (☎5312)	宇宙論 初期宇宙の相転移のダイナミクス。場の理論・非平衡統計力学などの手法も利用する。宇宙の波動関数・ブラックホールからの放射・量子コヒーレンスと古典化・観測的宇宙論も含む。
	極端条件科学	教授：浜谷 望 (☎5319)	極限物性学 超高压・極低温の極端条件下におかれた物質の物理的・化学的性質を実験的に研究する。とくに、物性を考察する上で最も基本的な情報である原子配列、電子密度分布を明らかにすることを主目的とし、X線・中性子線の回折・散乱実験を手段とする。あらゆる物質を研究対象とする。
	ナノスケール科学	助教授：小林 功佳 (☎5314)	メソ・スケールの物理 最近の微細加工技術の進歩により非常にミクロな人工構造物が作られるようになった。本研究では、このスケール特有のこれまでに見られなかった新たな物性を探るための理論的研究を行う。

【複合領域科学専攻】

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
物質科学	理論分子科学	○教授：平野恒夫 (☎5337)	計算化学 分子軌道法などの量子化学計算により、分子の構造と反応性を明らかにする。特に、反応に関しては、振動の重要性を考慮した、ダイナミックな取扱いを行う。また、分子集合体の結晶構造を予測する方法を開発する。
	分子集合体科学	助教授：堀佳也子 (☎5339)	分子集合体科学 分子集合体が示す構造と物性の関連および各相間の転移挙動を分子レベルで解明するために、液晶性物質の結晶構造に基づき、種々の液晶相への転移挙動を実験的に解明する。
	計算科学	助教授：鷹野景子 (☎5338)	理論化学、計算化学 主として量子化学的手法を用いて理論的研究を行っている。化学反応の機構、化合物の構造や機能などを種々のレベルの計算機を用いた数値計算やシミュレーション計算によって明らかにする。
	機能性分子	※教授：福田豊 (☎5291)	無機・錯体化学 金属イオンの介在する化合物は、我々のあらゆる所に見られる。自然界の海水、地殻、空気中と言うにおよぼす動物、植物内でも重要な働きをする。できるだけ広い領域でこの様な金属イオンの働きを理解しようとしている。
	分子反応設計	助教授：山田真二 (☎5349)	分子反応設計 有機分子の構造と反応に関する基礎的研究を行い、それらに基づき有機分子を自在に構築するために必要な、位置、立体、官能基選択性を制御する新しい方法について研究する。
複雑系科学	複雑系の秩序形成	教授：浜谷望 (☎5319)	極限物性学 超高压力・極低温の極端条件下におかれた物質の物理的・化学的性質を実験的に研究する。とくに、物性を考察する上で最も基本的な情報である原子配列、電子密度分布を明らかにすることを主目的とし、X線・中性子線の回折・散乱実験を手段とする。あらゆる物質を研究対象とする。
		助教授：今井正幸 (☎5316)	複雑系の構造相転移 複雑液体（高分子・液晶・生体物質）の秩序化過程をX線・中性子・光を用いた散乱実験およびプローブ顕微鏡を用いて解明する。
	非線形ダイナミクス	教授：太田隆夫 (☎5321)	相転移および非平衡開放系の理論 液晶、高分子混合系などの複雑液体における相転移ダイナミクスの理論的研究を行う。非平衡開放系の示す様々な動的秩序の起源、存在様式の研究も行っている。
	非平衡複雑系	○教授：藤枝修子 (☎5347)	計量分析化学 非平衡過程で進行する非線形化学現象の中で、化学振動反応に興味があり、時空構造の定量的実験から反応機構の解明に向けた研究を行う。熱挙動、電気化学的測定、重力場の影響などの実験結果を計量化学から扱う。
	構造分子科学	助教授：今野美智子 (☎5718)	構造分子科学 結晶における構造を利用して、構造変化を伴う分子間相互作用あるいは、触媒的機能について研究する。主に、複雑な生体内分子の生理作用における過渡的分子結合の形成あるいは電子的安定化の機構を研究する。
	マイクロ複雑系	○教授：細矢治夫 (☎5884)	比較社会文化化学専攻 自然情報認識論に同じ
	生体複雑機能	助教授：最上善広 (☎5368)	動物生理学、宇宙生物学 生命現象の持つ「可塑性と安定性」及び、それらに由来する生物の「多様性」の問題を、生体の示す外部環境への応答機能の側面から捉え研究する。外部環境因子として、特に地球重力に着目し、地球生命の進化と多様化に対するその作用について、微小重力実験や宇宙実験を通してアプローチする。
	動的溶液科学	※教授：益田祐一 (☎5350)	溶液科学 液体・溶液中での分子の様々なタイプの運動、あるいは化学反応過程が、溶液内のどのような時間的・空間的サイズのゆらぎと相互作用しているかについて、種々の分光法により明らかにする。

注1) ○を付している教官は平成13年度末をもって退官する予定である。

注2) ※を付している教官は、講座代表である。

○平成12年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士後期課程）
外国人留学生募集要項

1. 専攻別募集人員・試験期日

専攻名	募集人員	試験期日	
		9月入試	3月入試
比較社会文化学専攻	若干名	実施しない	平成12年3月6日～8日
国際日本学専攻	若干名		
人間発達科学専攻	若干名		
人間環境科学専攻	若干名	平成11年9月20日～21日	
複合領域科学専攻	若干名		

2. 出願資格

下記に該当する外国人女子で、出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」（又は「留学」に変更できる在留資格）を有する者及び取得できる見込みの者とする。

- (1) 修士の学位を有する者（平成11年9月・12年3月に修士の学位を取得見込みの者を含む。）
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により修士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
- (5) 本研究科において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

注）日本において高等学校を卒業した者は、一般志願者用の募集要項により手続きをすること。

3. 出願期間・選考期日・合格発表・願書受付場所

	9月入試	3月入試
出願期間 ※	平成11年 8月24日（火）～8月26日（木）	平成12年 2月1日（火）～2月3日（木）
言語試験	9月20日（月）	3月6日（月）
口述試験	9月20日（月）～9月21日（火）	3月6日（月）～3月8日（水）
合格発表 ☆	9月28日（火）	3月13日（月）

※ 受付時間 午前9時～11時30分 午後1時～3時
出願書類を一括し、所定の期日までに本学に持参の上、提出すること（代理人可）。
（後日、受験票等を送付する。）

☆ 12時頃に人間文化研究科棟1階公示板に合格者の受験番号を掲示する。
合格通知書は、人間文化研究科事務室で受験票を確認の上、交付する。（合格者の代理人でも差し支えない。）なお、当日、受領できない者については郵送する。

注1) 「複合領域科学専攻」については、口述試験のみとし、言語試験は行わない。

注2) 出願資格(5)に該当する者の出願期間は、次のとおりとする。

9月入試 : 平成11年8月18日(水) ~ 8月20日(金)

3月入試 : 平成12年1月26日(水) ~ 1月28日(金)

注3) 口述試験は、本学で指定する日時とする。(後日、試験日程等を送付する。)

4. 出願手続・試験時間割・試験場所・選考方法

詳細については、各専攻ごとに定めてあるので参照のこと。

5. 検定料、入学料及び授業料

検定料 30,000円 [平成11年9月・平成12年3月に本学人間文化研究科
博士前期課程修了・修了見込者は不要]

入学料 277,000円 [平成11年9月・平成12年3月に本学人間文化研究科
博士前期課程修了・修了見込者は不要]

授業料 469,200円(年額) [但し、平成11年9月・平成12年3月に大学院
修士課程(博士前期課程)を修了し、本研究
科に入学する者については、修士課程(博士
前期課程)に入学した年度の額とする]

注1) 検定料については、「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。
出願手続きの際に納付すること。

注2) 出願資格(5)に該当する者についての検定料の納付手続きは、本学からの出願資格認定
通知書を受領した日から一週間以内に行うこと。

注3) 国費留学生は免除される場合があるので、国費証明書を持参の上、出願の際に申し出ること。

6. 注意事項

- (1) 同一入試日程では、2専攻に出願することはできない。
- (2) 出願手続き後は、いかなる事情があっても、書類の変更及び検定料の払い戻しの要求には応じない。
- (3) 出願について、不明な点がある場合には、学生部学務課留学生係(下記の電話番号)に問い合わせられたい。
- (4) 合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。

7. 入学手続

- (1) 入学手続関係書類は、平成12年3月中旬に郵送する。なお、修士課程在学者は、修士の学位を取得した者について入学を認める。

願書受付場所: お茶の水女子大学 学生部学務課留学生係

平成11年6月

お茶の水女子大学
〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号
TEL (03) 5978-5143

比較社会文化学専攻

1. 募集人員 若干名

2. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修 士 論 文 等	
	修 士 論 文	
	<p>2 部</p> <p>ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合はそれを添付することができる。修士論文以外に別主題について論文がある場合は、修士論文に代えてその論文を審査の対象とすることができる。</p> <p>提出論文は、試験終了時に返却する。</p> <p>※修士論文をもたない場合は、これに代わるものを提出すること。</p>	
	修士論文（主論文）の要旨（修士論文に代わるものの要旨）	
	<p>6 部</p> <p>2, 0 0 0 字以内、横書き、A 4 版用紙 3 枚以内（図表を含む。）におさめること。</p>	
	研 究 計 画 書	
	<p>6 部</p> <p>1, 0 0 0 字前後、横書き、A 4 版用紙 2 枚以内におさめること。</p>	
4	調 査 書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。（本学所定の用紙）
5	健康診断書	本学所定の用紙
6	外国人登録済証明書（出願時に、日本国内に在住している者） 戸籍謄本又は出生証明書等（出願時に、日本国外に在住している者）	
7	保 証 人 届	日本国内に居住する保証人の保証書（本学所定の用紙）。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
8	そ の 他	日本語の能力を証明するもの（例えば、日本語能力試験成績通知の写等）があれば提出すること。
9	返信用封筒	本学所定の封筒（長形 3 号）に宛名を明記し 3 6 0 円切手を貼付すること。（後日、受験票と口述試験日程等を送付する。）

注1) これらの書類の他に、指導教官またはそれに準ずる者が作成した推薦書(本学所定の用紙)を提出することができる。

注2) 修士論文等は、日本語以外の言語で作成したものについては、5000字以上の日本語要約を添付すること。

注3) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

注4) 入学願書の志望指導教官名の欄に、第一志望の指導教官名と第二志望の指導教官名を記入することが望ましい。

なお、出願に際しては、予め、志望する指導教官の専門と合致しているか確かめておくことができる。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に持参の上、提出すること(代理人可)。

3. 試験時間割及び試験場所

試験科目	【言語試験】	【口述試験】
試験日時	平成12年3月6日(月) 10:30～11:50	3月6日(月)13:30～ 7日(火)8日(水)10:00～
比較社会論講座 国際文化論講座 表象芸術論講座	英語・独語・仏語・中国語 ・日本語から1言語を選択	主論文及び研究計画
科学文化論講座	英語	

注1) 言語試験で、選択する言語を入学願書に記入すること。

注2) 言語試験において、辞書の使用は、認めない。

注3) 言語試験においては、母語以外の言語を選択すること。(科学文化論講座を除く)

注4) 口述試験は、本学で指定する日時とする。(後日、試験日程等を送付する。)

試験場所: お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

4. 選考方法

入学者の選考は、学力検査(言語試験、口述試験)及び出願書類を総合して行う。

国 際 日 本 学 専 攻

1. 募集人員 若干名

2. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入 学 願 書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修 士 論 文 等	
	修 士 論 文	
	<p>2 部</p> <p>ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合はそれを添付することができる。修士論文以外に別主題について論文がある場合は、修士論文に代えてその論文を審査の対象とすることができる。</p> <p>提出論文は、試験終了時に返却する。</p> <p>※修士論文をもたない場合は、これに代わるものを提出すること。</p>	
	修士論文（主論文）の要旨（修士論文に代わるものの要旨）	
	<p>6 部</p> <p>2, 0 0 0 字以内、横書き、A 4 版用紙 3 枚以内（図表を含む。）におさめること。</p>	
	研 究 計 画 書	
	<p>6 部</p> <p>1, 0 0 0 字前後、横書き、A 4 版用紙 2 枚以内におさめること。</p>	
4	調 査 書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。（本学所定の用紙）
5	健 康 診 断 書	本学所定の用紙
6	<p>外国人登録済証明書（出願時に、日本国内に在住している者）</p> <p>戸籍謄本又は出生証明書等（出願時に、日本国外に在住している者）</p>	
7	保 証 人 届	日本国内に居住する保証人の保証書（本学所定の用紙）。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
8	そ の 他	日本語の能力を証明するもの（例えば、日本語能力試験成績通知の写等）があれば提出すること。
9	返 信 用 封 筒	本学所定の封筒（長形 3 号）に宛名を明記し 3 6 0 円切手を貼付すること。（後日、受験票と口述試験日程等を送付する。）

注1) これらの書類の他に、指導教官またはそれに準ずる者が作成した推薦書（本学所定の用紙）を提出することができる。

注2) 修士論文等は、日本語以外の言語で作成したものについては、5000字以上の日本語要約を添付すること。

注3) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

注4) 入学願書の志望指導教官名の欄に、第一志望の指導教官名と第二志望の指導教官名を記入することが望ましい。

なお、出願に際しては、予め、志望する指導教官の専門と合致しているか確かめておくことができる。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に持参の上、提出すること（代理人可）。

3. 試験時間割及び試験場所

試験科目	【言語試験】	【口述試験】
試験日時	平成12年3月6日（月） 10:30～11:50	3月6日（月）13:30～ 7日（火）8日（水）10:00～
総合日本学講座 日本分析論講座 応用日本言語論講座	英語・独語・仏語・中国語 ・日本語から1言語を選択	主論文及び研究計画

注1) 言語試験で、選択する言語を入学願書に記入すること。

注2) 言語試験において、辞書の使用は、認めない。

注3) 言語試験においては、母語以外の言語を選択すること。（科学文化論講座を除く）

注4) 口述試験は、本学で指定する日時とする。（後日、試験日程等を送付する。）

試験場所： お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

4. 選考方法

入学者の選考は、学力検査（言語試験、口述試験）及び出願書類を総合して行う。

人 間 発 達 科 学 専 攻

1. 募集人員 若干名

2. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入 学 願 書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修 士 論 文 等	
	修 士 論 文	
	<p>2 部</p> <p>ただし、修士論文を補足する研究成果がある場合はそれを添付することができる。あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合は、それを修士論文にかえて審査の対象とすることができる。</p> <p>※ 修士論文をもたない場合は、これに相当するものを提出すること。</p> <p>提出論文は、試験終了時に返却する。</p>	
	修士論文（主論文）の要旨 （修士論文に相当するものの要旨）	
	<p>6 部</p> <p>2, 0 0 0 字以内、横書き、A 4 版用紙 3 枚以内（図表を含む。）におさめること。</p>	
	研 究 計 画 書	
	<p>6 部</p> <p>1, 0 0 0 字前後、横書き、A 4 版用紙 2 枚以内におさめること。</p>	
4	調 査 書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。（本学所定の用紙）
5	健 康 診 断 書	本学所定の用紙
6	外国人登録済証明書（出願時に、日本国内に在住している者） 戸籍謄本又は出生証明書等（出願時に、日本国外に在住している者）	
7	保 証 人 届	日本国内に居住する保証人の保証書（本学所定の用紙）。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
8	そ の 他	日本語の能力を証明するもの（例えば、日本語能力試験成績通知の写等）があれば提出すること。
9	返 信 用 封 筒	本学所定の封筒（長形 3 号）に宛名を明記し 3 6 0 円切手を貼付すること。（後日、受験票と口述試験日程等を送付する。）

注1) これらの書類の他に、指導教官またはそれに準ずる者が作成した推薦書（本学所定の用紙）を提出することができる。

注2) 修士論文等は、日本語以外の言語で作成したものについては、5000字以上の日本語要約を添付すること。

注3) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

注4) 出願に際しては、予め、志望する指導教官またはその指導教官が所属する講座代表の教官に問い合わせることが望ましい。講座代表教官については、21～22ページの人間発達科学専攻の「担当教官及び主な授業科目」一覧を参照のこと。
また、入学願書の志望指導教官名の欄に、第一志望の指導教官名と第二志望の指導教官名を記入することが望ましい。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に持参の上、提出すること（代理人可）。

3. 試験時間割及び試験場所

試験科目	【言語試験】	【口述試験】
試験日時	平成12年3月6日（月） 10:30～11:50	3月6日（月）13:30～ 7日（火）8日（水）10:00～
発達基礎論講座 発達臨床論講座 発達社会環境論講座 ジェンダー論講座	英語・日本語から 1言語を選択	主論文及び研究計画

注1) 言語試験で、選択する言語を入学願書に記入すること。

注2) 言語試験において、辞書の使用は、認めない。

注3) 口述試験は、本学で指定する日時とする。（後日、試験日程等を送付する。）

試験場所： お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

4. 選考方法

入学者の選考は、学力検査（言語試験、口述試験）及び出願書類を総合して行う。

人 間 環 境 科 学 専 攻

1. 募集人員 若干名

2. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入 学 願 書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修 士 論 文 等	
	A	B
	{ ①修士課程を修了した者 ②修士課程を修了見込みの者 }	{ 修士課程に在学し9月試験を 受験する者 }
	修 士 論 文	修士論文に代わるもの
	2部 ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合、あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合はその論文を審査論文とすることができる。 なお、修士論文をもたない場合は、これに代わるものを審査論文として提出すること。 いずれの場合も審査論文が、日本語あるいは英語で書かれていないときは、 日本語 5,000字程度 または 英 語 2,000語程度 の概要を添付すること。（A4版用紙） 提出論文は、試験終了時に返却する。	6部 修士論文として提出する予定の研究内容を 日本語 5,000字程度 または 英 語 2,000語程度 にまとめること。（A4版用紙） ただし、図表は字数には含まれない。 なお、公表された研究成果があればそれを添付することができる。
	修士論文（審査論文）の要旨	
	6部 修士論文を審査論文とした場合、要旨が日本語で書かれていないときは、日本語に翻訳して提出すること。 修士論文以外を審査論文とした場合、 要旨は 日本語 2,000字程度 または 英 語 800語程度 で A4版用紙3枚以内（図表を含む）におさめること。	

3	研究計画書	研究計画書
	6部 日本語1, 000字程度または英語400語程度で、A4版用紙2枚以内におさめること。	
4	調査書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。(本学所定の用紙)
5	健康診断書	本学所定の用紙
6	外国人登録済証明書(出願時に、日本国内に在住している者) 戸籍謄本又は出生証明書等(出願時に、日本国外に在住している者)	
7	保証人届	日本国内に居住する保証人の保証書(本学所定の用紙)。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
8	その他	日本語の能力を証明するもの(例えば、日本語能力試験成績通知の写等)があれば提出すること。
9	返信用封筒	本学所定の封筒(長形3号)に宛名を明記し360円切手を貼付すること。(後日、受験票と口述試験日程等を送付する。)

注1) これらの書類の他に、指導教官またはそれに準ずる者が作成した推薦書(本学所定の用紙)を提出することができる。

注2) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

注3) 出願に際しては、予め、志望する指導教官またはその指導教官が所属する講座代表の教官に問い合わせることが望ましい。講座代表教官については、23～25ページの人間環境科学専攻の「担当教官及び主な授業科目」一覧を参照のこと。

また、入学願書の志望指導教官名の欄に、第一志望の指導教官名と第二志望の指導教官名を記入することが望ましい。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に持参の上、提出すること(代理人可)。

3. 試験時間割及び試験場所

試験科目	【言語試験】	【口述試験】
試験日時	1日目 10:30～11:50	1日目 13:30～ 2日目・3日目 10:00～
相関生命科学講座 生活システム科学講座 食環境科学講座	英語	主論文及び研究計画

注1) 言語試験において、辞書の使用は認めない。

注2) 口述試験は、本学で指定する日時とする。(後日、試験日程等を送付する。)

試験場所: お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

4. 選考方法

入学者の選考は、学力検査(言語試験、口述試験)及び出願書類を総合して行う。

複 合 領 域 科 学 専 攻

1. 募集人員 若干名

2. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入 学 願 書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修 士 論 文 等	
	A	B
	{ ①修士課程を修了した者 ②修士課程を修了見込みの者 }	{ 修士課程に在学し9月試験を 受験する者 }
	修 士 論 文	修士論文に代わるもの
	2部 ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合、あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合はその論文を審査論文とすることができる。 なお、修士論文をもたない場合は、これに代わるものを審査論文として提出すること。 いずれの場合も審査論文が、日本語あるいは英語で書かれていないときは、 日本語 5,000字程度 または 英語 2,000語程度 の概要を添付すること。(A4版用紙) 提出論文は、試験終了時に返却する。	6部 修士論文として提出する予定の研究内容を 日本語 5,000字程度 または 英語 2,000語程度 にまとめること。(A4版用紙) ただし、図表は字数には含まれない。 なお、公表された研究成果があればそれを添付することができる。
	修士論文（審査論文）の要旨	
	6部 修士論文を審査論文とした場合、要旨が日本語で書かれていないときは、日本語に翻訳して提出すること。 修士論文以外を審査論文とした場合、 要旨は 日本語 2,000字程度 または 英語 800語程度 で A4版用紙3枚以内（図表を含む）におさめること。	

3	研究計画書	研究計画書
	6部 日本語1,000字程度または英語400語程度で、A4版用紙2枚以内におさめ	
4	調査書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。(本学所定の用紙)
5	健康診断書	本学所定の用紙
6	外国人登録済証明書(出願時に、日本国内に在住している者) 戸籍謄本又は出生証明書等(出願時に、日本国外に在住している者)	
7	保証人届	日本国内に居住する保証人の保証書(本学所定の用紙)。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
8	その他	日本語の能力を証明するもの(例えば、日本語能力試験成績通知の写等)があれば提出すること。
6	返信用封筒	本学所定の封筒(長形3号)に宛名を明記し360円切手を貼付すること。(後日、受験票と口述試験日程等を送付する。)

注1) これらの書類の他に、指導教官またはそれに準ずる者が作成した推薦書(本学所定の用紙)を提出することができる。

注2) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

注3) 出願に際しては、予め、志望する指導教官またはその指導教官が所属する講座代表の教官に問い合わせることが望ましい。講座代表教官については、26～27ページの複合領域科学専攻の「担当教官及び主な授業科目」一覧を参照のこと。

また、入学願書の志望指導教官名の欄に、第一志望の指導教官名と第二志望の指導教官名を記入することが望ましい。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に持参の上、提出すること(代理人可)。

3. 試験時間割及び試験場所

試験科目	【口述試験】
試験日時	1日目 13:30～ 2日目・3日目 10:00～
社会情報科学講座 数理自然情報科学講座 物質科学講座 複雑系科学講座	主論文及び研究計画

注1) 口述試験は、本学で指定する日時とする。(後日、試験日程等を送付する。)

試験場所: お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

4. 選考方法

入学者の選考は、学力検査(口述試験)及び出願書類を総合して行う。

○平成12年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士前期課程）
学生募集要項

1. 募集人員・試験期日

専攻	募集人員	9月入試	2月入試
		試験期日	試験期日
言語文化専攻	*32名	平成11年 9月1日・2日	平成12年2月1日・2日 日本語教育コースのみ 2月1日・2日・3日
人文学専攻	28名		平成12年 2月1日・2日
発達社会科学専攻	*43名		
ライフサイエンス専攻	45名		
物質科学専攻	23名		
数理・情報科学専攻	*25名		

* 募集人員には、社会人特別選抜の募集人員を含む。

2. 出願期間

9月入試：平成11年8月 3日（火）～8月 6日（金）（8月5日付けの消印有効）

2月入試：平成12年1月 7日（金）～1月13日（木）（1月12日付けの消印有効）

ただし、1月8日（土）、9日（日）、11日（祝日）は受け付けない。

*受付時間：午前9時～11時30分、午後1時～3時

*持参の場合は、本学所定の封筒に出願書類一式を同封の上、提出のこと。

*受験票等は、受験者心得・試験場所等を同封の上、後日郵送する。

（注）言語文化専攻、人文学専攻及び発達社会科学専攻は、9月入試は実施しない。

3. 出願資格・出願手続

各専攻の募集要項を参照すること。

4. 願書受付場所

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 人間文化研究科事務室（2階）

地下鉄丸の内線茗荷谷駅 徒歩約5分

地下鉄有楽町線護国寺駅（音羽口） 徒歩約5分

都バス大塚二丁目停留所前

5. 選考方法

入学者の選考は、「筆記試験」及び「口述試験」並びに調査書等の出願書類を総合して行う。

なお、詳細については各専攻の募集要項を参照すること。

6. 試験場所

9月入試：お茶の水女子大学理学部、生活科学部、人間文化研究科

2月入試：お茶の水女子大学文教育学部、理学部、生活科学部、人間文化研究科

7. 合格発表

9月入試：平成11年9月10日（金）

2月入試：平成12年2月14日（月）

12時頃人間文化研究科棟1階に合格者の受験番号を掲示する。

合格通知は、人間文化研究科事務室（2階）で受験票を確認の上交付する。（合格者の代理人でも差し支えない。）なお、当日、受領できない者については郵送する。

8. 検定料・入学科・授業料

検定料：30,000円 入学科：277,000円 授業料：478,800円（年額）

9. 入学手続関係書類

9月入試：平成12年2月下旬に郵送する。

2月入試：合格通知書に同封する。

* 合格通知後、住所を変更した場合は、必ず人間文化研究科事務室へ届け出ること。

10. 注意事項

(1) 出願手続き後は、いかなる事情があっても、書類の変更及び検定料の払い戻しの要求には応じない。

(2) 合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。

11. 問い合わせ先

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 人間文化研究科事務室

TEL 03(5978)5821・5822

博士前期課程の目的及び修了要件

(目的)

1. 博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。
2. 博士前期課程の標準修業年限は、2年とする。

(修了要件)

1. 博士前期課程の修了要件は、当該課程に2年以上在学し、所要の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、優れた研究業績を上げたと認められた者の在学期間に関しては、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。
2. 前項の場合において、博士前期課程の目的に応じて適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって、修士論文の審査に代えることができる。

(進学)

本学大学院の博士前期課程を修了したものは、選考の上、博士後期課程に進学することができる。

○取得できる学位

専攻	学位	学位に付記する専攻分野の名称
言語文化専攻	修士	人文科学・社会科学・学術
人文学専攻		人文科学・社会科学・生活科学・学術
発達社会科学専攻 発達人間科学系 生活・開発科学系		人文科学・生活科学・社会科学 理学・学術
ライフサイエンス専攻 生活科学系 生命科学系		理学・生活科学・学術
物質科学専攻		理学
数理・情報科学専攻		理学・学術

(単位互換)

本学の大学院と単位互換協定を締結している大学の大学院は、次のとおりである。

本学博士前期課程	他大学大学院研究科名
言語文化専攻	東京大学 人文社会系研究科アジア文化研究専攻 中国語中国文学専門課程
発達社会科学専攻	東京大学 教育学研究科
全専攻	東京大学 理学系研究科、数理科学研究科
	東京工業大学 理工学研究科、生命理工学研究科、 総合理工学研究科、情報理工学研究科
	奈良女子大学 人間文化研究科
	日本女子大学 家政学研究科、文学研究科、人間社会研究科、理学研究科

言語文化専攻学生募集要項

1. 募集人員 32名（社会人特別選抜の募集人員5名を含む。）
*社会人特別選抜学生募集については16頁を参照

2. 出願資格 下記に該当する女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成12年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

3. 出願手続

- (1) 出願書類等

1	入学願書 受験票・写真票	5cm×4cmで出願前3か月以内に撮影した写真2枚を指定欄に貼付
2	卒業証明書又は卒業見込証明書	
3	推薦書	指導の教員又は主任教員等により作成されたもの。（形式随意）
4	卒業論文	卒業論文又はそれに代わるもの。 （本学を卒業見込みの者は、提出する必要はない。）
5	研究計画書	将来の研究計画を1,000字以内でまとめたもの。 （本学所定の用紙）
6	調査書	本学所定の用紙（本学を卒業した者及び卒業見込みの者は、成績証明書を提出すること。）
7	健康診断書	本学所定の用紙
8	検定料	30,000円（「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
9	検定料納付書	本学所定の用紙
10	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

本学所定の封筒に出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、封筒の志望専攻欄に『言語文化専攻』と記入すること。

また、郵送する場合は書留速達とすること。

4. 選考日時及び選考方法

試験日時 コース	平成12年2月1日(火)		2月2日(水)
	外国語試験 10:00~11:30	専門試験 13:00~15:00	日本語教育コースのみ 2日(水)・3日(木)
日本語文化学 ----- アジア言語文化学 ----- 日本語教育	英語・独語・仏語・ 中国語から1か国語選 択	日本語学・日本文学 ----- 中国語学・中国文学 ----- 日本語教育学・ 日本語文化学	口述試験 10:00~
英語圏・欧州言語文化学 (英語圏言語文化専修)	仏語・独語・中国語 から1か国語選択	英語・英語学及び 英米文学	
英語圏・欧州言語文化学 (仏語圏言語文化専修)	英語・独語・中国語 から1か国語選択	仏語・仏語学及び 仏文学	

人文学専攻学生募集要項

1. 募集人員 28名

2. 出願資格 下記に該当する女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成11年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書 受験票・写真票	5cm×4cmで出願前3か月以内に撮影した写真2枚を指定欄に貼付
2	卒業証明書又は卒業見込証明書	
3	卒業論文	卒業論文又はこれに代わるものが提出できない場合はその旨申し出ること。(注) (本学を卒業見込みの者は、提出する必要はない。)
4	研究計画書	1,000字程度(本学所定の用紙)
5	調査書	本学所定の用紙(本学を卒業した者及び卒業見込みの者は、成績証明書を提出すること。)
6	健康診断書	本学所定の用紙
7	検定料	30,000円(「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。)
8	検定料納付書	本学所定の用紙
9	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(注) 音楽表現学コース志望者で論文に代わるものとして演奏を行った者は、卒業試験演奏曲目を提出すること。

(2) 出願方法

本学所定の封筒に出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。
なお、封筒の志望専攻欄に『人文学専攻』と記入すること。
また、郵送する場合は書留速達とすること。

4. 選考日時及び選考方法

試験日時 コース	平成12年2月1日(火)		2月2日(水)
	外国語 10:00~11:30	専門科目 13:00~15:00	口述又は実技試験 10:00~
思想文化学	英語・独語・仏語・ 中国語から1か国語 を選択	哲学又は倫理学 のうちから1科 目を選択(注1)	口 述 試 験
歴史文化学		日本史・東洋史 ・西洋史・美術 史のうちから1 科目を選択。な お、美術史分野 は専門試験に加 え、英・独・仏 から1か国語を 課す(外国語試 験とは異なる言 語を選択)(注2)	
服飾文化学		服飾史および服 飾美学	
舞踊・表現行動学		舞踊学	舞踊実技(舞踊の種類・ 演目は自由) (注4)
音楽表現学		西洋音楽史及び 日本音楽史から 選択	音楽学:演奏実技(任意 の楽器又は声、曲目は自 由)を課する。 演奏学:10分程度の演 奏実技(曲目は自由)を 課する。(注3) いずれの場合も、必要 な場合は伴奏者を同伴す ること。

- 注1. 思想文化学志望者は、入学願書に哲学又は倫理学のいずれかに○を付すこと。
 2. 歴史文化学志望者は、入学願書に日本史・東洋史・西洋史・美術史のいずれかに○を付すこと。
 3. 音楽表現学志望者は、入学願書に音楽学又は演奏学のいずれかに○を付すこと。
 4. 使用する音楽をカセットテープに録音し持参のこと。

発達社会科学専攻学生募集要項

1. 募集人員 43 名（社会人特別選抜の募集人員若干名を含む。）
 ＊社会人特別選抜学生募集については18頁を参照

2. 出願資格 下記に該当する女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成12年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書 受験票・写真票	5 cm×4 cmで出願前3か月以内に撮影した写真2枚を指定欄に貼付
2	卒業証明書又は卒業見込証明書	
3	推薦書	指導の教員又は主任教員、所属長等により作成されたもの。 (形式随意) (本学を卒業見込みの者は、提出する必要はない。)
4	卒業論文	卒業論文、またはその他の研究成果
5	研究報告書	2,000字程度の概要を提出すること。(本学所定の用紙) (注)
6	研究計画書	大学院における研究計画を2,000字以内でまとめたもの。 (本学所定の用紙) (注)
7	調査書	本学所定の用紙(本学を卒業した者及び卒業見込みの者は、成績証明書を提出すること。)
8	健康診断書	本学所定の用紙
9	検定料	30,000円(「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。)
10	検定料納付書	本学所定の用紙
11	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(注) 生活・開発科学系については、別紙にワープロ・パソコン等で作成した本学所定の用紙に貼付してもよい。

(2) 出願方法

本学所定の封筒に出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。
なお、封筒の志望専攻欄に『発達社会科学専攻』と記入すること。
また、郵送する場合は書留速達とすること。

4. 選考日時及び選考方法

【発達人間科学系】

試験日時 コース	平成12年2月1日(火)		2月2日(水)
	外国語試験 10:00～12:00	専門試験 13:00～15:00	
教育科学	英語 (辞書持込み不可)	教育科学	口述試験 10:00～
心理学		教育心理学, 発達心理学, 認知心理学, 社会心理学の中から志望領域の科目を1つ選択	
発達臨床学		発達臨床心理学	
応用社会学		応用社会学	
社会臨床論		共通問題と選択問題	

【生活・開発科学系】

試験日時 コース	平成12年2月1日(火)		2月2日(水)	
	外国語試験(英語) 10:00～11:10	11:20～12:00		専門試験 13:00～15:00
生活政策学	I 英語和訳 (辞書持込不可)	II 和文英訳 (辞書持込可)	6問中2問選択。 内1問は必ず志望コースからの出題問題を選択すること。	口述試験 10:00～
地理環境学				
開発・ジェンダー論				

ライフサイエンス専攻学生募集要項

1. 募集人員 45名

2. 出願資格 下記に該当する女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成12年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者
- (6) 大学3年生で、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本学大学院が認めた者ただし、この件については2月入試で行う。

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書 受験票・写真票	5cm×4cmで出願前3か月以内に撮影した写真2枚を指定欄に貼付
2	卒業証明書又は卒業見込証明書	
3	調査書	本学所定の用紙（本学を卒業した者及び卒業見込みの者は、成績証明書を提出すること。）
4	健康診断書	本学所定の用紙
5	検定料	30,000円（「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
6	検定料納付書	本学所定の用紙
7	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

本学所定の封筒に出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。
なお、封筒の志望専攻欄に『ライフサイエンス専攻』と記入すること。
また、郵送する場合は書留速達とすること。

4. 選考日時及び選考方法

【生活科学系】

9月入試	平成11年9月1日(水)		
2月入試	平成12年2月1日(火)		
選考	外国語 (英語) 10:30~11:30	専門科目 12:30~14:30 生活環境科学分野の 問題から選択する。	口述試験 15:00~ 卒業研究の内容及び 将来の研究等につい て口述する。

(注) 志願者は、必ず志望コース名を入学願書等に記入すること。

【生命科学系】

9月入試	平成11年9月1日(水)		
2月入試	平成12年2月1日(火)		
選考	外国語 (英語) 10:30~11:30	口述試験 12:30~ 生命科学分野に関する卒業研究の内容及び 将来の研究等について口述する(発表、質疑 応答とも10分程度を予定)。	

(注) 1. 志願者は、必ず志望コース名を入学願書等に記入すること。
2. 生命科学系を希望する受験生で指導教官又は研究テーマについて質問がある場合は、小島助教授(☎5345)に問い合わせること。

- ※ 1. 入試説明会・見学会を平成11年7月20日に行うので、参加希望者はE-mail (grad@cc.ocha.ac.jp)又はFAX(03-5978-5344)で、希望分野を明記の上、申し込むこと。
2. URL: <http://www.ocha.ac.jp>

物質科学専攻学生募集要項

1. 募集人員 23 名

2. 出願資格 下記に該当する女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成12年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者
- (6) 大学3年生で、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本学大学院が認めた者
ただし、この件については2月入試で行う。

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書 受験票・写真票	① 第一志望のコース名及び指導教官名は、必ず記入すること。 ② 第二志望のコース名及び指導教官名を記入することもできる。 ③ 第二志望のコースは、第一志望のコースと異なってもよい。 5 cm × 4 cm で出願前3か月以内に撮影した写真2枚を指定欄に貼付
2	卒業証明書又は卒業見込証明書	
3	調査書	本学所定の用紙（本学を卒業した者及び卒業見込みの者は、成績証明書を提出すること。）
4	健康診断書	本学所定の用紙
5	検定料	30,000円（「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
6	検定料納付書	本学所定の用紙
7	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

本学所定の封筒に出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。
 なお、封筒の志望専攻欄に『物質科学専攻』と記入すること。
 また、郵送する場合は書留速達とすること。

4. 選考日時及び選考方法

9月入試	平成11年9月1日(水)		9月2日(木)
2月入試	平成12年2月1日(火)		2月2日(水)
選考	物質科学に関する 基礎科目 9:30~12:30	物質科学に関する 専門科目 13:30~15:30	口述試験 10:00~
	9問中4問選択 (各問100点)	8問中2問選択 (各問150点)	

数理・情報科学専攻学生募集要項

1. 募集人員 25 名（社会人特別選抜の募集人員若干名を含む。）
*社会人特別選抜学生募集については20頁を参照

2. 出願資格 下記に該当する女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成12年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者
- (6) 大学3年生で、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本学大学院が認めた者ただし、この件については2月入試で行う。

（注）出願資格(5)・(6)に該当する者は、担当教官又は専攻長と事前に相談すること。

3. 出願手続

- (1) 出願書類等

1	入学願書 受験票・写真票	5 cm×4 cmで出願前3か月以内に撮影した写真2枚を指定欄に貼付
2	卒業証明書又は卒業見込証明書	
3	調査書	本学所定の用紙（本学を卒業した者及び卒業見込みの者は、成績証明書を提出すること。）
4	健康診断書	本学所定の用紙
5	検定料	30,000円（「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
6	検定料納付書	本学所定の用紙
7	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

- (2) 出願方法

本学所定の封筒に出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。
なお、封筒の志望専攻欄に『数理・情報科学専攻』と記入すること。
また、郵送する場合は書留速達とすること。

4. 選考日時及び選考方法

9月入試	平成11年9月1日(水)				9月2日(木)
2月入試	平成12年2月1日(火)				2月2日(水)
選考	一般・基礎教育科目 (微積分・線形代数)	外国語 (英語)	専門科目	口述試験	口述試験 10:00~
	9:30 ~ 10:50	11:00) 12:00	13:00) 16:00	16:30)	

- 注) : (1) 専門科目の試験内容: 数学コースは、位相空間論1題と選択2題
他コースは、選択3題
- (2) 口述試験の時間割は試験1日目に発表する。
- (3) 受験するコースと希望指導教官の所属コースが異なる場合は当該教官または専攻長と事前に相談することが望ましい。
- (4) 数学コースについては、「数A・数B・数C」の区分に関する希望順位を記入すること。

〔数A〕教授 渡辺ヒサ子 ポテンシャル論
真島 秀行 微分方程式論
前田ミチエ 測度論
助教授 松崎 克彦 複素解析学
武部 尚志 数理物理学
〔数B〕教授 藤原 正彦 数論
榎本 陽子 群論および表現論
助教授 横川 光司 代数幾何
〔数C〕教授 塚田 和美 微分幾何
中居 功 位相幾何学、WEB幾何学

言語文化専攻社会人特別選抜学生募集要項

1. 募集人員 日本語教育コース 5名

2. 募集対象

大学卒業後、過去10年以内に2年間以上（出願年度の3月末日までの期間を通算して2年間以上となる場合を含む。）の日本語教育の経験を有し、日本語教育学・日本語文化学についてさらに高度の専門能力を養おうとする者。

（注）ただし、個人教授及び研究会会員等の経験歴は、ここでは含まれない。

3. 出願資格 下記に該当する女子とする。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

4. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書 受験票・写真票	5cm×4cmで出願前3か月以内に撮影した写真2枚を指定欄に貼付
2	卒業証明書	
3	推薦書	指導の教員又は主任教員、所属長等により作成されたもの。（形式随意）
4	研究報告書	大学における卒業論文、あるいは、卒業後の研究内容を1,000字以内でまとめたもの。（本学所定の用紙）
5	研究計画書	将来の研究計画を2,000字以内でまとめたもの。（本学所定の用紙）
6	日本語教育経歴	日本語教育機関の経歴を本学所定の用紙に記入すること。
7	職務内容報告書	日本語教育機関における職務の内容を1,000字以内にまとめたもの。（本学所定の用紙）
8	調査書	本学所定の用紙（本学を卒業した者は、成績証明書を提出すること。）
9	在職証明書	常勤、非常勤を問わず在職経験をしめず「在職証明書」
10	健康診断書	本学所定の用紙
11	検定料	30,000円（「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
12	検定料納付書	本学所定の用紙
13	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

本学所定の封筒に出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。
なお、封筒の社会人の欄に○を付け、志望専攻欄に『言語文化専攻』と記入すること。
また、郵送する場合は書留速達とすること。

5. 選考日時及び選考方法

平成12年2月1日(火)		2月2日(水)・3日(木)
外国語	専門科目	口述試験
10:00~11:30	13:00~15:00	10:00~
英語・独語・仏語・ 中国語のうちから1か 国語を選択する。	日本語教育学 日本語文化学	主に研究報告書・研究計画書・職務内 容報告書に基づいて行う。

※ 日本語教育の経歴等について

本専攻が対象とする在職社会人は、公的、私的とを問わず、各種の日本語教育機関で常勤又は非常勤で日本語教育に従事している者をいう。

「2年以上の日本語教育の経験」とは、上記の各種日本語教育機関で常勤又は非常勤の従事者としての2年以上であり、非常勤の特殊な勤務(例えば、短期集中授業の講師等)として、通算して2年以上に達する場合も認められる。

発達社会科学専攻社会人特別選抜学生募集要項

1. 募集人員 発達人間科学系・社会臨床論コース 若干名

2. 出願資格

次のいずれかに該当し、平成12年4月までに2年以上の社会経験を経た女子とする。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書 受験票・写真票	5 cm × 4 cm で出願前 3 か月以内に撮影した写真 2 枚を指定欄に貼付
2	卒業証明書	
3	志望理由書	本学所定の用紙
4	卒業論文	卒業論文又はそれに代わる研究成果
5	研究報告書	2, 0 0 0 字程度の概要を提出すること。（本学所定の用紙）
6	研究計画書	大学院における研究計画を 2, 0 0 0 字以内でまとめたもの。 （本学所定の用紙）
7	調査書	本学所定の用紙（本学を卒業した者は、成績証明書を提出すること。）
8	健康診断書	本学所定の用紙
9	検定料	3 0, 0 0 0 円（「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
10	検定料納付書	本学所定の用紙
11	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し 3 5 0 円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

本学所定の封筒に出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。
なお、封筒の社会人の欄に○を付け、志望専攻欄に「発達社会科学専攻」と記入すること。
また、郵送する場合は書留速達とすること。

4. 選考日時及び選考方法

平成12年2月1日(火)		2月2日(水)
外国語試験 10:00~12:00	専門試験 13:00~15:00	口述試験 10:00~
英語	共通問題と選択問題	主に志望理由書、研究報告書、研究計画書に基づいて行う。

数理・情報科学専攻社会人特別選抜学生募集要項

1. 専攻別募集人員 情報科学コース及び応用数理コース 若干名

2. 出願資格

次のいずれかに該当し、最終学歴以降平成12年4月までに2年以上の社会経験を有する女子とする。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書 受験票・写真票	5 cm×4 cmで出願前3か月以内に撮影した写真2枚を指定欄に貼付
2	卒業証明書	
3	調査書	本学所定の用紙（本学を卒業した者は、成績証明書を提出すること。）
4	志望理由書	本学所定の用紙（800字程度）
5	健康診断書	本学所定の用紙
6	検定料	30,000円（「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
7	検定料納付書	本学所定の用紙
8	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

本学所定の封筒に出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。
なお、封筒の社会人の欄に○を付け、志望専攻欄に『数理・情報科学専攻』と記入すること。
また、郵送する場合は書留速達とすること。

4. 選考日時、選考方法及び試験場所

9月入試	平成11年9月1日(水)		
2月入試	平成12年2月1日(火)		
選考	一般・基礎教育科目	外国語	口述試験 13:00～
	9:30～10:50	11:00～12:00	
	微積分・線形代数	英語	

5. 昼夜開講制と教育方法の特例

当専攻では社会人を対象に大学院設置基準第14条の規定による教育方法の特例として昼夜開講制を行うこととし、その概略は次のとおりである。

前期課程の2年のうち、前半の1年間は原則として本学での履修を必要とするが、後半の1年間はスクーリングのしばりを大幅に緩和した形で研究指導を受けながら、修士論文を作成することになる。

さらに、特別の事情があると認められたときは、最初の1年間も夏休みなどの活用によって、かなり柔軟な学習形態をとることが可能な場合もある。

このように、指導教官の指導のもとに受講計画、研究計画について個々に柔軟に対応することができるが、可能な範囲については様々であるので希望する指導教官と前もって相談することが望ましい。

人間文化研究科の構成

前期課程（修士課程）

〔6専攻4系30コース〕（入学定員196名）

〔言語文化専攻〕（32名）

日本言語文化学コース
アジア言語文化学コース
英語圏・欧州言語文化学コース
日本語教育コース

〔人文学専攻〕（28名）

思想文化学コース
歴史文化学コース
服飾文化学コース
舞踊・表現行動学コース
音楽表現学コース

〔発達社会科学専攻〕（43名）

発達人間科学系
教育科学コース
心理学コース
発達臨床学コース
応用社会学コース
社会臨床論コース
生活・開発科学系
生活政策学コース
地理環境学コース
開発・ジェンダー論コース

〔ライフサイエンス専攻〕（45名）

生活科学系
食品科学コース
栄養科学コース
人間生活工学コース
環境生活工学コース
生物人間科学コース
生命科学系
分子生物学コース
生命体科学コース

〔物質科学専攻〕（23名）

相関物質科学コース
分子科学コース
物理科学コース

〔数理・情報科学専攻〕（25名）

情報科学コース
応用数理コース
数学コース

後期課程（博士課程）

〔5専攻 18講座〕

〔比較社会文化学専攻〕

比較社会論講座
国際文化論講座
表象芸術論講座
科学文化論講座

〔国際日本学専攻〕

総合日本学講座
日本分析論講座
応用日本語論講座

〔人間発達科学専攻〕

発達基礎論講座
発達臨床論講座
発達社会環境論講座
ジェンダー論講座

〔人間環境科学専攻〕

相関生命科学講座
生活システム科学講座
食環境科学講座

〔複合領域科学専攻〕

社会情報講座
数理自然情報科学講座
物質科学講座
複雑系科学講座

専攻及びコースの概要

① 言語文化専攻

人間の基本的営為の一つである言語活動とそれに基づいて営まれている様々な文化現象について、高度で総合的な研究を行う。

具体的には、日本語、中国語、英語、フランス語、ドイツ語のそれぞれの言語と、これらの言語を用いて営まれている文学をはじめとする文化活動を、あるいは個別的に深く分析し、あるいは比較対照的に幅広く考察する。

さらに、国内外で活躍できる日本語教育・研究の専門家の養成を行う。

○ 日本言語文化学

多様な方法論に基づいて、各時代・分野ごとに日本文学および日本語について深く研究し、日本文化の精髓にせまる。

○ アジア言語文化学

中国大陸、台湾、香港、東南アジアなど、中国語圏における言語と文学を主要な研究対象とする。中国古典の伝播と受容といった比較文化論的研究や、中国語と他言語の対照的研究も行う。

○ 英語圏・欧州言語文化学

英米文学を中心として広く英語圏の文学と文化および英語学を研究する英語圏言語文化専修と、仏文学を中心として広く仏語圏の文学と文化および仏語学を研究する仏語圏言語文化専修に分かれるが、その共通の姿勢として、独語圏を含む各言語圏のあいだの比較対照など、総合的に研究することも留意する。語学の分野では、英語学・仏語学とともに、第二言語教授法などの実用面の研究を併せて行う。

○ 日本語教育

国際的に広い視野に立って、日本語教育に対する高度且つ多様な要望にこたえうる日本語教育学の研究者並びに実践的日本語教員の養成と、日本語教育社会人の再教育を行う。

② 人文学専攻

哲学・史学・生活文化学などの狭い意味での人文諸学に、身体活動を中核とした芸術系の分野を加え、人文諸学の領域の拡大を図るとともに、それら細分化していた教育・研究体制を統合することにより、身体活動をふくむ人間の文化活動を歴史的かつ共時的に幅広くとりあげ、総合的に探究することをめざす。

○ 思想文化学

本コースは「哲学」と「倫理学」（「日本倫理思想史」）とに分かれている。「哲学」は主に西洋哲学を対象とするが、特に議論を通して様々な理論や具体的な問題について根本的かつ緻密に考える能力の養成に重点をおいた教育を行う。

「日本倫理思想史」は、神道、仏教、儒教を中心とする文献講読や調査を基に、広く日本思想の本質を探究することをテーマとした教育研究を行う。

○ 歴史文化学

近代ヨーロッパ美術と南アジアの仏教美術を主とする美術史学と日本・東洋・西洋を対象とする歴史学をドッキングさせることによって、文字資料に造形資料、視覚資料の分析を加えて総合した多角的な研究を目指す。

○ 服飾文化学

近年、日本および欧米で服飾の研究が増大しているのを踏まえ、時代、地域、社会、美意識、生活感情などとの関係の中で服飾を研究する。現代の風俗についても、「流行情報特論」を開講し、現代の感性の動向を数量的解析とフィールドワークによって分析する。

○ 舞踊・表現行動学

舞踊並びに人間の表現行動について、芸術、民族、教育などの学際的な視点から総合的に教育・研究を行う。実践をふまえ、理論的、科学的知見を十分に習得した専門的人材（研究者、指導者、上演者など）を育成する。

○ 音楽表現学

音楽を文化表象として、理論と実践の双方から研究する。理論面では、日本を含めた世界の諸文化や音楽と社会との関連を扱う。実践面では、西洋近代の鍵盤音楽と声楽を中心的な対象にして、身体行動による表現技術の研究を実証的に行い、国際的に通用する演奏者を養成する。

◎ 発達社会科学専攻（発達人間科学系）

社会的かつ個人的存在としての人間とその発達過程を対象に、教育学、心理学、社会学等をベースとして、学際的にアプローチする。社会的・心理的諸病理の解決を目指した実践的課題意識に基づいて、社会－人間－発達を総合的・有機的に結びつける理論と、経験科学的方法論を探究する。

○ 教育学

人間の生涯にわたる発達の過程を多様な方法論により科学的に探究するとともに、諸教育問題の解決に資する実践的な研究を行う。

基礎科学・方法論として、教育人間学、比較教育文化史、教育社会学を置き、またマクロ・ミクロの実践科学として、教育行財政学、教育方法学、生涯学習論、博物館学を設置する。

○ 心理学

心理学コースでは、健常な人間の心理を脳という核を中心に、発達という時間軸、社会という空間軸の中で、多角的・総合的に検討し理解する。

そのために次のような授業科目を設けている。「心理社会行動論」、「心理発達論」、「人格形成論」、「認知システム論」、「発達情報管理論」。これらの授業科目における教育・研究を通して、心理学領域の研究者を育成することが、本コースの目的である。

○ 発達臨床学

発達臨床心理学の教育及び研究を行う。臨床心理学を柱として、特に家庭や学校・幼稚園の場における心理臨床的かつ発達のな問題について専門的に対処する力を養成するとともに、発達臨床心理学の研究を行う基礎的な研究能力を養う。

○ 応用社会学

現代社会の諸問題（家族・地域、コミュニケーションの問題など）を社会的に研究する。

人間関係、職業集団、ネットワークを扱う「社会集団論」、逸脱、差別、コミュニケーションを扱う「社会意識論」、福祉政策、社会病理を扱う「社会保障論」などを開講する。

○ 社会臨床論

不適応やストレスなど、子どもや教師・親の抱える諸問題を理解する上で、現在何より求められているのは、それをとりまく社会の文化的・歴史的状況を踏まえた理解である。社会臨床論コースは、このような臨床場面と社会との関連を重視する新たな分野であり、研究者志望者だけでなく、実務家志望者にとっても大いに得るものがあると思われる。

対象とする子どもは乳幼児から青少年までに及び、またスタッフの学問的背景も、文化心理学、教育社会学、保育学、家政学など多様である。授業では、これらの学問的見地から、諸問題について理解が深められるとともに、それらを解明するための方法論の習得が目指される。

◎ 発達社会科学専攻（生活・開発科学系）

「人間・文化と自然環境」と「人間の生活の質」とは、従来の学問の領域区分ではほとんど独立に捉えられてきたが、「開発」及び「ジェンダー」という両者を通貫する視点によって、新たな展開を遂げようとしている。すなわち、あらゆるレベルでの相互依存性が強まった現代社会特有の問題－代表的な事例は地球環境問題や、男女共同参画型社会形成などに的確に対処するには、既存の価値基準・行動規範を乗り越えることが必要である。これらの現実を見定めた教育研究体制の整備と、それによる人材の育成が急務である。これは同時に従来の学問研究の枠組みを再検討することにもなる。

○ 生活政策学

高齢社会化、生活をめぐる諸価値の多様化、生活のグローバル化、女性の社会的活動領域の拡大の中で生ずる生活・家族・女性に関する諸問題を、法学・政治学・経済学・社会学の各分野から研究する。

開講科目は、生活法社会論、生活政治論、消費者問題論、生活経済論、長寿社会論、家族関係論、生活情報論など。家庭科教育学特論を履修して家庭科教員専修免許状も取得できる。

○ 地理環境学

人間と環境の関係を多角的にとらえるために、まず、地球科学的基礎のうえに、大気現象の動態と人為変化を自然科学的に分析する「自然環境論」を開講し、地形環境とその変化を通じて現代の自然観や社会運動を分析する「環境認識論」を開講する。

一方、社会・文化的活動を中心に置く視座から、地域イメージの形成やその変遷を通して人間と地域のつながりを分析する「環境文化論」を開講し、また、経済活動によって地域がどのように形成されるかを分析する「地域経済論」を開講する。さらに、以上の各分析で必要となる各種データの収集・処理方法を開発するために「地理情報論」を開講する。

○ 開発・ジェンダー論

従来の学問研究にジェンダーの視点を導入し、新たな学際的研究の可能性を追求する。理論的分析に加え、開発や国際協力など応用分野を含めた、多様な関心と能力を持った学生を育成することを目指し、日本でも他に例を見ない独自のコースとして、内外の社会的要請に応えるものである。

ジェンダー概念の成立と現在の論点を検討する「ジェンダー開発論」、ジェンダー概念を比較文化的に研究する「ジェンダー文化論」、ジェンダーの視点から社会政策を検討する「女性政策論」、女性の視点から経済学の枠組みを再構築する「フェミニスト経済学」、社会開発・人間開発の諸過程を地球規模の視野で比較検討する「比較ジェンダー開発論」、途上国と先進国を事例に国家の開発政策とその有効性を考える「地域開発政策論」、地域研究とフィールドワークとの関係を再考する「開発地域文化論」などを開講する。

◎ ライフサイエンス専攻 (生活科学系)

人間の生命活動である生活は文化的なものであり、生活のあらゆる面にわたって他生物とは異なる様相が見られる。中でも、自然環境としてのいろいろな物質や他の生物を技術により利用し、人間の衣食住などの日常生活に役立てている点は、生活の物質的基盤を与えるものとして大変重要であり、この方面における学問的発展は全人類から期待されている。そのために、食品科学、栄養科学の他、人間生活工学、環境生活工学、さらにこれらの基礎となる生物としての人間そのものを探求する生物人間科学の計5コースを置き、専門的教育研究を行う。

○ 食品科学

食品は栄養素の供給と共に、人間の生活を安全に豊かなものにする役割をになっている。食品の嗜好性を決める因子は多岐にわたっており、最新の物理的、化学的解析手法を駆使して、食品組織の状態の解明、味や香りなどの嗜好成分の分析などにより、食嗜好を客観的に評価する手法、研究体系の確立をめざす。

また、新しい食品加工技術としてのバイオテクノロジーや食品工学の手法を導入し、食資源確保の観点から加工・貯蔵の新方法を検討する。これらの研究領域を統合して最終的には、それらを食品として摂取する人間の受容機構を明らかにし、現代の我が国で起きている食に関するさまざまな問題点の解決をはかる。

○ 栄養科学

健康の維持・増進には、栄養状態や身体の恒常性維持が重要である。生体内における食物成分の変化や動態、そして、栄養素の代謝と機能について理解を深めるとともに、食品成分の栄養生理機能、生体調節機能、ストレスに対する生体防御機構などの解析を中心に教育・研究を行う。これら栄養素の生体内において果たす役割を背景とし、老化や成人病の予防・発症の遅延、そして、自然環境の変化を含む各種ストレスに対する生体の適応反応について、食物の摂取による代謝調節や制御、食生活や生活行動に基づく健康維持への効果を含めて解説する。

○ 人間生活工学

人間の生活には、身体を含む物質的な面と、これに基づく精神などの感性的な面、そしてこれらを基礎としつつ逆に規制もしている社会的な面とがあり、これらは相互に密接に関連している。

生活の基礎である人体のホメオスタシスは身体のエネルギーバランスを前提としており、これは生活活動による代謝と環境への熱の排出を基礎としている。これには身体の代謝量を決定する生活様式、環境との界面をなす衣服・住居形態などの変数が直接的な影響を与える。実際の生活はこれらの変数の選択より成り立っているが、その選択因子として人の感性や各人の価値観に基づく生活様式への評価関数がある。本コースは、これらの多様な面を含む人間の生活をいかに、合理的に、かつ健康的に、さらに快適になるように、設計し、実行していくかを、工学として取り扱う。

○ 環境生活工学

人間の生活を直接的に支持かつ支配している生活材料・生活環境を研究・教育の対象としている。我々の生活には、消臭材料や高吸水性材料、特殊加工繊維製品、高機能洗剤など、優れた工学的成果を生かした特殊生活機能材料が用いられている。どの様な機能・物性が生活に求められているか、そのために必要なメカニズムは何か、またそれをどの様に設計し開発するか、そして、これらの材料に関する工学的成果をいかに生活に生かすか、本コースではこれらを検討している。

また、熱・光・音・空気などの環境因子が人体の生理や心理にどのような影響を与えるかについても工学的に取り扱っている。

○ 生物人間科学

人間は生活の主体であり、生活をよりよいものとするためには人間についての理解を深めることが極めて大切である。

本コースは人間を自然科学的に探究することを目指し、人間の身体的側面を中心とした本質、由来、変異、適応などのデータ収集と分析を行い、生物としての人間に関する専門教育研究を行うが、そのことにより、優れた生活用品の開発や心身の健康増進にも新しい視野を与えることが期待される。

① ライフサイエンス専攻 (生命科学系)

生命科学系は、地球上の生物に共通して見られる生命現象を解明し、生命の起源以来三十数億年の間進化してきた多様性と独自性を特徴とする生命とは何かを追求する生物学に関する教育・研究を行う。

さらには、食物・健康・環境などの諸問題と取り組む基本となる新しい先端科学技術を捉え直す基盤形成をも目指して研究・教育を行う。

○ 分子生物学

分子生物学を基盤として、生体物質の生化学・物理化学的解析方法や遺伝子操作を含む細胞工学・遺伝子工学的手法を総合し、動植物にかかわる基本的、かつ、高次な生物現象を分子レベルまで掘り下げて解析することを中心に研究・教育を行う。

糖鎖分子・糖質分子科学、生化学、分子生理学、分子遺伝学、分子細胞生物学などの学問分野が含まれる。

○ 生命体科学

生命現象の背後には、生体調節や生体防御に関する大小さまざまなシステムがあり、生物種によって著しく多様化、複雑化している。

本コースでは、生命体活動の基本素子となる生体分子の構造と機能の研究を基盤とし、細胞、組織、器官及びシステムとして構成される個体レベルの構造と機能、さらには、そうした仕組みの進化にわたる多角的な研究・教育を行う。生理学、発生学、遺伝学、進化学などの学問分野が含まれる。

② 物質科学専攻

ミクロから宇宙スケールにおよぶ物質の構造と形成過程、フェムト秒から億年にわたる現象のダイナミクスなど、物質が示すあらゆる性質を解明し予測することを目的に、物理学と化学によるアプローチを総合して研究・教育を行う。

○ 相関物質科学

相転移、パターン形成、溶液の構造、ガラス、磁気スピングラス、非線形反応などの非線形・非平衡系について、物理・化学の両面から、統合的な教育・研究を行う。

○ 分子科学

分子や分子集団の構造、物性及び反応に関する理論と実験についての教育・研究を行う。

○ 物理学

究極の物質構成単位の素粒子から、その集合体の原子・分子・結晶、さらに宇宙の構造までを支配する原理・法則を探究する実験と理論の研究・教育を行う。

③ 数理・情報科学専攻

数学と情報科学は互いに連携しつつ、自然科学のみならず広範な領域での現象の解明に不可欠な基盤となっており、また幅広い分野で活用されている。本専攻では、様々な分野との関連も視座に入れた純粋数学理論の新しい展開、数学とコンピュータによる自然科学諸分野の現象の数理科学的解明、様々な分野の情報に対するコンピュータによる接近法及び得られた情報の表現法の開発等に関する高度な専門教育と研究を行う。

○ 情報科学

コンピュータによるデータの処理に関連する基礎研究及びその自然科学分野への応用に関する教育・研究を行う。

○ 応用数理

情報科学の基礎づけや計算機支援による理学研究に関わる分野での数理科学の教育・研究を行う。

○ 数 学

様々な分野との関連も視座に入れた純粋数学理論の新しい展開に関する高度な専門教育と研究を行う。

担当教官及び主な授業科目

博士前期課程
言語文化専攻

平成11年6月1日現在

コース名	担当教官	研究テーマ又は研究分野	主な授業科目
日本語文化学コース	教授 市古夏生 " 荻原千鶴 " 鈴木泰 " 平野由紀子 " *三木紀人 助教授 大塚常樹 " 菅聡子 " 古田啓	日本近世小説、出版文化 日本上代文学 国語学、特に古代日本語 平安和歌文学 中世日本の知識人たちの心情・生活・および文学 日本現代文学、特に宮沢賢治 日本近代文学、特に明治小説 国語学、特に近代日本語	日本近世文学特論 日本上代文学特論 古代日本語学特論 日本中古文学特論 日本中世文学特論 日本現代文学特論 日本近代文学特論 近代日本語学特論
アジア言語文化学コース	教授 相原茂 " 宮尾正樹 助教授 伊藤美重子 " 和田英信	中国現代語学 中国現代文学 中国古典語学 中国古典文学	現代中国文学特論 現代中国語圏文学特論 中国古典語学特論 東アジア比較言語文化論
英語圏・欧州言語文化学コース	教授 石川宏 " 石丸昭二 " 海老根静江子 " 中村弓子 " 西尾道子 " 宮川幸久 " 内田正子 助教授 牛江ゆき子 " 菅野健子 " 竹村和子 " 村俊直 " 松崎毅 " 村田真弓	フランス近代小説・ロマン主義の諸問題 20世紀ドイツ・オーストリア文学 ヘンリー・ジェイムズ、アメリカ・モダニズム文学の研究 20世紀フランス文学・思想（ペルクソン） 英語学、特に語用論（談話構造の検討に関心） 英語文法理論・英語音声学・英語語法の研究 小説、散文を中心とする英文学、イギリス社会研究 英語の発話を対象とする意味論・語用論の研究 近代独文学、特にトーマス・マン研究 アメリカ文学と映像における表象の研究及び批評理論 ゲレリーを中心とする近・現代フランス文学 17世紀のイギリス文学および観念史研究 17世紀フランス宗教思潮・神秘主義思想	近代仏文学特論 独文学特論 米文学特論（作品研究） 現代仏文学特論 英語コミュニケーション 特論 英語学特論（統語論・意味論） 英文学特論（作家・批評研究） 英語学特論（語用論） 近代独文学演習 英語圏言語文化特論 現代仏文学特別演習 英文学特論（作品研究） 近代仏文学特別演習
日本語教育コース	教授 長友和彦 " *三木紀彦 助教授 岡崎眸一 " 村松賢一 講師 佐々木泰子 (未定)	第二言語としての日本語の習得研究 中世日本の知識人たちの心情・生活・および文学 日本語習得に及ぼす母語の影響を明らかにすること 情報伝達におけるイントネーションの役割 日本語のコミュニケーションと文化の研究	言語分析学特論 日本語文化学演習 日本語教育方法論 日本語音声教育方法論 日本語学特論 比較言語教育学特論

人文学専攻

コース名	担当教官	研究テーマ又は研究分野	主な授業科目
思想文化学コース	教授 高島元洋 " 土屋賢二 " 羽入佐和子 助教授 佐藤光子 " 三浦謙	日本倫理思想史 ギリシャ哲学・分析哲学 実存哲学・比較思想 日本思想史における超越思想、仏教思想、比較思想 現代哲学・科学哲学	倫理思想史特論 哲学特論 形而上学特論 倫理学特論 科学哲学特論
歴史文化学コース	教授 秋山光文 " *大川勇次郎 " 窪添慶文 " 小安風秀雅 " 山本秀行 " 三浦徹 助教授 天野知香 " 新井由紀夫 " 西澤奈津子 " 安成英樹	インド美術史、仏教美術史 日本近世史、女性史 中国古代の政治・社会・文化・国際関係 日本近代史、近代化と国際関係 日本中世史、古文書学 ドイツ現代史、ヨーロッパ社会史 イスラム史、都市社会史 フランス近代美術史 イギリス中世史、ヨーロッパ国制史 日本古代史、政治文化史 フランス国制史、近世ヨーロッパ史	東洋美術史特論 日本社会史特論 アジア政治文化特論 日本政治経済史特論 歴史史料論 西洋史学方法論 アジア社会文化特論 西洋美術史特論 西洋政治文化特論 日本文化史特論 西洋史学方法論

人文学専攻

コース名	担当教官	研究テーマ又は研究分野	主な授業科目
服飾文化学コース	教授 板倉 壽郎 " *小池 三枝 助教授 徳井 淑子 " 吉村 佳子	流行伝達の構造 日本近世・近代の服飾と美意識 フランス中世・近代服飾 日本の古代・中世の服飾を中心とした生活文化	流行情報論特論 日本服飾文化論 西洋服飾文化論 風俗文化論
舞踊・表現行動学コース	教授 石黒 節子 " 片岡 康子 助教授 本田 郁子	舞踊上演に関するコミュニケーション研究 20世紀における芸術舞踊の作家・作品研究 日本及びアジアにおける民族舞踊の伝承と変容	上演舞踊学特論 舞踊芸術学特論 民族舞踊学特論
音楽表現学コース	教授 遠藤 秀一郎 " 徳丸 吉彦 " 林 廣子 助教授 永原 恵三	ピアノ演奏法 民族音楽学・音楽記号学 声楽作品における演奏法研究 音楽美学・パフォーマンス研究	ピアノ演奏学特論 民族音楽学特論 声楽演奏学特論 音楽学特論

発達社会科学専攻 (発達人間科学系)

コース名	担当教官	研究テーマ又は研究分野	主な授業科目
教育学コース	教授 上野 浩道 " 鷹野 光行 " 耳塚 寛明 " 宮原 修彦 助教授 米田 俊修 " 三輪 建二 (未定)	シンボルの機能と役割に関する教育人間学的考察 遺跡博物館と博物館の教育機能 教育選抜と学校組織の社会学的研究。高校教育論 学校教育を中心とする教育方法・教育課程の研究 日本の教育制度・政策史の研究 成人の学習-教育方法に関する研究	教育人間学特論 博物館学特論 教育社会学特論 教育方法学特論 比較教育文化史特論 生涯学習特論 教育行財政学特論
心理学コース	教授 内田 伸子 " 内藤 俊史 " 石口 彰 助教授 坂元 章	発達心理学。特に言語の発達の基礎メカニズム 教育心理学。道徳性の発達と文化的要因の研究 認知心理学。パターン認知及び感性情報処理 社会心理学。特に社会的認知とメディア効果	心理発達論 人格形成論 認知システム論 心理社会行動論
発達臨床学コース	教授 黒田 淑子 " 榎木 満生 " 無藤 隆 助教授 伊藤 美奈子 " 青木 紀久代	臨床心理学。人間関係の「間」関係的役割 臨床心理学。カウンセリングの原理と技法 発達心理学。対人関係の生涯発達 臨床心理学。青年期以降の人格発達・学校臨床 臨床心理学。子どもの人格発達と心理療法	人間関係学特論 カウンセリング特論 認知発達学特論 生涯臨床学特論 カウンセリング特論
応用社会学コース	教授 天野 正子 " 平岡 公一 助教授 坂本 佳鶴恵	「市民社会」とネットワークに関する社会学的考察 福祉政策に関する社会学的研究 「現代社会と社会意識」に関する理論的研究	社会集団論 社会集団論 社会意識論
社会臨床論コース	教授 箕浦 康子 助教授 酒井 朗 " 田代 和美 (未定)	文化の中での人の育ちならびに精神的健康 日本の学校文化、教育活動のエスノグラフィー 乳幼児の保育と臨床	心理臨床論 青少年指導文化論 障害臨床学特論 メンタルヘルス論

発達社会科学専攻 (生活・開発科学系)

生活政策学コース	教授 柚井 孝子 " 牧野 カツコ " (未定) 助教授 *犬塚 伝也 " 小谷 眞男 " 杉田 孝夫 " 御船 美智子	老年期における家族関係及び女性の介護役割の研究 日本の家族関係の研究および家庭科教育学 家族・女性・子どもをめぐる法的研究 消費者問題論-消費者・生活者の観点からの接近法 〈生活〉の比較法社会史 家族・福祉・参加等に関する政治思想(史)研究 家庭を媒介とした経済社会と生活の理論・実証研究	長寿社会論 家庭科教育学特論 家族関係論 消費者問題論 生活法社会論 生活政治論 生活経済論
----------	--	--	--

発達社会科学専攻〔生活・開発科学系〕

コース名	担当教官	研究テーマ又は研究分野	主な授業科目
地理環境学コース	教授 田宮 兵衛 " 内藤 博夫 助教授 栗原 尚子 " 内田 忠賢 " 杉谷 隆勲 " 水野 勲	自然地理学・気候学。気候解析及び都市気候学 工業地域の形成と変動および産業地の構造と変容 バルセロナ市の都市計画を社会地理学的に研究 歴史・文化地理学。生活世界研究。 自然保護や自然観についての自然地理学的研究 地理情報を用いた地域不均等理論研究	自然環境論 地域経済論 地域経済論/演習 環境文化論 環境認識論 地理情報論
開発・ジェンダー論コース	教授 舘 かおる " 波平 恵美子 " 石塚 道子 " (未定) 助教授 熊谷 圭知 " 永瀬 伸子	ジェンダー規範と制度の連関に関する研究 医療とジェンダーの文化人類学 カリブ海地域研究、エスニシティ・ジェンダー ジェンダー・階級・民族の相互関係 オセアニア・東南アジア地域研究とフィールドワーク 就業と家庭内生産に関する研究	ジェンダー関係論 ジェンダー文化論 開発政策論 比較ジェンダー開発論 開発地域文化論 フェミニスト経済学

ライフサイエンス専攻〔生活科学系〕

コース名	担当教官	研究テーマ又は研究分野	主な授業科目
食品科学コース	教授 本間 清一 " 畑江 敬子 " 久保田 紀久枝 助教授 富永 典子 " 村田 容常 " 香西 みどり " (未定)	食品の加工・貯蔵中の成分間反応の解析と応用 調理操作による食品の変化とその制御 食品中の生理機能成分の化学構造と活性相関 極限環境下の微生物の生長特性と適応について 食品の貯蔵・加工に関する生化学反応の解析と制御 食品の調理過程における予測と制御	食品保存科学特論 食嗜好評価学特論 食品機能化学特論 資源微生物学特論 食資源学特論 調理科学特論 嗜好成分化学特論
栄養科学コース	教授 倉田 忠男 助教授 大塚 恵子 講師 藤原 葉子 " (未定) " (未定)	ビタミンCの抗酸化機能と生理作用の発現機作 微量栄養素の生理・生化学および代謝制御 脂質・コレステロール代謝	食品生化学特論 栄養生化学特論 代謝制御学特論 生化学特論 生体防御学特論
人間生活工学コース	教授 會川 義寛 " 田中 辰明 " *長谷部 ヤエ	感覚工学・人体への刺激と応答・固体電子材料物性 住宅問題、省エネルギーの太陽熱利用住宅、カビ 着衣による生理反応と熱的快適性、熱・水分の移動	人間生活物理学特論 人間居住環境学特論 衣生活環境学特論
環境生活工学コース	教授 小川 昭二郎 " 駒城 素子 助教授 仲西 正 " 大瀧 雅寛	繊維及び高分子材料化学・機能性色素化学 染色化学と洗淨科学、繊維の酵素処理加工 高分子材料物性、膜とゲル、機能性繊維 環境工学、環境低負荷型水処理技術、水巾健康関連微生物指標	生活材料化学特論 生活環境化学特論 生活材料物性特論 衣住環境評価学特論
生物人間科学コース	教授 富田 守三 " 永川 祐三 助教授 鈴木 恵美子 " 松浦 秀治 講師 柴坂 寿子	生活行動の生理学的基礎 健康管理医学 生体に影響を及ぼす生活環境因子の解析 人間の進化や日本人の起源に関する年代学的研究 人間の社会行動と集団過程の比較行動学的研究	生理行動学特論 健康医学特論 生体制御学特論 人類進化学特論 比較行動学特論

ライフサイエンス専攻〔生命科学系〕

分子生物科学コース	教授 芦原 坦子 " 松浦 悦子 " 松本 勲武 " 室伏 きみ子 助教授 小川 温子 " 小林 哲幸 " 林 正男 " 小島 京子	植物の代謝調節 核外遺伝子系の発現制御機構 動植物レクチンの構造と機能に関する研究 真核細胞の増殖制御機構とストレス応答 生命現象と糖鎖情報の分子科学的研究 生体膜脂質の代謝と動態 高等動物の細胞接着因子・バイオの国際動向政策 細胞内物質輸送および仕分けの分子機構	代謝生化学特論 分子遺伝学特論 糖鎖分子生物学 細胞情報特論 分子生物化学特論 生体膜代謝論 分子細胞生物学特論 生物化学特論
-----------	---	---	--

ライフサイエンス専攻 (生命科学系)

コース名	担当教官	研究テーマ又は研究分野	主な授業科目
生命体科学コース	教授 石 和 貞 男	昆虫の脳行動系、生体防衛系遺伝子群の進化多様性 卵成熟(減数)分裂や形態形成などの初期発生機構 細胞運動(繊毛・鞭毛運動)、機械受容 単子葉植物の構造、発生と系統 細胞・発生生物学 外界刺激に対する生体応答の可塑性の研究 藻類を含む光合成植物の代謝制御機構 海産動物の発生生物学、形態形成と細胞分化 植物培養細胞における二次代謝調節	分子進化学 発生生物学 動物生理学特論 植物系統進化学 分子発生学 宇宙生物科学特論 植物相関生理学 海洋生物学特論 形質発現植物生理学
	" 根 本 心 一		
	" 馬 場 昭 次		
	" 山 下 貴 司		
	助教授 千 葉 和 義		
	" 最 上 善 広		
	" 加 藤 美 砂 子		
講師 清 本 正 人			
" 作 田 正 明			

物質科学専攻

コース名	担当教官	研究テーマ又は研究分野	主な授業科目
相関物質科学コース	教授 富 永 靖 徳	誘電体・水溶液系のラマン分光と誘電分散 非線形化学現象の計測に関する分析科学的研究 溶液内の局所構造とそのダイナミクス 複雑溶液の構造相転移 強相関電子系の中性子散乱 (本年度は学生を募集しない。)	化学物理特論 非線形化学 溶液化学 相転移特論 磁性体特論 非平衡物理特論
	" 藤 枝 修 子		
	" 益 田 祐 一		
	助教授 今 井 正 幸		
	" 川 野 は づ き		
齋(貳) 太 田 隆 夫			
分子科学コース	教授 永 野 肇	天然物化学—主としてテルペン類の合成研究 分子の構造・反応性に関する量子化学 機能性錯体の合成と反応に関する研究 X線結晶構造解析を利用した核酸と蛋白質の結合機構と生化学的反応機構の研究 分子の電子構造と化学反応の機構 液晶相形成物質の構造と性質に関する研究 複雑系反応化学・システム解析化学 有機化合物の立体構造と選択的合成反応 電子状態理論に基づいた反応動力学	天然物有機化学 計算化学特論 無機化学特論 蛋白質結晶学 量子化学特論 物性物理化学特論 分離化学 有機立体化学 反応化学特論
	" 平 野 恒 夫		
	" 福 今 豊		
	助教授 野 野 美 智 子		
	" 鷹 野 景 子		
	" 堀 佳 也 子		
	" 森 義 仁		
" 山 田 真 二			
" 武 次 徹 也			
物理学コース	教授 柴 田 文 明	非平衡統計力学・基礎的量子現象・量子通信理論 素粒子論・高エネルギー物理学 極限条件下の物質構造と相転移 宇宙物理学 物性理論・表面物理学 数値物理・物性基礎論・高分子統計力学	統計力学特論 素粒子特論 極限物性学特論 宇宙物理学特論 表面物理特論 数値物理学特論
	" 菅 本 晶 夫		
	" 浜 谷 望 博		
	" 森 川 雅 樹		
	助教授 小 林 功 佳		
" 出 口 哲 生			

数理・情報科学専攻

コース名	担当教官	研究テーマ又は研究分野	主な授業科目
情報科学コース	教授 河 村 哲 也	数値流体力学・数値シミュレーション 計算物理学・数値処理 ビジュアルコンピューティング データベースシステム データベース ヒューマンインターフェイス 分散オブジェクトシステム	シミュレーション科学特論 計算物理学特論 ビジュアルコンピューティング特論 データベースシステム特論 データベースマシン特論 人間機械系特論 計算機言語特論
	" 佐 藤 浩 史		
	" 藤 代 一 成		
	" 増 永 良 文		
	助教授 市 川 哲 彦		
	" 粕 川 正 充		
" 佐 藤 一 郎			
応用数理コース	教授 笠 原 勇 二	確率論 偏微分方程式・トモグラフィの数理 応用解析学・作用素論 グラフ理論の化学への応用・情報化学 離散数学・文書処理系 応用解析学・作用素環境	確率解析特論 応用微分方程式特論 応用解析学特論 環境数理特論 数式処理特論 情報解析学特論
	" 金 子 晃		
	" 竹 尾 富 貴 子		
	" 細 矢 治 夫		
	助教授 浅 本 紀 子		
	" 吉 田 裕 亮		

数理・情報科学専攻

コース名	担当教官	研究テーマ又は研究分野	主な授業科目
数 学 コ ー ス	教授 塚田和美 " 藤原正彦 " 前田ミチエ " 真島秀行 " 渡辺ヒサ子 " 榎本陽子 " 中居功彦 助教授 松崎克彦 " 横川光司 " 武部尚志 (未定)	微分幾何 数 論 測度論 微分方程式論 ポテンシャル論 群論及び表現論 位相幾何学、WE B幾何学 複素解析学 代数幾何 数理物理学	多様体構造特論 解析的整数論特論 実解析特論 漸近解析特論 調和解析特論 多元環構造特論 位相構造特論 複素力学系特論 複素多様体特論 関数方程式特論 微分幾何学特論

*印の教官は、平成13年3月31日付けで退官予定である。

○平成12年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士前期課程）
外国人留学生募集要項

1. 募集人員・試験期日

専攻	募集人員	9月入試	2月入試
		試験期日	試験期日
言語文化専攻	若干名	平成11年 9月1日・2日	平成12年2月1日・2日 日本語教育コースのみ 2月1日・2日・3日
人文学専攻	若干名		平成12年 2月1日・2日
発達社会科学専攻	若干名		
ライフサイエンス専攻	若干名		
物質科学専攻	若干名		
数理・情報科学専攻	若干名		

2. 出願期間

9月入試：平成11年8月 3日（火）～8月 6日（金）

2月入試：平成12年1月 7日（金）～1月13日（木）

ただし、1月8日（土）、9日（日）、11日（祝日）は受け付けない。

*受付時間：午前9時～11時30分、午後1時～3時

（注）言語文化専攻、人文学専攻及び発達社会科学専攻は9月入試は実施しない。

3. 出願資格・出願手続

各専攻の募集要項を参照すること。

4. 願書受付場所

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 学務課留学生係

（地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車）

5. 選考方法

入学者の選考は、「筆記試験」及び「口述試験」並びに調査書等の出願書類を総合して行う。

なお、詳細については各専攻の募集要項を参照すること。

6. 試験場所

9月入試： お茶の水女子大学理学部、生活科学部、人間文化研究科

2月入試： お茶の水女子大学文教育学部、理学部、生活科学部、人間文化研究科

7. 合格発表

9月入試：平成11年9月10日（金）

2月入試：平成12年2月14日（月）

12時頃人間文化研究科棟1階に合格者の受験番号を掲示する。

合格通知は、人間文化研究科事務室（2階）で受験票を確認の上交付する。（合格者の代理人でも差し支えない。）なお、当日、受領できない者については郵送する。

8. 検定料・入学料・授業料

検定料：30,000円 入学料：277,000円 授業料：478,800円（年額）
（国費留学生は免除される場合があるので、国費証明書持参の上、出願の際に申し出ること。）

9. 入学手続関係書類

9月入試：平成12年2月下旬に郵送する。

2月入試：合格通知書に同封する。

* 合格通知後、住所を変更した場合は、必ず人間文化研究科事務室へ届け出ること。

10. 注意事項

(1)出願手続き後は、いかなる事情があっても、書類の変更及び検定料の払い戻しの要求には応じない。

(2)合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。

11. 問い合わせ先

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 学務課 留学生係 03(5978)5143

博士前期課程の目的及び修了要件

(目的)

1. 博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を受け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。
2. 博士前期課程の標準修業年限は、2年とする。

(修了要件)

1. 博士前期課程の修了要件は、当該課程に2年以上在学し、所要の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、優れた研究業績を上げたと認められた者の在学期間に関しては、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。
2. 前項の場合において、博士前期課程の目的に応じて適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって、修士論文の審査に代えることができる。

(進学)

本学大学院の博士前期課程を修了したものは、選考の上、博士後期課程に進学することができる。

○取得できる学位

専攻	学位	学位に付記する専攻分野の名称
言語文化専攻	修士	人文科学・社会科学・学術
人文学専攻		人文科学・社会科学・生活科学・学術
発達社会科学専攻 発達人間科学系 生活・開発科学系		人文科学・生活科学・社会科学 理学・学術
ライフサイエンス専攻 生活科学系 生命科学系		理学・生活科学・学術
物質科学専攻		理学
数理・情報科学専攻		理学・学術

(単位互換)

本学の大学院と単位互換協定を締結している大学の大学院は、次のとおりである。

本学博士前期課程	他大学大学院研究科名	
言語文化専攻	東京大学	人文社会系研究科アジア文化研究専攻 中国語中国文学専門課程
発達社会科学専攻	東京大学	教育学研究科
全専攻	}	東京大学 理学系研究科、数理科学研究科
		東京工業大学 理工学研究科、生命理工学研究科、 総合理工学研究科、情報理工学研究科
		奈良女子大学 人間文化研究科
		日本女子大学 家政学研究科、文学研究科、人間社会研究科、理学研究科 人間社会研究科、理学研究科

言語文化専攻学生募集要項

1. 募集人員 若干名

2. 出願資格 下記に該当する外国人女子で出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」（又は「留学」に変更できる在留資格）を有する者及び取得できる見込みの者とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成12年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

(注) 日本の高等学校を卒業した者は、一般志願者用の募集要項により手続きをすること。

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書 受験票・写真票	5 cm×4 cmで出願前3か月以内に撮影した写真2枚を指定欄に貼付
2	卒業証明書又は卒業見込証明書	
3	推薦書	研究上の指導者等の推薦書（形式随意）
4	研究計画書 (注)	1,000字以内で、留学の目的、研究予定の専攻分野、将来の計画等についてまとめたもの。（本学所定の用紙）
5	調査書	本学所定の用紙（本学を卒業した者及び卒業見込みの者は、成績証明書を提出すること。） （但し、外国の大学を卒業した者は、成績証明書でも可）
6	健康診断書	本学所定の用紙
7	外国人登録済証明書又はパスポートの写し	
8	保証人届	我が国に居住する保証人（本学所定の用紙）。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
9	日本語の能力を証明するもの（例えば、日本語能力試験成績通知の写等）があれば提出すること。	
10	検定料	30,000円
11	検定料納付書	本学所定の用紙
12	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

*日本語教育コース志願者のみ

13	研究報告書 (注)	大学における卒業論文あるいは、卒業後の研究内容を1,000字以内でまとめたもの。（本学所定の用紙）
----	--------------	---

(注) 「4. 研究計画書」及び「13. 研究報告書」は、日本語で作成すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。(代理人可)

* 郵送による出願は受理しない。

4. 選考日時及び選考方法

試験日時 コース	平成12年2月1日(火)			2月2日(水)
	外国語試験 10:00~11:30	専門試験 13:00~15:00		日本語教育コースのみ 2日(水)・3日(木)
日本語教育	英語	日本語学・日本文学	日本語試験 15:30 ↓ 16:30	口述試験 10:00~
英語圏・欧州言語文化学 (英語圏言語文化専修)	英語・独語・仏語 から1か国語選択	英語・英語学及 び英米文学		
英語圏・欧州言語文化学 (仏語圏言語文化専修)	英語・独語・仏語 から1か国語選択	仏語・仏語学及 び仏文学		
アジア言語文化学		中国語学・中国 文学		
日本語文化学	英語・独語・仏語 から1か国語選択	日本語学・日本 文学		

人文学専攻学生募集要項

1. 募集人員 若干名
2. 出願資格 下記に該当する外国人女子で出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」（又は「留学」に変更できる在留資格）を有する者及び取得できる見込みの者とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成12年3月卒業見込みの者
 (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
 (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
 (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
 (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

(注) 日本の高等学校を卒業した者は、一般志願者用の募集要項により手続きをすること。

3. 出願手続
 (1) 出願書類等

1	入学願書 受験票・写真票	5 cm × 4 cm で出願前 3 か月以内に撮影した写真 2 枚を指定欄に貼付
2	卒業証明書又は卒業見込証明書	
3	卒業論文	卒業論文又はこれに代わるものが提出できない場合はその旨申し出ること。(注) (本学を卒業見込みの者は、提出する必要はない。)
4	研究計画書	1, 0 0 0 字程度（日本語で作成）（本学所定の用紙）
5	調査書	本学所定の用紙（本学を卒業した者及び卒業見込みの者は、成績証明書を提出すること。） (但し、外国の大学を卒業した者は、成績証明書でも可)
6	健康診断書	本学所定の用紙
7	外国人登録済証明書又はパスポートの写し	
8	保証人届	我が国に居住する保証人（本学所定の用紙）。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
9	日本語の能力を証明するもの（例えば、日本語能力試験成績通知の写等）があれば提出すること。	
10	検定料	3 0, 0 0 0 円
11	検定料納付書	本学所定の用紙
12	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し 3 5 0 円切手を貼付すること。

(注) 音楽表現学コース志望の者で論文に代わるものとして演奏を行った者は、卒業試験演奏曲目を提出すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。(代理人可)

*郵送による出願は受理しない。

4. 選考日時及び選考方法

試験日時 コース	平成12年2月1日(火)		2月2日(水)	
	外国語 10:00~11:30	専門科目 13:00~15:00	口述又は実技試験 10:00~	
思想文化学	英語・独語・仏語から1か国語を選択(注1)	哲学または倫理学のうちから1科目を選択(注2)	日本語 15:30 ↓ 16:30 口述試験	
歴史文化学		日本史・東洋史・西洋史・美術史のうちから1科目を選択。 なお、美術史分野は専門試験に加え、英・独・仏から1か国語を課す。(注3)		
服飾文化学		服飾史および服飾美学		
舞踊・表現行動学		舞踊学		舞踊実技(舞踊の種類・演目は自由)(注5)
音楽表現学		西洋音楽史および日本音楽史から選択		音楽学:演奏実技(任意の楽器又は声、曲目は自由)を課する。 演奏学:10分程度の演奏実技(曲目は自由)を課する。(注4) いずれの場合も、必要な場合は伴奏者を同伴すること。

注1. 母国語も可。なお、専門科目で倫理学、日本史、美術史、舞踊学のいずれかを選択する者は外国語試験を受験しなくてよい。

2. 思想文化学志望者は、入学願書に哲学又は倫理学のいずれかに○を付すこと。
3. 歴史文化学志望者は、入学願書に日本史・東洋史・西洋史・美術史のいずれかに○を付すこと。
4. 音楽表現学志望者は、入学願書に音楽学又は演奏学のいずれかに○を付すこと。
5. 使用する音楽をカセットテープに録音し持参のこと。

発達社会科学専攻学生募集要項

1. 募集人員 若干名
2. 出願資格 下記に該当する外国人女子で出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」（又は「留学」に変更できる在留資格）を有する者及び取得できる見込みの者とする。
 - (1) 大学を卒業した者及び平成12年3月卒業見込みの者
 - (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
 - (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
 - (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
 - (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者
 （注）日本の高等学校を卒業した者は、一般志願者用の募集要項により手続きをすること。

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書 受験票・写真票	5 cm×4 cmで出願前3か月以内に撮影した写真2枚を指定欄に貼付
2	卒業証明書又は卒業見込証明書	
3	推薦書	指導の教員又は主任教員、所属長等により作成されたもの。（形式随意）
4	卒業論文	卒業論文、またはその他の研究成果
5	研究報告書 （注）	2,000字程度の概要を日本語で作成して提出すること。 （本学所定の用紙）
6	研究計画書 （注）	大学院における研究計画（日本語で作成）を2,000字以内でまとめたもの。（本学所定の用紙）
7	調査書	本学所定の用紙（本学を卒業した者及び卒業見込みの者は、成績証明書を提出すること。） （但し、外国の大学を卒業した者は、成績証明書でも可）
8	健康診断書	本学所定の用紙
9	外国人登録済証明書又はパスポートの写し	
10	保証人届	我が国に居住する保証人（本学所定の用紙）。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
11	日本語の能力を証明するもの（例えば、日本語能力試験成績通知の写等）があれば提出すること。	
12	検定料	30,000円
13	検定料納付書	本学所定の用紙
14	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

（注）生活・開発科学系については、別紙にワープロ・パソコン等で作成した本学所定の用紙に貼付してもよい。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。(代理人可)。

* 郵送による出願は受理しない。

4. 選考日時及び選考方法

【発達人間科学系】

試験日時 コース	平成12年2月1日(火)		2月2日(水)
	外国語試験 10:00～12:00	専門試験 13:00～15:00	
教育科学	英語 (辞書持込み可)	教育科学	口述試験 10:00～
心理学		教育心理学, 発達心理学, 認知心理学, 社会心理学の中から志望領域の科目を1つ選択	
発達臨床学		発達臨床心理学	
応用社会学		応用社会学	
社会臨床論		共通問題と選択問題	

【生活・開発科学系】

試験日時 コース	平成12年2月1日(火)		2月2日(水)	
	外国語試験(英語) 10:00～11:10	11:20～12:00 専門試験 13:00～15:00		
生活政策学	I 英語和訳 (辞書持込可)	II 和文英訳 (辞書持込可)	6問中2問選択。 内1問は必ず志望 コースからの出題 問題を選択すること。	口述試験 10:00～
地理環境学				
開発・ベンチャー論				

ライフサイエンス専攻学生募集要項

1. 募集人員 若干名
2. 出願資格 下記に該当する外国人女子で出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」（又は「留学」に変更できる在留資格）を有する者及び取得できる見込みの者とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成12年3月卒業見込みの者
 (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
 (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
 (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
 (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

(注) 日本の高等学校を卒業した者は、一般志願者用の募集要項により手続きをすること。

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書 受験票・写真票	5 cm × 4 cmで出願前3か月以内に撮影した写真2枚を指定欄に貼付
2	卒業証明書又は卒業見込証明書	
3	調査書	本学所定の用紙（本学を卒業した者及び卒業見込みの者は、成績証明書を提出すること。 （但し、外国の大学を卒業した者は、成績証明書でも可）
4	健康診断書	本学所定の用紙
5	外国人登録済証明書又はパスポートの写し	
6	保証人届	我が国に居住する保証人（本学所定の用紙）。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
7	日本語の能力を証明するもの（例えば、日本語能力試験成績通知の写等）があれば提出すること。	
8	検定料	30,000円
9	検定料納付書	本学所定の用紙
10	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。（代理人可）

*郵送による出願は受理しない。

4. 選考日時及び選考方法

【生活科学系】

9月入試	平成11年9月1日(水)		
2月入試	平成12年2月1日(火)		
選考	外国語 (英語) 10:30~11:30	専門科目 12:30~14:30 生活環境学分野の 問題から選択する。	口述試験 15:00~ 卒業研究の内容及び 将来の研究等につい て口述する。

(注) 志願者は、必ず志望コース名を入学願書等に記入すること。

【生命科学系】

9月入試	平成11年9月1日(水)		
2月入試	平成12年2月1日(火)		
選考	外国語 (英語) 10:30~11:30	口述試験 12:30~ 生命科学分野に関する卒業研究の内容及び 将来の研究等について口述する(発表、質疑 応答とも10分程度を予定)。	

- (注) 1. 志願者は、必ず志望コース名を入学願書等に記入すること。
2. 生命科学系を希望する受験生で指導教官又は研究テーマについて質問がある場合は、小島助教授(☎5345)に問い合わせること。

- ※ 1. 入試説明会・見学会を平成11年7月20日に行うので、参加希望者はE-mail
(grad@cc.ocha.ac.jp)又はFAX(03-5978-5344)で、希望分野を明記の上、申し込むこと。
2. URL: <http://www.ocha.ac.jp>

物質科学専攻学生募集要項

1. 募集人員 若干名

2. 出願資格 下記に該当する外国人女子で出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」（又は「留学」に変更できる在留資格）を有する者及び取得できる見込みの者とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成12年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

(注) 日本の高等学校を卒業した者は、一般志願者用の募集要項により手続きをすること。

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書 受験票・写真票	① 第一志望のコース名及び指導教官名は、必ず記入すること。 ② 第二志望のコース名及び指導教官名を記入することもできる。 ③ 第二志望のコースは、第一志望のコースと異なってもよい。 5 cm × 4 cm で出願前3か月以内に撮影した写真2枚を指定欄に貼付
2	卒業証明書又は卒業見込証明書	
3	調査書	本学所定の用紙（本学を卒業した者及び卒業見込みの者は、成績証明書を提出すること。 （但し、外国の大学を卒業した者は、成績証明書でも可）
4	健康診断書	本学所定の用紙
5	外国人登録済証明書又はパスポートの写し	
6	保証人届	我が国に居住する保証人（本学所定の用紙）。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
7	日本語の能力を証明するもの（例えば、日本語能力試験成績通知の写等）があれば提出すること。	
8	検定料	30,000円
9	検定料納付書	本学所定の用紙
10	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。(代理人可)

* 郵送による出願は受理しない。

4. 選考日時及び選考方法

9月入試	平成11年9月1日(水)		9月2日(木)
2月入試	平成12年2月1日(火)		2月2日(水)
選考	物質科学に関する 基礎科目 9:30~12:30	物質科学に関する 専門科目 13:30~15:30	口述試験 10:00~
	9問中4問選択 (各問100点)	8問中2問選択 (各問150点)	

数理・情報科学専攻学生募集要項

1. 募集人員 若干名

2. 出願資格 下記に該当する外国人女子で出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」（又は「留学」に変更できる在留資格）を有する者及び取得できる見込みの者とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成10年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

(注) 日本の高等学校を卒業した者は、一般志願者用の募集要項により手続きをすること。

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書 受験票・写真票	5 cm × 4 cmで出願前3か月以内に撮影した写真2枚を指定欄に貼付
2	卒業証明書又は卒業見込証明書	
3	調査書	本学所定の用紙（本学を卒業した者及び卒業見込みの者は、成績証明書を提出すること。 （但し、外国の大学を卒業した者は、成績証明書でも可）
4	健康診断書	本学所定の用紙
5	外国人登録済証明書又はパスポートの写し	
6	保証人届	我が国に居住する保証人（本学所定の用紙）。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
7	日本語の能力を証明するもの（例えば、日本語能力試験成績通知の写等）があれば提出すること。	
8	検定料	30,000円
9	検定料納付書	本学所定の用紙
10	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。（代理人可）

* 郵送による出願は受理しない。

4. 選考日時及び選考方法

9月入試	平成11年9月1日(水)				9月2日(木)
2月入試	平成12年2月1日(火)				2月2日(水)
選考	一般・基礎教育科目 (微積分・線形代数)	外国語 (英語)	専門科目	口述試験	口述試験 10:00~
	9:30 ~ 10:50	11:00) 12:00	13:00) 16:00	16:30)	

- 注) : (1) 専門科目の試験内容: 数学コースは、位相空間論1題と選択2題
他コースは、選択3題
- (2) 口述試験の時間割は試験1日目に発表する。
- (3) 受験するコースと希望指導教官の所属コースが異なる場合は当該教官
または専攻長と事前に相談することが望ましい。
- (4) 数学コースについては、「数A・数B・数C」の区分に関する希望順位
を記入すること。

〔数A〕教授	渡辺ヒサ子	ポテンシャル論
	真島 秀行	微分方程式論
	前田ミチエ	測度論
助教授	松崎 克彦	複素解析学
	武部 尚志	数理物理学
〔数B〕教授	藤原 正彦	数論
	榎本 陽子	群論および表現論
助教授	横川 光司	代数幾何
〔数C〕教授	塚田 和美	微分幾何
	中居 功	位相幾何学、WEB幾何学

諸 報

○名誉教授の称号授与について

平成11年4月21日に下記の方に本学名誉教授の称号が授与されました。

(氏 名)	(元 官 職)
小 川 剛	文教育学部教授
小 林 彰 夫	生活科学部教授
島 田 淳 子	大学院人間文化研究科教授
伊 藤 厚 子	大学院人間文化研究科教授



小 川 剛 名誉教授略歴等

生年月日 昭和9年1月1日生
 略 歴 昭和35年3月 東京大学教育学部教育行政学科卒業
 昭和35年4月 埼玉県立川口工業高等学校教諭
 昭和38年3月 東京大学大学院人文科学研究科教育行政学専門課程修士課程修了
 昭和41年4月 鶴見女子大学文学部講師
 昭和43年10月 弘前大学教育学部講師
 昭和46年1月 同 助教授
 昭和51年4月 お茶の水女子大学文教育学部助教授
 昭和57年4月 同 教授
 昭和61年4月 同 附属幼稚園長に併任
 平成元年10月 同 評議員に併任
 平成11年3月 同 停年により退職
 平成11年4月 同 名誉教授

研究業績 図書館を通じて社会教育の公共性や施設についての研究を進めてこられ、その出発点ともなった『図書館法成立史資料』は今なお評価の高い著作であります。社会教育の理念についてもイギリスに範をとって研究され、その成果はいくつかの自治体における生涯学習計画策定などにかかわるなかで実践にも反映されてきました。

著 書 等 図書館法成立史資料 日本図書館協会 1968年
 まちが変るわたしが変る：川崎ボランティアグループの記録
 新時代社 1988年
 生涯学習体系を支える社会教育 生涯学習と社会教育の革新
 亜紀書房 1991年
 おとなが学ぶときに 全日本社会教育連合会 1996年
 その他著書、論文等多数

小 林 彰 夫 名誉教授略歴等

生年月日 昭和8年11月24日生
 略 歴 昭和31年3月 東京大学農学部農芸化学科卒業
 昭和33年3月 東京大学大学院化学系研究科農芸化学修士コース修了
 昭和33年6月 東京大学農学部助手
 昭和37年11月 農学博士（東京大学）
 昭和39年6月 お茶の水女子大学家政学部助教授
 昭和43年7月 東北大学農学部助教授
 昭和53年10月 お茶の水女子大学家政学部助教授
 昭和57年4月 同 教授
 平成2年1月 同 学生部長に併任
 平成4年10月 同 生活科学部教授
 平成6年10月 同 生活科学部長に併任
 平成11年3月 同 停年により退職
 平成11年4月 同 名誉教授

研究業績 食品香気成分の化学的研究ではその独自性が高く評価され、日本果汁協会技術賞、日本農学賞読売農学賞を受賞されています。

著 書 等 異なる調製法によるみそ香気成分の比較 日本農芸化学会誌 1990年
 食品香気研究法の最近の進歩 日本食品科学工学会誌 1997年
 食品香気成分の化学的研究－最近の進歩－ 日本農芸化学会誌 1999年
 その他著書、論文等多数

島田 淳子 名誉教授略歴等

生年月日 昭和8年6月2日生
 略歴 昭和31年3月 お茶の水女子大学家政学部食物学科卒業
 昭和31年4月 東京都豊島区立池袋中学校教諭
 昭和37年4月 東京都立上野忍岡高等学校教諭
 昭和40年3月 お茶の水女子大学大学院家政学研究科食物学専攻修了
 昭和41年4月 お茶の水女子大学家政学部教務職員
 昭和44年7月 同 助手
 昭和47年11月 同 講師
 昭和49年4月 同 助教授
 昭和60年6月 同 教授
 昭和60年6月 農学博士(東京大学)
 平成3年10月 お茶の水女子大学評議員に併任
 平成4年10月 同 生活科学部教授
 平成4年10月 同 評議員に併任
 平成5年4月 同 附属幼稚園長に併任
 平成8年10月 同 評議員に併任
 平成10年4月 同 大学院人間文化研究科教授
 平成11年3月 同 停年により退職
 平成11年4月 同 名誉教授

研究業績 従来カンやコツに頼っていた調理学を科学的な学問として位置づけ、化学的、物理的、組織学的変化を種々の手法を取り入れて測定した研究等により日本家政学会賞を受賞されています。

著書等 食生活と調理 朝倉書店 1991年
 食品と調理機能の解明に関する研究 日本家政学会誌 1992年
 調理科学講座全7巻 朝倉書店 1993年
 その他著書、論文等多数

伊藤 厚子 名誉教授略歴等

生年月日 昭和8年7月7日生
 略歴 昭和31年3月 お茶の水女子大学理学部物理学科卒業
 昭和34年3月 東京大学大学院数物系研究科物理学専門課程修士課程修了
 昭和37年3月 同 博士課程修了
 理学博士(東京大学)
 昭和37年6月 東京大学物性研究所教務員
 昭和38年4月 同 助手
 昭和43年4月 お茶の水女子大学理学部助教授
 昭和52年4月 同 教授
 昭和63年4月 同 評議員に併任
 平成4年4月 同 理学部長に併任
 平成9年4月 同 大学院人間文化研究科教授
 平成11年3月 同 停年により退職
 平成11年4月 同 名誉教授

研究業績 原子、分子レベルのミクロな構造の中に見られる、無秩序中の秩序、また、複雑系の秩序形成に関する研究としてまとめられるスピングラスとよばれるランダム磁性体の研究で重要な知見を得ておられます。

著書等 Nonlinear ac-Susceptibility of the Reentrant Spin Glass System
 $\text{Mn}_{0.5}\text{Mg}_{0.4}\text{TiO}_3$.
 A. Tobo and A. Ito
 J. Magn. Magn. Mater. 177-181(1998)105-106
 Neutron Scattering Study of the Spin-Glass $\text{Mn}_{0.5}\text{Mg}_{0.4}\text{TiO}_3$
 under Magnetic Fields
 A. Fukaya, A. Ito, K. Nakajima and K. Kakurai
 J. Phys. Chem. Solids(1999), in press.
 その他著書、論文等多数

○研 修

名 称	実施日時	対 象 者	修 了 者	主 催
平成11年度 六大学等事務系初任職員研修 (東京医科歯科大学、東京外国語大 学、東京芸術大学、東京商船大学 、東京水産大学、お茶の水女子大 学及び学術情報センター)	平成11年5月19日 ～ 5月21日	六大学等に、原則として実 施期間から過去1年間に新規 採用された事務系職員 (行政職(奉給表(一)適用者 に限る)	会計課・用度係 近藤 隆之 学務課・教務係 片桐 篤	東京商船大学
平成11年度 情報システム統一研修 (第7回ネットワーク応用コース)	平成11年5月31日 ～ 6月4日	ネットワークの構築・管理 運営に従事している者及び従 事する予定がある者	会計課・給与係長 田沼 行文	総務庁

○海外渡航

所属・職名	氏名	渡航先国	渡航目的	期間	渡航種目
理学部・教授	細矢治夫	中華人民共和国	第5回中国理論化学シンポジウムで招待講演	11. 5. 3～ 11. 5. 9	外国出張
人間文化研究科・教授	長友和彦	台湾	台湾南台技術学院における日本語教育についての国際研究集会に参加及び研究発表	11. 5. 13～ 11. 5. 17	海外研修
生活科学部・教授	袖井孝子	台湾	日台高等家政学(生活科学)教育シンポジウムに出席及び講演	11. 5. 17～ 11. 5. 20	外国出張
人間文化研究科・教授	牧野カツコ	台湾	日台高等家政学(生活科学)教育シンポジウムに出席及び講演	11. 5. 17～ 11. 5. 20	外国出張
理学部・教授	細矢治夫	アメリカ合衆国	「量子化学と化学反応の最前線」に出席	11. 5. 20～ 11. 5. 24	外国出張
文教育学部・教授	上野浩道	台湾	台湾台北市立美術館における国際美術館教育シンポジウムに出席	11. 5. 27～ 11. 5. 31	外国出張
人間文化研究科・助手	朴善姫	大韓民国	韓国のムダン20名、学生100名のCMIテストの実施及びムダンのインタビュー	11. 5. 27～ 11. 6. 20	海外研修
理学部・教授	増永良文	アメリカ合衆国	ACM SIGMOD 国際会議に出席	11. 5. 31～ 11. 6. 5	外国出張
文教育学部・講師	新名謙二	カナダ	北米スポーツマネジメント学会第14回大会への参加	11. 6. 2～ 11. 6. 7	海外研修
理学部・教授	福田豊	オーストリア共和国・スロバキア共和国	第17回配位化学国際会議に出席及び講演	11. 6. 5～ 11. 6. 12	外国出張
文教育学部・教授	平岡公一	大韓民国	第6回アジア・オセアニア地域国際老年学大会に参加及び研究発表	11. 6. 7～ 11. 6. 11	海外研修
生活科学部・教授	袖井孝子	大韓民国	第6回アジア・オセアニア地域国際老年学大会に参加及び報告	11. 6. 7～ 11. 6. 12	海外研修
理学部・教授	平野恒夫	アメリカ合衆国	第54回分子分光学国際シンポジウムにおける研究発表及び国立天文台ハワイ観測所「すばる」を視察	11. 6. 10～ 11. 6. 21	外国出張
理学部・助教授	佐藤一郎	ポルトガル共和国	国際ワークショップMobile Object Systemsにおいて発表	11. 6. 13～ 11. 6. 19	外国出張
理学部・助教授	川野はづき	アメリカ合衆国	米国テネシー州オークリッジ国立研究所を訪問し、中性子散乱実験の実施	11. 6. 14～ 11. 6. 25	外国出張

所属・職名	氏名	渡航先国	渡航目的	期間	渡航種目
生活科学部・ 教授	田中辰明	ドイツ連邦共和国	ベルリン工科大学ヘルマンリーチ ェル研究所で開催されるコロッキ ウム「地域暖房とその都市計画に 与える影響」に出席及びフラオン ホーフマー研究所での研究打合せ	11. 6. 19～ 11. 6. 28	外国出張
理学部・助教授	武部尚志	ロシア共和国	第5回共形場理論と可積分系に関 する国際会議出席	11. 6. 21～ 11. 6. 28	外国出張
理学部・教授	室伏きみ子	アメリカ合衆国	ロックフェラー大学におけるシン ポジウムでの発表及びハーバード 大学、テネシー大学、カリフォル ニア大学の共同研究者とのディス カッション並びにテネシー大学に おいてセミナーに出席	11. 6. 24～ 11. 7. 22 (帰国予定)	外国出張
文教育学部・ 助教授	本田郁子	イタリア共和国	第21回パリ・アート・フェスティ バルにおける岩手県伝統芸能団 体公演の演出指導	11. 6. 24～ 11. 6. 30	海外研修

○平成11年度科学研究費補助金配分決定一覧

研究種目	審査区分	研究代表者 所属・職名	氏名	決定額 (千円)	研究課題
特定領域研究 (A) (2)		人間文化研究科助教授	小川 温子	1,600	急性期糖鎖による細胞外マトリックス分子の活性制御と組織修復における役割
〃		理学部教授	菅本 晶夫	2,300	CPの破れを中心としたバリオン生成Bの物理、ウィークボソン対生成過程の研究
〃		理学部教授	細矢 治夫	2,000	メゾスコピック領域でのゼンゼノイド及び非ベンゼノイド縮合多環系の電子論
〃		理学部助教授	千葉 和義	2,000	細胞内プロテアーゼ活性のin vivo, real time 測定法
基盤研究(A) (2)	一般	理学部教授	福田 豊	19,700	刺激応答型金属錯体の創製とそれらの構造、物性、反応
基盤研究(B) (1)	一般	理学部教授	中居 功	4,000	WEB, ハミルトン系の幾何学と複素力学
〃	〃	人間文化研究科教授	天野 正子	3,700	ジェンダーの視点に立ったライフスタイルの変容を促す学習に関する研究 —青年期に視点をあてて—
基盤研究(B) (2)	一般	理学部助教授	小林 功佳	900	走査トンネル顕微鏡による表面内部ナノ構造研究のための理論的基礎
〃	〃	理学部助教授	林 正男	1,500	細胞接着分子インテグリンの遺伝子発現調節
〃	〃	人間文化研究科教授	浜谷 望	2,800	四面体分子結晶の圧力誘起アモルファス化・超伝導転移・分子解離機構の解明
〃	〃	生活科学部教授	無藤 隆	2,500	保育における身体知の獲得の過程
〃	〃	理学部教授	増永 良文	6,700	3次元ムービングオブジェクトデータベースの研究
〃	展開	人間文化研究科教授	河村 哲也	1,000	数値流体力学的アプローチによる地震災害解析システムの開発
〃	〃	人間文化研究科助教授	伊藤 美奈子	2,900	地域と学校とを結ぶメンタル・フレンド制度の開発及び実用化のための実践的研究
〃	〃	生活環境研究センター教授	倉田 忠男	3,900	抗酸化・抗ストレスビタミンによる生活習慣病予防型食習慣の確立
基盤研究(C) (1)	一般	理学部教授	細矢 治夫	1,800	高次元の水素原子の波動関数の導出、表示、及びその物理的意味の発見

研究種目	審査区分	研究代表者所属・職名	氏名	決定額(千円)	研究課題
基盤研究(C)(2)	一般	人間文化研究科助教授	駒込 武	700	植民地支配下台湾・朝鮮におけるイギリス・アメリカ・カナダ長老教会の伝道と教育
〃	〃	理学部教授	竹尾 富貴子	1,000	非線形解析学と力学系の研究
〃	〃	理学部助教授	今井 正幸	600	一次相転移の誘導期間における秩序形成の解明
〃	〃	人間文化研究科教授	佐藤 浩史	600	反応性プラズマのための電子-多原子分子散乱および熱対流運動のシミュレーション
〃	〃	生活科学部教授	駒城 素子	200	環境負荷と被洗物の損傷劣化を抑えた洗浄方式の研究
〃	〃	生活科学部講師	柴坂 寿子	500	保育における人間関係の変容
〃	〃	文教育学部助教授	本田 郁子	500	東北地方における地域伝統芸能の表現技法の伝承と再開発
〃	〃	文教育学部教授	秋山 光文	900	東南アジア彫刻史上におけるドヴァーラヴァティー様式の成立と展開に関する基礎研究
〃	〃	文教育学部教授	上野 浩道	500	意識的イメージと無意識的イメージの生成過程とそれらが創造性に及ぼす影響について
〃	〃	人間文化研究科助教授	竹村 和子	900	セクシュアリティの理論構築およびその文学/映像表象の実証研究
〃	〃	理学部教授	榎本 陽子	600	主ブロックの加群カテゴリーがブラウアーカテゴリーにどの程度支配されるか
〃	〃	理学部教授	笠原 勇二	1,100	Fractional Brownian motionの研究
〃	〃	理学部助教授	山田 眞二	1,200	ねじれ型アミドの軸不斉を用いる遠隔立体制御
〃	〃	理学部教授	松浦 悦子	700	ショウジョウバエミトコンドリアDNAのA+T-rich領域の機能に関する研究
〃	〃	理学部教授	芦原 坦	500	植物のプリンアルカロイド代謝の局在性と調節機構
〃	〃	人間文化研究科教授	馬場 昭次	1,300	精子運動開始過程の解析による鞭毛運動要素の分離

研究種目	審査区分	研究代表者所属・職名	氏名	決定額(千円)	研究課題
基盤研究(C)(2)	一般	生活科学部助教授	香西みどり	600	高圧処理による野菜の硬化の機構の解明と硬さの制御の最適化
"	"	人間文化研究科助教授	村田容常	900	遺伝子組み換え植物性食品の安全性の指標としてのタンパク質発現の解析
"	"	理学部助教授	市川哲彦	1,100	可視化ソフトウェアによるマルチメディアデータ検索関数および述語設計環境の開発
"	"	文教育学部教授	石口彰	2,300	ニューラルネットワークによる理想観察者の形成と効率分析
"	"	人間文化研究科助教授	伊藤美奈子	2,400	不登校児に〈居場所〉を提供する適応指導教室の現状と今後の展開に関する実践的研究
"	"	文教育学部教授	耳塚寛明	2,300	高卒無業者の教育社会学的研究—進路指導の変容と第二次労働市場の構造を中心に
"	"	文教育学部教授	宮尾正樹	3,000	中国近代文学に表現された『学校』イデオロギーに関する研究
"	"	文教育学部助教授	和田英信	1,200	中国文学理論の表現形式に関する研究
"	"	文教育学部教授	林廣子	1,100	環境空間に応じた歌声についての音響学的検討
"	"	理学部助教授	横川光司	1,100	代数多様体の非可換ホッジ構造の研究
"	"	人間文化研究科教授	渡辺ヒサ子	1,100	フラクタルな境界を持つ領域でのポテンシャル論
"	"	理学部教授	菅本晶夫	1,600	光子—光子衝突型加速器を用いた標準模型を越える物理の現象論的考察
"	"	理学部教授	森川雅博	1,000	自己重力系の統計力学とダイナミクス
"	"	人間文化研究科教授	富永靖徳	2,800	水と液体のTHz領域の緩和と振動に対する新しい視点
"	"	人間文化研究科助教授	堀佳也子	1,700	液晶性物質の分子間相互作用と偶奇効果
"	"	文教育学部助教授	水野勲	1,000	輸送ネットワークの地域的不均等発展に関する数理モデル研究
"	"	生活科学部助教授	仲西正	1,400	高齢化社会に向けての高機能オムツ素材の開発に関する研究

研究種目	審査区分	研究代表者 所属・職名	氏名	決定額 (千円)	研究課題
基盤研究(C)(2)	一般	生活科学部助手	山野 春子	1,600	生物学的手法による紫外線遮蔽加工製品の評価法の開発
"	"	生活科学部教授	久保田 紀久枝	2,600	ショウガの新しい酵素系の解明およびその食品機能学的研究
"	"	人間文化研究科助教授	岡崎 眸	2,900	内省モデルに基づく日本語教育実習理論の構築
"	"	理学部教授	藤代 一成	2,300	フィールドトポロジー解析に基づくポリリュームレンダリングの最適化
萌芽的研究		人間文化研究科教授	春日 喬	900	MUDの利用が対人不安傾向に及ぼす影響に関する研究
"		理学部教授	真島 秀行	600	光学の数理解析学的研究
"		理学部教授	石和 貞男	800	ショウジョウバエセクロビン遺伝子群におけるアンドロビン遺伝子の分子進化学的研究
"		理学部教授	山下 貴司	500	TROLL花序論の批判的検証：カヤツリグサ科花序の形態形成を例として
"		理学部助教授	小林 哲幸	800	細胞のストレス応答に関する新規脂質性メディエーターの解析
"		人間文化研究科助手	穴山 朝子	500	ナチ・ドイツ政権下の芸術政策と文化領域に関する歴史学的研究
奨励研究(A)		文教育学部助教授	酒井 朗	900	小学校から中学校への移行における生徒の不応に教育臨床学的エスノグラフィー—学校文化の差異に注目して
"		文教育学部助教授	菅 聡子	700	読書行為を視座とした明治期における小説の流通と受容についての研究
"		理学部助教授	武次 徹也	600	多原子分子反応におけるトンネル経路モデルの開発
"		理学部助手	塚本 るみ	1,000	ショウジョウバエを主とした嗅覚レセプター遺伝子の分子進化遺伝学的研究
"		文教育学部講師	水村 真由美	700	トレーニング効果を最大にするトレーニング方法の開発
"		理学部助教授	佐藤 一郎	900	モバイルエージェント間の資源共有アルゴリズムの実装と評価
"		人間文化研究科助教授	坂元 章	1,100	テレビゲーム使用が人間の暴力性に及ぼす影響に関する研究
"		理学部助教授	武部 尚志	1,200	共形場理論の可積分系への応用

研究種目	審査区分	研究代表者 所属・職名	氏名	決定額 (千円)	研究課題
奨励研究(A)		人間文化研究科助手	伊達敦子	1,200	昆虫の抗菌タンパク遺伝子群の分子進化学的研究ーショウジョウバエセクロビン遺伝子群を中心としてー
〃		人間文化研究科助教授	大瀧雅寛	1,200	遺伝子学的手法を用いたUV殺菌水処理に伴う光回復現象の解明に関する研究
〃		人間文化研究科助手	石川百合子	1,300	歴史的な酸性雨観測データの空間的・時間的変動に関する研究

○平成11年度科学研究費補助金配分決定一覧（特別研究員奨励費）

所 属 部 局 ・ 職	氏 名	決 定 額 (千円)	研 究 課 題
人間文化研究科・特別研究員	守 山 実 花	800	13世紀のステンド・グラスにおける聖書主題の叙述手法
人間文化研究科・特別研究員	吉 原 雅 子	500	主として内包的文脈における言語の機能についての研究
人間文化研究科・特別研究員	青 木 真由美	900	超対称性模型を用いた電弱相転移における宇宙のバリオン生成
人間文化研究科・特別研究員	佐 藤 恭 子	800	超高压力下における分子性結晶の非晶質化・金属化・分子解離機構
人間文化研究科・特別研究員	洪 江 美	900	Bメソン物理を用いた標準模型とそれを越える理論の探求
人間文化研究科・特別研究員	道 信 良 子	500	北タイにおける女性工場労働者のAIDS認識とセクシュアリティの形成過程
人間文化研究科・特別研究員	原（佐藤）典子	1,200	「看取り」の社会史的考察と専門職化の問題 — 日仏看護婦の比較から —
人間文化研究科・特別研究員	小 塩 さとみ	700	長唄の音楽構造 — 「見えない理論」のモデル化 —
人間文化研究科・特別研究員	波照間 永 子	1,200	琉球舞踊における上肢動作の特性
人間文化研究科・特別研究員	弓 削 尚 子	800	ドイツ啓蒙主義と人類学的関心
人間文化研究科・特別研究員	稲葉（森） 津太子	1,200	対人知覚における文脈効果とその統制可能性の検討
人間文化研究科・特別研究員	中 力 え り	900	ヨーロッパ統合と国境地域アルザスにおける「地域語」教育運動
人間文化研究科・特別研究員	暢 素 梅	500	『論語』の受容を通して見た東アジア世界 — 日本を中心として —
人間文化研究科・特別研究員	山 腰 京 子	900	生成文法理論に基づく、移動（疑問詞移動とかき混ぜ）の第一言語習得研究
人間文化研究科・特別研究員	伊 部 規 子	900	外国への援助に関する社会心理学的研究
人間文化研究科・特別研究員	福 丸 由 佳	400	成人期における多重役割と心理的健康度について
人間文化研究科・特別研究員	藤 井 美保子	800	言語と認識の諸問題：発話と身振りの発生メカニズムの検討
生活環境研究センター・特別研究員	澤 田 留 美	1,200	脂質と必須脂肪酸代謝に及ぼす食事性因子の影響とその作用機構の解明
人間文化研究科・特別研究員	桑 田 直 子	1,200	女性の身体の近代化の比較文化史的研究 — 女子教育機関の制服導入過程を中心に —
理 学 部 ・ 特別研究員	栗 木 理 恵	900	超弦理論における時空の不確定性と正準量子化法の一般化について

所属部局・職	氏名	決定額 (千円)	研究課題
人間文化研究科・特別研究員	高比良 美詠子	1,200	領域に対する志向性が抑うつ の生起や改善に及ぼす影響
人間文化研究科・特別研究員	粕谷 伸太	1,200	素粒子論に基づくインフレーション宇宙論の諸問題について
人間文化研究科・特別研究員	坂元 桂	1,200	単純接触効果の生起条件と生起プロセス
人間文化研究科・特別研究員	善里 彩子	900	宇宙の構造形成に対する解析的アプローチ
人間文化研究科・特別研究員	森本 泉	900	ネパールにおけるインターナショナル・ツーリズムの開発効果
人間文化研究科・特別研究員	石塚 玲子	900	脳におけるアネキシンとプロテオグリカンの役割
人間文化研究科・特別研究員	小櫛 幸子	900	拡張された正準形式による超弦理論の解析
人間文化研究科・特別研究員	奥宮 陽子	500	旋律の記憶難易度を規程する要因の研究
人間文化研究科・特別研究員	寺崎 里水	800	学校文化に対する社会的合意の形成と社会階層
文教育学部 教授	窪添 慶文	500	日本における老荘思想の受容
理学部 教授	菅本 晶夫	1,200	Bの物理と弱い相互作用の現象論

○大学改革に関する講演会

お茶の水女子大学では 6月23日、文部省大学課大学改革推進室下間康行課長補佐を講師に招き、「大学改革における諸問題等」についての講演会を開催した。この講演会は、国立大学の置かれている現状を踏まえつつ、これからの大学改革を進めていく上での参考に資するため、約160名が出席して行われた。佐藤学長の挨拶の後、下間課長補佐から大学を取り巻く社会状況や大学改革の基本理念及び改革における諸問題等について詳細な説明があった。終了後には活発な質疑応答が行われ、今後の大学改革推進に有意義な講演会となった。

大学改革における諸問題等について講演する下間課長補佐



○新任教官研修会

6月23日（水）に「大学改革に関する講演会」に続き理学部3号館において「平成11年度新任教官研修会」を開催した。この研修会は、新任教官が本学の現状と課題及び事務手続き等について理解を深めることを目的としたもので、新任教官等24名が参加した。研修会では、佐藤学長による「お茶の水女子大学の現状と将来」、大口学長補佐による「各学部の現状等について」、徳丸人間文化研究科長による「大学院の現状等について」、福田学長補佐・学生部長による「厚生補導と学生センターについて」、橋本事務局長による「事務局紹介等について」の説明が行なわれた。



講義をする佐藤学長

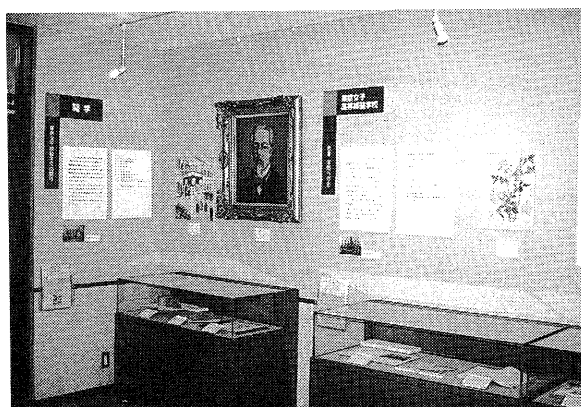
○歴史資料室の開室

お茶の水女子大学創立120周年記念事業の一環として進めておりました歴史資料室が本学同窓会館である桜蔭会館（本学に隣接）に6月25日（金）開室いたしました。

開室日等は次のとおりです。

開 室 日 月曜日～土曜日 9：30～16：00

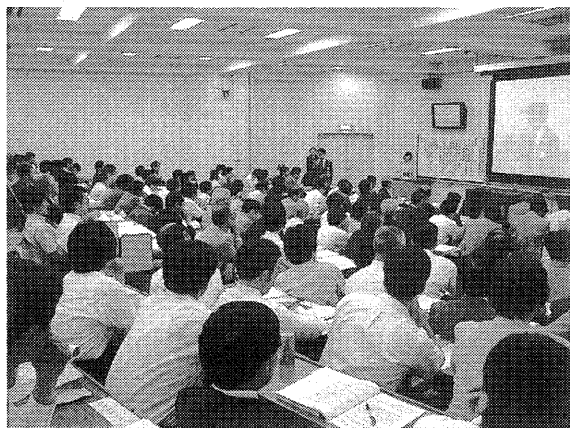
閉 室 日 日曜・祝祭日、8月12日～8月18日、12月28日～1月5日



○平成11年度第15回国立大学情報センター協議会総会

平成11年度第15回国立大学情報処理センター協議会総会が、去る6月25日お茶の水女子大学の当番校として、同大学理学部3号館において開催された。

総会では、佐藤学長の挨拶と太田学術情報課長の挨拶から、①学術情報行政の最近における動向について、②学術情報センターの最近における動向について、など報告があり、続いて、①幹事会からのアンケート集計報告、②分科会運用報告、③各地区からの報告があり、次に総合討論が行われた。



○中国 北京語言文化大学副学長の表敬訪問

中国北京語言文化大学副学長任 以珍副学長が、5月11日（火）に佐藤学長を表敬訪問した。

任 以珍副学長は、日本の外国語教育や研究の現状について佐藤学長と懇談した後、中文研究室等を視察した。



○フィリピン セントポール大学長の表敬訪問

フィリピンセントポール大学リリア・トレンティーノ学長が、5月17日（月）に佐藤学長を表敬訪問した。

リリア・トレンティーノ学長は、女子教育に貢献する本学の実状について佐藤学長と懇談した後、ジェンダー研究センターを視察した。



○平成11年度福利厚生事業スケジュール

	平成11年度福利厚生事業スケジュール	実施期間	実施場所
9月	ボウリング大会	上旬又は中旬予定	都内近郊ボウリング場
	プロ野球観戦	中旬予定	東京ドーム
10月	観劇鑑賞券配布	(3公演日予定)	都内近郊施設
	一般定期健康診断(第1回)	中旬又は下旬予定	保健管理センター
11月	バドミントン大会	上旬予定	学内
	ミュージカル鑑賞券配布	(4公演日予定)	都内近郊施設
	一般定期健康診断(第2回)	下旬予定	保健管理センター
12月	卓球大会	未定	学内
	歌舞伎鑑賞券配布	(4公演日予定)	国立劇場
	VDT検診	中旬又は下旬予定	学内
1月			
2月	麻雀大会	未定	学内
3月			
年間	東京アイズニード・メンバーシップカード 発行	随時受付	東京アイズニード
	百貨店利用割引証 発行	随時受付	指定店(三越外6店)
	自動車整備優待券 発行	随時受付	近郊指定整備工場
	東京交響楽団 割引入場券 紹介	各人申込みによる	東京近郊会場
	ジャパン・アーツ 各種割引入場券 紹介	各人申込みによる	東京近郊会場
	光藍社 各種割引入場券 紹介	各人申込みによる	東京近郊会場

なお、都合により、行事等の計画が変更されることがありますので、ご了解願います。

また、来年度以降のレクリエーションの参考とするため、11月頃にレクリエーション行事(学内事業)のアンケートを実施したいと思います。その際には、レクリエーションに対するご意見を多数お待ち申し上げます。

日 誌

- | | |
|---|--|
| <p>5月6日(木) 事務職員特別研修
 国立8大学理学部事務長会議(於:
 神戸大学)
 課長会議</p> <p>7日(金) 国立8大学理学部長会議(於:神戸
 大学)</p> <p>10日(月) 運営協議
 学部教務関係事項検討委員会
 国立大学協会50周年記念行事準備委
 員会打合せ会(於:国立大学協会)
 生活科学部カリキュラム小委員会</p> <p>11日(火) 部局長会議
 主任会議
 北京語言文化大学副学長表敬訪問</p> <p>12日(水) 教授会</p> <p>13日(木) 事務職員特別研修</p> <p>14日(金) 国立大学事務局長会議(於:オリセ
 ン)
 国立大学入学者選抜研究連絡協議会
 関東甲信越協議会(於:茨城大学)
 留学生専門委員会</p> <p>15日(土) 奈良女子大学90周年記念行事(於:
 奈良女子大学)</p> <p>17日(月) 学生の定期健康診断(～20日)
 名誉教授称号授与式
 名誉教授懇談会
 セントポール大学学長表敬訪問</p> <p>18日(火) 学生委員会</p> <p>19日(水) 六大学等事務系初任職員研修(～21
 日)(於:東京商船大学)
 カリキュラム委員会</p> <p>20日(木) 事務職員特別研修
 教職課程専門委員会作業部会</p> <p>21日(金) 国際大学協会日本協定会理事会(於
 :東大・山上会館)
 理学部カリキュラム委員会
 理学部入学者選抜方法検討委員会
 附属幼稚園防災訓練</p> <p>24日(月) 献血
 生活科学部カリキュラム小委員会</p> <p>25日(火) 部局長会議
 国立大学附属図書館事務部課長会議
 (於:東京医科歯科大学)
 予算委員会</p> | <p>大学資料委員会・歴史資料室専門委
 員会
 共用体育施設等運営委員会</p> <p>26日(水) 理学部カリキュラム委員会
 文教育学部入試方法検討委員会
 代議員会
 文部省共済組合主管課長会議(於:
 グランドヒル市ヶ谷)
 評議会
 施設計画委員会
 理学部入学者選抜方法検討委員会
 附属学校教育研究委員会
 就職指導ガイダンス</p> <p>27日(木) 事務職員特別研修
 国立大学等経理部課長会議(～28日)
 (於:東京医科歯科大学)
 附属小学校避難訓練</p> <p>28日(金) 大学入学者選抜・教務関係事項連絡
 協議会(於:メルパルクホール)
 事務連絡協議会</p> <p>29日(土) 附属高等学校体育祭
 附属小学校運動会(下学年)</p> <p>30日(日) 附属小学校運動会(上学年)</p> <p>31日(月) 開学記念日</p> <p>6月1日(火) 国立大学等施設担当部課長会議(～
 2日)(於:東京医科歯科大学)
 部局長会議
 学生関係業務に関するヒアリング
 (於:文部省)
 主任会議
 四附属校園懇親会</p> <p>2日(水) 教授会
 国立大学入学者選抜研究連絡協議会
 (～4日)(於:東大・山上会館)</p> <p>3日(木) 国立大学協会常務理事会(於:国立
 大学協会)
 国立学校及び施設等機関等庶務部課
 長会議(～4日)(於:東京医科歯科
 大学)
 事務職員特別研修</p> <p>4日(金) R I 実験室運営委員会
 国立大学協会50周年記念行事準備委
 員会(於:国立大学協会)
 国立大学国際交流担当課長会議(於</p> |
|---|--|

：東京医科歯科大学)

6日(日) 附属中学校体育大会

7日(月) 理学部3年次編入願書受付(～11日)
課長会議

8日(火) 拡大部局長会議・部局長会議

9日(水) 国立大学等学生部次課長会議(於：
東京医科歯科大学)
臨海実験所運営委員会
評議会

10日(木) 国立大学教養教育担当協議会(～11
日)(於：大分大学)
国立大学協会理事会(於：学士会館)
事務職員特別研修
自己点検評価検討委員会小委員会

11日(金) 事務連絡協議会
レクリエーション運営委員会

14日(月) 入学者選抜方法等研究委員会
人文・社会科学系学長懇談会(於：
如水会館)

15日(火) 国立大学協会第104回総会(～16日)
(於：学士会館)
ジェンダー研究センター運営委員会
生活科学部主任会議
インターンシップ導入のための研究
会

16日(水) 文教育学部教務関係事項検討委員会
留学生専門委員会

17日(木) 国立大学長会議(於：学士会館)
事務職員特別研修

18日(金) 国立大学協会事務連絡会議(於：国
立大学協会)
文部省虎の門会春季総会(於：国立
大学協会)
日本育英会評議員会(於：日本育英
会)

21日(月) ファカルティ・デベロップメント推
進ワーキンググループ
茶水会総会(於：茗溪会館)
課長会議

22日(火) 附属学校委員会
学生部披露式

23日(水) 国立大学図書館協議会総会(～24日)
(於：仙台国際センター)
大学改革に関する講演会
新任教官研修会

24日(木) 国立大学入試担当課長連絡協議会
(於：松本マウントホテル)
事務職員特別研修
教職課程専門委員会

25日(金) 創立120周年記念事業特別委員会
歴史資料室開室 披露式典・懇談会
(於：桜蔭会館)
平成11年度第15回国立大学情報処理
センター協議会総会

26日(土) 同窓連絡会(於：桜蔭会館)

28日(月) メディア教育開発センター創立30周
年記念式典(於：メディア教育開発
センター)
外国人留学生懇談会

29日(火) 就職問題懇談会(於：東海大学校友
会館)

30日(水) 理学部編入学試験
附属図書館運営委員会
附属学校教育研究委員会
カリキュラム委員会
運営協議